

ISSN 1343-439X

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第 3 号

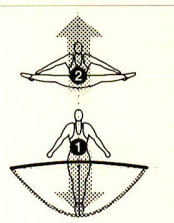


全日本大学ソフトボール連盟

結論。
ダブルウォールは、飛ぶ。

インバクトの破壊力が、打球の伸びが、弾道の鋭さが、確かに違う。
これが飛びの常識をくつがえすミズノの結論、二重管構造「DW-SPRING」。
金属バットとしては初めて、最高峰ブランド「ミズノプロ」から登場。
これからは「DW-SPRING」の前に、すべての投手が震撼することになる。

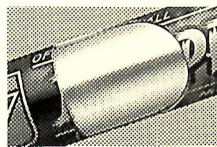
金属バットにおける飛びのメカニズムは、バットの
変形(たわみ)を復元させようとする力にある。
これを分かりやすく説明しよう。一般的に
100km/hの速球を弾き返す場合、打球部には
約2tもの力が加わるといわれているが、そのような
強い衝撃を受けるとバット壁面は扁平状に変形



してしまう。しかし、その変形を復元しようとする力が反発力に変換される
ため、結果的に“ボールが飛ぶ”のである。この働きがあたかもトランポリン
の機能に酷似していることから、金属バットがボールを弾くプロセスを我々は
『トランポリン効果』と呼んでいる。

では、そのトランポリン効果を最大限に高めるには、どのようなバット設計が求められる
のか。答えは簡単である。バットの肉厚を薄くすれば良い。なぜなら肉厚
が薄いほど壁面の変形量が大きくなる。つまり、より強力な反発力が
バットに発生するからだ。しかしバットの肉厚を薄く設計し過ぎると永久
変形(へこみ)が起きるなど、とても実戦で耐えうる強度は得られない。
薄肉設計と高強度。この相反する要素を高次元で両立し、新たな飛
距離の可能性

『二重管構造』である。ダブ
を拓いたのが『二重管構造』ルウォールと



も呼ばれるこの構造、例えばバット中空部に
もう一本のバットを内蔵させたような構造で、
外壁の変形を内壁で受けとめることにより衝
撃を分散。薄肉ながらもバットの耐久性を可

能なまでに高めたものである。しかも向上したのは強度だけではない。薄
肉による高反発力に加え、インバクト時に内壁の持つ反発力までもが外壁
へと伝達されるため、従来『体感値 約10m*』
モデルと比べて打球の伸びに

もの差が表れたのだ。また反発係数の測定結果では、従来モデルより数
値が約3%アップ。この3%という数値は小さく思えるかもしれないが、
金属バット製造の技術的には非常に大きな進歩といっても過言ではない。
ダブルの壁のトランポリン効果によるダブルの反発力。机上の理論では
なく実打データが証明する飛びの性能。破壊力で、飛距離で選ぶなら、

結論はミズノプロ「DW-SPRING」である。

* フィールドテストの結果

〈ミズノプロ〉DW-SPRING ¥28,000

2TO-79240 84cm・平均745g・780g(ホワイト) ホトル型
2TO-79250 85cm・平均820g(ブラック) ホトル型
2TO-79340 84cm・平均725g(ホワイト)・750g(ブラック) セミホトル型

●ZR09 ●二重管構造 ●ホワイト、ブラック ●φ57mm
●重・コムホール用

〈ミズノプロ〉DW-SPRING ¥26,000

2TO-79440 84cm・平均700g・740g ホトル型
2TO-79540 84cm・平均740g セミホトル型

●ZR09 ●二重管構造 ●ネイビー ●φ57mm ●コムホール用

Mizuno Pro
DW-SPRING **New**



スポーツあげたい。
スポーツほしい。
全国共通スポーツ券

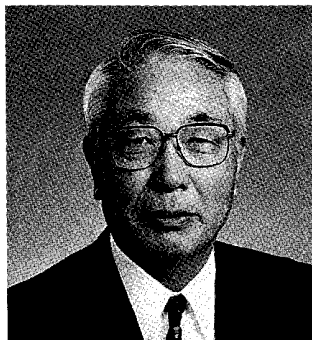
●ミズノ・インターネット情報は — <http://www.mizuno.co.jp>
●記載価格はすべて税抜き価格です。消費税相当額はお客様にご負担いただくことになります。
●ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は — 「ミズノお客様相談センター」
東京 TEL (03)3233-7110 FAX (03)3233-7217 大阪 TEL (06)6614-8110 FAX (06)6614-8463



全日本大学ソフトボール連盟

「ウインドミル」第3号発刊によせて

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長
大内敬哉

昨年に引き続き全日本大学ソフトボール連盟機関誌「ウインドミル」第3号が発刊されることになり、誠にうれしく存じます。編集にご協力を賜りました諸先生方には心より感謝申し上げます。

さて、われわれは2000年という歴史の大きな節目を迎えようとしています。今世紀のスポーツ全般について振り返るとき、スポーツの大衆化・国際化が、これほどまでに進展するとは、誰が予想し得たでしょうか。スポーツが政治・経済・社会・文化というわれわれの生活の側面まで関わるような時代は過去になかった現象でありましょう。

これが真に情報社会であり、「ウインドミル」の存在意義を見出せるものと考えます。学連の唯一の機関誌として、21世紀へのさまざまな情報の発信地となるべきさらなる発展を祈念し、第3号発刊のご挨拶といたします。

ウインドミル

第3号

目 次

ごあいさつ ● 「ウインドミル」第3号発刊によせて	1
会長 大内敬哉	
〔研究報告〕 ● 大学・短期大学のスポーツ指導を考える	4
久保田豊司・森田啓之	
パワーアップを考える	11
田路秀樹	
〔論 説〕 ● コーチは如何にあるべきか	14
後藤静夫	
〔特別寄稿〕 ● ソフトボールのためのビジュアルトレーニング	16
石垣尚男	
調査・研究委員会から ● 投稿規定・執筆要項	20
編集を終えて	21
森田啓之	
原稿並びに研究企画などの募集	21
〔報告〕 ● 東京女子体育大学アジア選手権で準優勝	22
平成11年度の事業報告と今後の課題	26
理事長 末井健作	
全国大会の記録 ● 文部大臣杯第34回全日本大学選手権大会	27
第26回全日本大学男子・女子ソフトボール 東西対抗	34
第5回全日本女子短期大学ソフトボール大会	36

第31回西日本大学ソフトボール選手権大会	38
----------------------	----

第14回東日本大学ソフトボール選手権大会	40
----------------------	----

第51回全日本総合男女選手権大会	42
------------------	----

各地区の大会結果●北海道・東北地区	春季大会	44
	秋季大会	45
関東地区	春季大会	46
	秋季大会	48
北信越地区	春季大会	50
	秋季大会	51
東京地区	春季大会	52
	秋季大会	54
東海地区	春季大会	56
	秋季大会	60
関西地区	春季大会	64
	秋季大会	69
中国地区	春季大会	74
四国地区	春季大会	76
	秋季大会	78
九州地区	春季大会	80

資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	82
平成11年度加盟大学一覧	87
平成11年度連盟功労賞受賞者	89

編集後記	90
------	----

【研究報告】大学・短期大学のスポーツ指導（部活動）を考える

ー日本代表・高山樹里選手へのインタビューを端緒にしてー

久保田豊司（大阪国際女子大学）

森田啓之（兵庫教育大学）

はじめに

今春、女子ソフトボール日本代表の高山樹里選手と対談する機会を得た。アトランタオリンピックでの女子ソフトボール4位入賞は、代表選手全員の頑張りがもたらされたことながら、高山選手を含む大学生選手の活躍抜きには考えられないであろう。この活躍により、大学ソフトボール界が見直されたのは周知の事実であり、これからの一層の発展が期待される学生スポーツであるが、一方では、社会的に問題とされる事件も発覚している。

このような状況の中、学生スポーツのあるべき方向について、再確認することは意義あることと思われる。本稿では、4年間の大学生活の中で構築された高山選手のソフトボール観を踏まえ、今日の社会における人間とスポーツの関わり方、これからの大学・短期大学におけるスポーツ部活動の在り方について考えてみたい。

I. 日本代表高山樹里選手のソフトボール観

対談の目的は、ソフトボールの普及・発展に寄与する内容の構築であった。それらをより現実に近づけるため、高山選手が経験した技術的なことから学生生活全般に至るまで、幅広く意見を伺ってみた。その中から、今後のクラブ指導・運営、学生生活の参考になると思われるいくつかの点を、以下に紹介する。

1. 国際試合で感じたこと

Q：いきなりですが、オリンピックを始めアジア大会等の国際試合で、ソフトボールにおける日本と世界との違いを感じたのはどのような点ですか。

A：パワーですね。そして、外国の打者は一人ひとりに個性があり、打席毎に投手に対する攻略方法が違います。それに比べ、日本のチームは似たような打者が集まってしまい、それがそのままチームの弱点となるパターンが多いですね。また、一試合を通して打者は、外国選手のように頭を切りかえて打席に立つことが少し劣っていると思います。外国選手の方が頭を使い、投手と打者の駆け引きを楽しんでいるように見えます。私も、外国チームと試合をする時はいつも勉強させられます。

Q：他に国際試合で何か違いを感じたことはありますか。

A：外国チームの練習を見ていると、個人個人がしっかりと課題・意志を持って練習をし、それがまとまってチームプレーになるという感じがします。今までいろいろ見

てきましたが、日本の場合は集団練習を中心として行うので、チームワークなど選手同士のつながりは上手につくれます。ただ、それだけでは勝負に勝つことはできないので、選手それぞれの能力を高める練習を取り入れることが良いと思いました。

2. 投手としての技術

Q：何種類か球種を持っていると思うのですが、それぞれについて出来る限り同じフォームで投げようと意識はしていますか。

A：ストレート、ライズ、チェンジアップの3種類しか球種はありませんが、同じフォームで投げようと意識しています。また、ボールの握りについては、球種によって握りを変えると投手を見る位置によっては握りが見えますので全部同じにしています。

Q：打者に対してどのような攻め方をしてみたいと思っていますか。

A：生きた球をいつも投げたいと思っています。でも意識していても毎回投げられるわけではないので、ストレート、ライズ、チェンジアップでコーナーを上手く攻め、ここぞという時に確実に自分の一番良い球を投げたいと思っています。試合の流れを意識しながらピッチングをしています。

Q：自分の思っているコースに投げる時に、意識するところはどこですか。

A：腕だけでも下半身だけでもダメなので、身体全体を使って投げるように意識しています。自分の頭の中にアウトコース低めと思ったら、身体が自然と動いています。あと、ボールリリース時の指の掛かりを意識します。

Q：試合当日、ピッチングの調子が悪いと感じた時は、どのようにしていましたか。

A：そういう時はありますよね。本来、自分は攻めの投手ですが、そういう時はへなちょこボールでもいいからコースコースを丁寧について、打たせてアウトカウントを取っています。捕手も調子が悪いと思えば、打たせてアウトカウントを取りにいいこうと配球するし、良ければ三振を取りに行く配球を考えてくれます。

3. 投手の育て方と育ち方

Q：投手を始めたのはいつ頃からですか。

A：小学校1年生でソフトボールを始め、上級生に投手が少なかったため3年生から自分が仕方なく投手をしました。最初は、友達のお父さんに教えてもらい遊びながら投げてました。ある程度形になったのは、5、6年生になってからです。

Q：自分が投手として成長してきた中で、どのような指導が良かったと思いますか。

A：ある程度投げれるまで気長に見守ってくれたこと。他に、自分が経験してきた中で、指導ビデオを見るより、練習・試合でいろんな経験をさせてあげた方が良いと思います。私も、試合を見て人のマネをしながら、自分でいろいろ考え試して投げてました。自分の目を見て、たくさんのことを感じて欲しいですね。

Q：投手の指導で、何か気になることはありますか。

A：小・中学生を中心とした講習会に行っていていつも思うのですが、子ども達が投球練習をしていると、親または指導者が一球一球横でうるさく注意するんですね。小さい時からガミガミと言われると、面白くなくなりますよね。興味やヤル気を持たせるように指導する必要があると思います。自分が子どもの時は、「こんな感じで投げたら」とやさしく（軽く）と言われると、好き勝手にポンポン投げ、投げているうちに自分の型ができてきて、「こうやって投げないといけないのかなあ」と思うようになってきて、練習しようと思ったんです。

4. 投球練習について

Q：練習内容について、どのようなことをよく質問されますか。

A：練習では、何球投げますかという質問が多いですね。困るんです。80～100球ぐらい投げてます。冬場は少し減らしますが、基本的には数えません。

Q：それには何か理由があるんですか。

A：別に特別な理由はありませんが、その時の体調や大会等での調整を含めて考えながら投げています。あと、気持ちが集中できてない場合は、投げてでも自分のためにならないので、2、3球でやめたり感覚だけで終わらせます。

Q：感覚とは。

A：感覚とは、ボールに対しての指の引っ掛かりです。集中している時は、ちゃんとその日に決めた課題が出来るまで投げますが、それでもたくさんは投げません。肩は消耗品なんで。あと、延長に入ったことも考えて、自分の中で決めた課題についてはそれに対応する練習をしています。

Q：トレーニングとかはどうしていますか。

A：自分が良いなあと思うことしかやらないです。「あの人がやってるから」という理由ではやらないです。内容もそんなに皆さんと変わりません。水泳は小さい時からやっているのでも今も続けています。

5. 学生生活を通して

Q：4年間の学生生活を通して、何か強く感じたことはありますか。

A：人を見てみると、目的をもって行動している学生とそうでない学生とでは吸収の度合いが全然違います。ソフトボールでも言えることですが、やりたくて入部してきた人は本当に良く伸びていくと思います。

Q：大学ではソフトボール以外にたくさんを経験したと思いますが、自分の中で高校とは違うなあと感じた点がありますか。

A：高校の時は、ソフトボールだけして何も考えませんでした。それが、良かったのか悪かったのかはわかりません。しかし、大学生活を送りながら、「自分がどうあるべきか」というのが段々とわかってきたような感じがしました。

Q：大学の指導とは、どんな感じでしたか。

A：日体大の小川先生からは、高校の時の押しつけでやるソフトボールではなく、自分達で考えて実行するように指導を受けました。「自由の中でも厳しさ」を教えて頂いたと思います。

II. スポーツ部活動について

ここでは、大学・短期大学のスポーツの在り方を考えるための予備作業として、スポーツ部活動をめぐる現状について素描してみる。

1. 指導の現状

スポーツ科学への関心は年々高まってきており、指導の際に科学的な知識や考え方を取り入れている指導者はずいぶん増えて来ている。しかし、一部であるが今も非科学的な指導等が原因となって、「スポーツ嫌い」「バーンアウト（燃え尽き症候群）」「ドロップアウト（チームや競技自体からの離脱）」を生じさせている現実もある。このような中、スポーツ指導に関わって次のような言葉をしばしば耳にする。それは、「結果として、勝ち負けが重要なことではない。いかに練習したことを出して戦ったのか、ということの方がもっと重要なのである」と。指導者なら誰もが納得する「結果より内容」を重視する表現である。しかし、いつしかこれは次のような言葉に置き換えられもする。「勝つことだけがすべてでない。だが、勝たなければ練習してきたことの意味をなさない」と。それは、まさに結果を重視するプロ・スポーツ化への変容とすることができよう。そして、人々はいつのまにか「勝利」に絡んだことなら、それが由々しきことであっても容認するようになる。つまり、手段もしくは実際のやり方が、本来ならば首を傾けざるを得ない場合であっても、勝ちさえすればそれらがすべて正当化されてしまうスポーツ界特有の風潮である。さらに、マスメディアはその内容がどうであれ、偉業を成し遂げた者を美辞麗句で飾り立て、その結果を賛美し、とにかくヒーロー・ヒロイン化して持て囃し、それを報道の主流とした。つまり、勝てば官軍であり、敗戦は屈辱以外のなにものでもないのである。スポーツにおいて問題とされること、例えば、指導者の金銭トラブル、部員の暴行、非人道的行為などに象徴される、指導者及び一部の選手並びに保護者のスポーツ観を歪めることに、このような報道が少なからず影響していることは事実であろう。

2. スポーツ部活動の位置づけ^(注)

スポーツ部活動はその成立期から今日まで、学校教育活動の一環として位置づけられてきた。一方、スポーツ部活動はスポーツを行うために組織された機能集団であることから、それは競技力の向上や、試合での勝利を目指す競技活動でもあった。スポーツ部活動は、このように本質的に二つの性格、すなわち教育性と競技性を合わせ持った集団として現在に至っている。この二つの性格である教育性と競技性が調和している状態では、社会的に問題となるようなことは生じないばかりか、むしろ競技性は教育にプラスに作用していた。

しかし、一般に競技レベルが高くなり競技性が教育性を押しつけていくと、様々な問題が出現し始めると言える。具体的には、勝利至上主義による競技性の過熱であり、スパルタ的練習による身体的障害の頻発であり、オーバー・トレーニング症候群などの心の歪みである。そして、それらは後述するスポーツ部活動の教育的価値とともに、スポーツの本質的価値（プレイ欲求の充足）さえも失わせてしまったのである。今日の大学・短期大学のスポーツ部活動に関する社会的問題は、このような背景のもとに起因していることを忘れてはならない。

Ⅲ. 大学・短期大学に求められるスポーツ部活動

1. スポーツ部活動の在り方

本来、大学・短期大学でのスポーツ部活動は、スポーツという文化的活動に共通の目的や関心を持ち、学生が自らの欲求・意志に基づき集い、協同して組織的、継続的に行動する仲間的集団である。そして、そのキーコンセプトは「自主性」と「自律性」、そして「自治性」という言葉で表現できる。それらは高山選手との対談からも示唆されており、大学・短期大学に求められるスポーツ部活動の根幹に関わる重要な命題であると思われる。今日まで、大学・短期大学としてのスポーツ部活動については、指導面・運営面において十分な議論及び具体的な工夫・対策はなされていない。強きも弱きも競技力向上・勝利志向か、自治という言葉の上に学生まかせの放任かのいずれかに偏った運営が行われていたのが現状である。

また、昨今、スポーツ活動を教育機関のみでなく、これまでとは異なる方法（例えば、地域総合クラブ）で実施していくことも模索されている。これらが早急に展開していくとは考えられないが、学校での部活動はその1つとして相対的な位置付けとなっていくことは十分に予想される。このような状況を鑑みると、今こそ大学・短期大学におけるスポーツ部活動の存在理由や在り方を明確にする必要がある。

2. スポーツ部活動により学生に何を体験させるべきか。

ここでは、まず「スポーツの価値」について考え、その上で最終目的としての「大学・短期大学としてのスポーツ部活動の在り方」に迫ってみる。

「スポーツの魅力」

スポーツは楽しくて、そしておもしろい。このスポーツを通して体験できる「楽しさ」「おもしろさ」「喜び」が、スポーツの魅力である。そして、今やスポーツは国民の大多数が愛好する文化活動の一つになっている。こういった現象を起こす、スポーツの具体的な魅力とはどこにあるのだろうか。何らかの目標にチャレンジし、その達成感・充実感に魅力を感じる者、勝利をおさめ高い競技結果や記録を期待する者、充実した余暇を過ごすためにスポーツをする者、スポーツを通して仲間を広げ仲間との交流を楽しむ者、健康の

維持・増進のためにスポーツをする者、リハビリテーションの一つとしてスポーツに取り組む者など、このように多岐にわたりスポーツ活動が展開されている。人々はスポーツに何を期待し、どのような楽しみを求めているかは人によって異なるが、人々の様々な欲求や要求を満たす豊かな世界をスポーツは内包している。

「スポーツの本質的価値と教育的価値」

スポーツの中核的要素として「プレイ（遊び）性」を挙げる人は多い。プレイ論の出発点であるホイジンガ(Huizinga, J.)は、『ホモ・ルーデンス』において、プレイにとって必要不可欠なものとしての第一に、「プレイは自由な行動である」と指摘した。この自由・自発性こそスポーツそのものの存在価値であり、文化として大きな意義を有している点と考えられる。すなわち、スポーツの本質的価値である「たのしさ・おもしろさ」は、スポーツ活動が「誰からも強制されるのではなく、自分が好きで楽しいからする」というところにおかれている。このように、スポーツはすること自体を目的とする「自己目的的」活動と理解される。しかもスポーツには、活動のしかたによっては付加価値の高い活動であり、現代社会においては次のような教育的効果が期待されている。

1. 活発な身体活動を伴うので、健康の維持・増進や体力の向上に役立つ。
2. 集団によるスポーツは、協力、責任、公正などの社会性を養い、人間関係をスムーズにできる力を養う。
3. 人と人との競争や困難への挑戦は、勇気、判断力、決断力、積極性などの意志や意欲を強くする。
4. スポーツをした後の壮快感、充実感は心地よいものであり、ストレスの発散などに役立つ。

ただ、その反面、スポーツをしすぎて身体的障害を起こしたり、勝敗にとらわれるあまりに不正なことが行われているのを忘れてはならないだろう。

ここまで述べてきたように、スポーツは本来、個人の自発性にもとづく自由な活動であり、自己実現・自己表現を目指す活動である。前述した効果を、本質的な目的として行う活動ではない。しかし、スポーツは活動の形態によっては付加価値の高い活動であり、人生をより豊かにできる力があると、まず捉えておくべきである。

「大学・短期大学としてのスポーツ部活動」

これからの大学・短期大学に求められるスポーツ部活動の存在価値とは、どのようなものであろうか。そこには、大学・短期大学における独自性、地域社会への貢献の意義も含まれていなければならない。端的に表現すると、それは前述したキーコンセプト「自主性」と「自律性」、そして「自治性」にある。

ソフトボールの試合を例に取るならば、選手（学生）は自分の技術や戦術を駆使し、一瞬の判断でその局面を切り開いていく。そして、それは自らの意志で十分な練習を積んだ選手ほど多くの選択肢を持ち、効果的にその局面を打開していくことが出来る。このとき

選手は、自らの頭で考え判断を下し行動するのである。練習及び試合において自主性・自律性を持ってプレーを行うのである。また、選手（学生）達は、監督・コーチ、教職員、卒業生等の助言を踏まえて、部のアイデンティティを明確にし、日頃の部の活動から練習試合、公式試合に至るまで、部の運営全般にわたって自分達の頭で考え行動するのである。つまり、一人ひとりが主体的であるということになる。これこそがまさに、大学・短期大学におけるスポーツ部活動の在り方であろう。そこには指導者が、「協調性や社会性を身につけさせる」、「精神力や責任感を育てる」などといった、部活動を手段として捉える姿が前面に出てくるのではなく、スポーツ部活動に関わった全ての場面（練習も試合も）が、彼ら彼女らの自己表現の場と捉える必要があるのではないだろうか。前述したようにスポーツは、手段的な側面（教育的効果）と本質的な側面（プレイ欲求の充足）の二つの機能を持ち合わせている。ただ、これまでのスポーツ部活動の大半は、スポーツの手段的な側面を重視した偏った指導でなかったろうか。スポーツは、人間性を豊かにする可能性を持っているとすれば、望ましいスポーツの可能性を実現させるためにも、何かのためのスポーツから本来のスポーツを取り戻す必要がある。

スポーツは、「人間が人間らしく生きる」ための諸条件を内包しているのである。スポーツは、人間を豊かにするためのひとつの有効な方法であっても、万能薬ではない。このことを踏まえ、今後、自分自身の創造・自己実現という言葉の中に、改めてスポーツの価値を捉え直してみる必要があるのではないだろうか。

最後に、勝つことはスポーツにおける至上の唯一の副産物であるが、大学・短期大学におけるスポーツ部活動では必ずしも不可欠なものではないであろう。活動しているのは、大学生・短期大学生である。換言するなれば、彼ら彼女らは、文化としてのスポーツを次世代の人間に伝承する人々、表現を変えれば、指導的立場に立ってスポーツの素晴らしさを伝えていく人なのである。

おわりに

本稿では、大学・短期大学におけるスポーツ部活動の在り方を大まかに描き出してみたに過ぎない。したがって、今後熟考すべき点が多い。例えば、キーコンセプトとして挙げた「自主性」や「自治性」といった概念には、どのように「指導」と関わらせていくべきなのかといった問題である。言い換えれば、自主性や自治性を「育てる」という視点も少なからず持つておく必要がある。まさに「放任」というままでは不十分なことは明らかであり、今後はこれらの点についてより具体的な議論が望まれる。

注) ここに関わっては、拙稿を是非とも参照されたい。

森田啓之「運動部活動における『競技力向上』の問題性－『対外運動競技基準』の緩和をめぐる－」、体育・スポーツ哲学研究15-1, pp3-16, 1993.

田路 秀樹（姫路工業大学環境人間学部）

パワーを高めるということは、全ての競技スポーツに於いて、重要な体力要素である。そこで、各競技種目毎に様々なトレーニングを駆使し、パワーアップを図る練習を実施している。しかしながら、その負荷条件について統一した見解はなく、試行錯誤でのトレーニングが行われているのが現状である。筆者は、パワーを高めるための有効な負荷条件について、単一負荷、複合負荷にわけてトレーニング実験を実施し、若干の知見を得ることができた。まだまだ、問題点は残っているが、この実験結果を現場でのトレーニングの参考していただければ幸いである。

1. 単一負荷でのトレーニング

最大パワーを高める効果的な負荷条件を検討するため、図1に示した装置を用いて上腕を屈曲させるトレーニングを行なった¹⁾。トレーニング群は、①等尺性最大筋力（以後最大筋力）を1日10回発揮（G100）、②最大筋力の60%負荷を1日10回反復（G60）、③最大筋力の30%負荷を1日10回反復（G30）、④無負荷（空振り）を1日10回反復（G0）の4つに分け週3日、12週間のトレーニングを行った。その結果、最大パワーはG30が最も高い増加を示し（図2）、金子⁴⁾が「最大パワーは最大筋力の約30%で出現する」と報告していることから、最大パワーを高める負荷条件と最大パワーが出現する負荷とが一致することになる。また、同図より最大筋力は、最大筋力でトレーニングしたG100が、最大速度は空振りを行ったG0に著しい効果が見られた。これらの結果から、トレーニングはそれぞれの目的に応じた負荷条件で最も効果的であり、トレーニングの特異性（specificity）が存在することが示唆された。

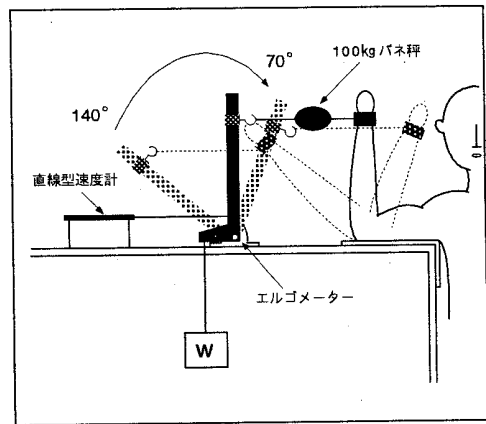


図1 腕屈強運動の模式図

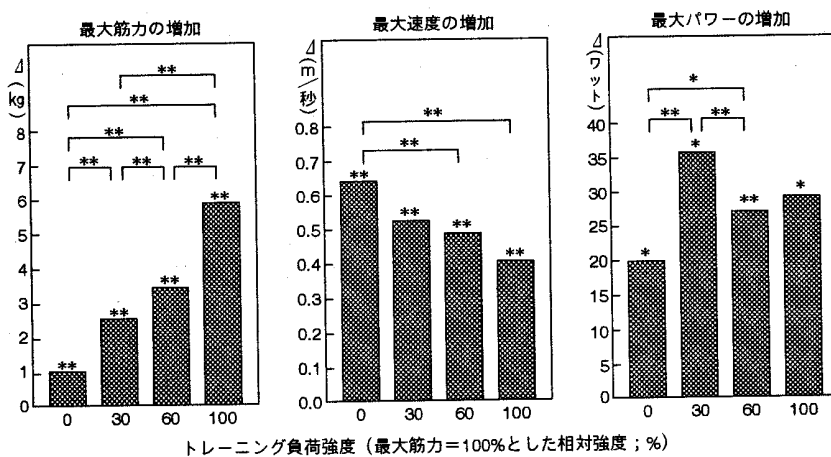


図2 単一負荷におけるトレーニングが最大筋力、最大速度、最大パワーにおよぼす影響

して垂直跳びを高める負荷について実験を行った。設定したグループは、①垂直跳びを1日10回（Gj）、②被験者と同程度の体重のパートナーを“肩車”で背負い、フルスクワット姿勢から立ち上がる脚伸展運動を1日10回（Gs）、③膝関節を120度に固定し、最大脚伸展力を1日3回発揮する（Gi）3群で、週3日10週間実施した。この結果、垂直跳び高はGj、

次に筆者ら²⁾は、パワーの指標として垂直跳びをとりあげ、中学生を対象に

Gsにのみ有意な増加を示し($G_j > G_w$), G_i は低下する傾向を示した. また, 同時にパワーテストとして測定した立ち幅跳びや50m走の成績には3群とも明らかな増加が認められなかった. この様な結果は「動作の特異性」と言われ, 高めたい動作を繰り返しトレーニングすることの重要性を示唆するものである. さらに金子ら³⁾は, 体重の20%の砂をつめたウエイトジャケットを着用して垂直跳びを1日10回行う群(G_{wj})と垂直跳びだけを1日10回行う群(G_{fj})とに分け, 週3日, 10週間のトレーニングを実施した. その結果, 1) 跳躍高は G_{fj} のみに有意な増加, 2) 跳躍によってなされた力学的仕事は, G_{fj} の方が G_{wj} よりも高い増加, 3) 仕事をキック時間で除して求めた平均パワーは, G_{wj} において有意な低下を示したと報告している. これらの結果から, 重いバットでの素振りはパワーの低下をもたらしているのではないのだろうか. また, 筋力トレーニングをする必要はないのだろうか等の疑問が起こる.

2. 複合負荷でのトレーニング

上記の疑問に対し, 実際のトレーニングでは単一負荷ではなく複合負荷が用いられていることから, 筆者ら⁵⁾は複合トレーニングの有効性の実験を行った. パワーの指標として再度垂直跳びの跳躍力の向上を目的とし, ①垂直跳びの1日10回, ②垂直跳び(1日7回) + アイソメトリックトレーニング(1日3回), ③垂直跳び(1日5回) + ウエイトトレーニング(1RMの50%負荷でのスクワット運動; 1日5回)の単一負荷と複合負荷を設定し, 週3日, 8週間の実施し比較してみた. その結果跳躍高の増加は, 群間に有意な差は認められないものの“垂直跳び+ウエイトトレーニング”に軍配が上がった. つまり, 特異性の原則とオーバーロードの原則が不可欠であり, 動作のトレーニングと筋力トレーニングは並行して実施したほうがより効果的であるということである.

次にパワーは, 「力×速度」で表すことができるため, 複合負荷を考える場合, 「力と速度のどちらの要素が重要であるか」という疑問がでてくる. そこで, 単純な腕屈曲運動に再度戻り, 基礎的な実験を実施してみた⁶⁾. 負荷条件は, 最大筋力の30%(特異性の原則)を基に①30% × 5回 + 100% × 5回, ②30% × 5回 + 0% × 5回(空振り)であり(図3), この

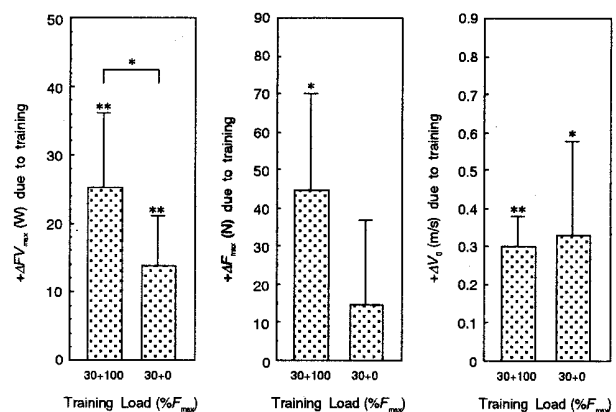


図3 最大パワー, 最大筋力, 最大速度におよぼす複合トレーニングの効果

トレーニングを週3日, 11週間行った. 図3が示すように最大パワーは“30%+100%”のアイソメトリックを複合した方が明かな増加を示した. この事は, 素振りのようなトレーニングよりも, 筋力トレーニングを複合させる方がパワーアップには重要であることを示唆するものである.

さらに, 特異性の原則と筋力トレーニングを複合させる上で, アイソメトリックとアイソトニックのどちらが有効であるかを腕屈強運動を用いて検討した⁷⁾. 負荷条件は, ①30% × 6回 + 100% × 6回, ②30% × 6回 + 60% × 6回, ③30% × 4回 + 60% × 4回 + 100% × 4回の3種類の負荷を設定し, 週3日, 8週間のトレーニングを実施した. その結果, 図4

に示したように、アイソメトリックとアイソトニックとの比較ではアイソトニックに軍配が上がったが、最も効果があったのは30%+60%+100%の3種類の負荷を実施した群であった。そこで、最大パワーと相関の高い要素を調べてみると、最大パワーと60%負荷の速度との相関がトレーニング後に非常に高くなり、10,20,30,45%の各負荷の速度とほぼ同じぐらいになることがわかった。つまり、力-速度を考えた場合、最大筋力を増加させ、種々負荷条件に於ける収縮速度の向上によって全体的に力-速度曲線が上昇し、パワー

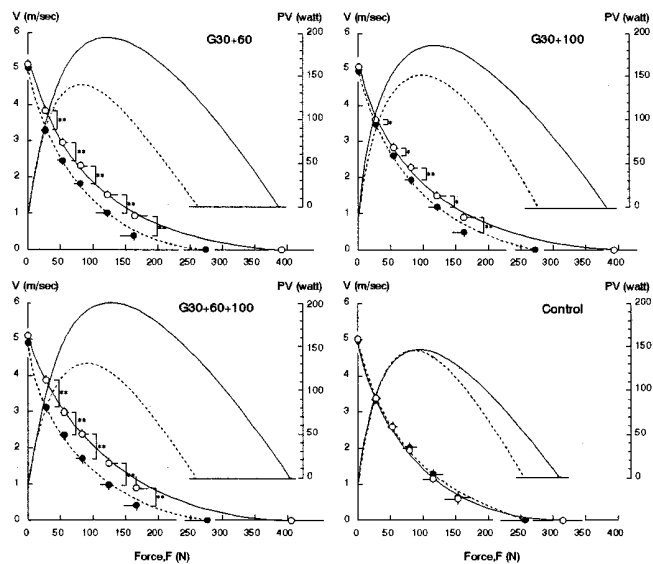


図4 複合トレーニングが力・速度・パワーにおよぼす影響

が増大するということである。これらの結果から、重いバットでの素振りのトレーニングは、それだけを行うのではなく、軽いバット、重いバット両方を使用して素振りを行うと同時に、最大筋力を高める筋力トレーニングも平行して実施すればスウィング速度におけるパワーアップが図れるのではないかと考えられる。

最後に、アイソメトリックを含め種々負荷でのトレーニングにおいて、収縮速度が重要となるので、常に最大努力で実施するという心を心がけてほしい。

参考文献

- 1) 金子公宥, 瀧本隆文, 田路秀樹, 末井健作 (1981): 人体筋の力・速度・パワー関係に及ぼすトレーニング効果. 体力科学 30 (2): 86-93.
- 2) 金子公宥, 末井健作, 田路秀樹, 瀧本隆文 (1983): 瞬発力におよぼす筋トレーニングの効果. 体育科学 11: 24-30.
- 3) 金子公宥, 瀧本隆文, 藤川浩喜, 林原修一 (1986): 跳躍トレーニングにおけるウエイトジャケット着用の効果—女子中学生を対象として—. 体育科学 14: 22-28.
- 4) 金子公宥 (1974): 瞬発的パワーからみた人体筋のダイナミクス. 杏林書院, 東京.
- 5) 田路秀樹, 末井健作, 金子公宥 (1989): 跳躍のパフォーマンスにおよぼす複合トレーニングの効果. 体育の科学 39 (4): 305-308.
- 6) Toji, H., Suei, K. and Kaneko, M. (1997): Effect of Combined Training Loads on Relations Among Force, Velocity, and Power Development. Can. J. Appl. Physiol. 22(4):328-336.
- 7) Toji, H., Suei, K. and Kaneko, M. (1999): Effect of Combined Training on force, Velocity and The Power Relationship using Isotonic and Isometric Training Loads, 17th Congress of International Society of Biomechanics: 800.

後藤 静夫（相模女子大学）

各大学でコーチ制を採用しているチームは多い。そうしてその働きによって、チームが好成績を挙げる場合も多い。昨年の関東大学選手権大会では、コーチを置いているのは男子 32 校中 18、女子 18 校中 10 と共に半数以上であり、中には 1 チームに 2 名のコーチを登録している大学もある。しかも、コーチの実情は各校によって差異があり、総合的に見て、功罪半ばしているといえる部分もあるように思う。

コーチの重要な任務の一つに、選手への技術指導またはアドバイスという面がある。各選手は、出身高校でそれ相当活躍した経歴を持っていると、プライドもあり、自信もあって、性格もまちまちであるから、指導法についても画一的には処理できない面が出てくる。ここに保健体育という学校教育への繰り込みが必然的に起こってくる。つまり、コーチは調教師ということであり、その点が実業団やクラブチームと根本的に異なる点でもある。技術指導というのは、単なる投打走の基本に、もっと人間として、あるいは人格として育成に寄与しなければならない教育者の眼が必要であるということである。自分の感情や情熱がそのまま選手にいつも伝わるとは限らないし、また、逆効果の場合もあることを忘れてはならない。聞くところによると、プロ野球のコーチなどは頭から教えようとせず、選手が質問してきた時にのみ、自分の意見を述べるそうである。これも人によっては考えが色々あるから、信念を絶対ということにすり替えると、選手の反発や反感を買う危険があるからに他ならない。自分の意図するところを間違わず伝達できるか。コーチの大切な資質に関わる点だと思う。

さらに、コーチは自分だけの方針ではチームの運営はできない。全体の総括をするために監督がいるからである。簡単に言えば、コーチは監督と各選手とのパイプ役を果たせられるかということで、自分だけ突出することはゆるされないものである。しかも、監督の存在も千差万別で、チームによっては全く名前だけであり、計画から選手の起用、果てはゲーム中のサインまで、すべてコーチ任せでというところもあれば、些細なことまで一つひとつ監督の指示を仰がなければならないというところもある。しか

し、一番気をつけねばならないのは、コーチが主役になってはいけないということである。自己の技量を過信して監督を無視することは決してしてはならない心得である。監督が任せてくれたのはコーチを信頼したからであり、だからこそ独断行動は慎まなければならない。案外、強豪チームにこの型があるのは教育の面から見ても好ましいとは言えないと思う。

したがって、コーチの運動経歴を無視して、立派な教師を得ることはできない。その出身は、(1)教職員が部活として指導している、(2)社会人である卒業生がボランティアとして参加している、(3)上級生が下級生を指導している(この場合は主将を兼ねる場合が多い)、(4)全く外部から実力者を招聘している(この場合は父兄を含む)の、以上4例がほとんどだと思う。いずれの場合でも、ケース・バイ・ケース(case by case)で、これが最善だと断定できないが、その監督の考えなり、方針なりに沿って監督に協力するコーチが必要であることは間違いない。監督と選手の間にとって信頼されることが、“技術指導”の最大の責務となることを忘れてはならない。

こうして各大学で活躍しているコーチは、それぞれ経歴は違うが、情熱を持って学生を指導しているのだが、その期間は割合短いものが多い。これは各自の事情にもよるが、その待遇が恵まれていないということも原因の一つではないだろうか。それも正式の監督に任用された場合は、教職員に準じた扱いを受けることもできるかもしれないが、コーチとなると全くパートの臨時雇という見方をされやすいのではないか。その技術の高さに報いられる処遇をしてくれるように、学校当局にスポーツ理解をお願いしたいものである。コーチは今までは野球の出身者が多く、そのために楽しんでソフトボールができるなら満足だという気風があるが、大学はもっとコーチを正しく遇し、また、責任を負わすべきである。某大学の教授である監督さんに、コーチを置かない理由を尋ねたところ、「適任者がいないので」という答えであった。以前、勝手なことをされて困ったということである。無責任なコーチなら確かに必要はあるまい。

ゲーム開始前のノックは、監督が直接する大学もあるが、コーチがやる場合も多い。この時、見ていて、そのチームの内容気風、選手一人ひとりを掌握しているかなど、実によく解るものである。コーチは決してカリスマになってはいけないと強く思うのもこの時である。

【特別寄稿】ソフトボールのためのビジュアルトレーニング

石垣 尚 男 (愛知工業大学)

1. トレーニングの前にすべきこと

いいフォーカスがあること、眼をケガしないこと

1) 視力矯正

片眼 1.0 以上、両眼 1.2 以上に矯正されていることが望ましい

2) 眼をガードする

アイガード（視力矯正できる）もある

2. ビジュアルトレーニングのコンセプト

眼で見て、その状況に応じて的確に対応するのがスポーツ。その意味ではスポーツそのものがビジュアルトレーニングである。体力トレーニング、メンタルトレーニングでは、特別に体力、メンタルを抜き出して強化する。これと同様に、眼で見て状況に対応する能力を強化するのがビジュアルトレーニングである。具体的には「見る→判断のスピードアップと状況への対応能力の強化」を目的とする。

何を鍛えるのか

- 1) 動体視力：動くモノがはっきり見えるようにする。
特に速いボールに眼が切れないようにする。
- 2) 瞬間視：一瞬で正確な判断ができるようにする。
- 3) 視野：広い範囲を素早く見る。



身体・技術を発揮する

漠然とではなく、意識して見る。集中して見る。



より小さい部分に的を絞る。

3. ビジュアルスキルを教える

ただ、「よく見ていけ」ではなく、具体的に「どこを見たらいいのか」、視点を絞って教える。眼のつけどころを教える。指導者が「見ろ」と言うところと、選手が「見ている」ところが違っていることが多い。

4. トレーニングの具体的な方法

メニュー作りにあたっては以下の配慮が必要である。

1) 日頃の練習の中で、楽しくできる

継続してこそトレーニングの意義がある。継続できる一番の要因は楽しいこと。面白く興味が持てる内容で持続させる。また、トレーニングと練習を分離するのも選手には負担である。できるだけ練習の中で取り入れる。

2) 大がかりな装置や専門のトレーナーは不必要

身近なもの安価なもの利用で十分である。選手同志がお互いにトレーナー役になるなどの工夫が必要である。

3) トレーニングの内容を複合させ、興味を持続させる

以下のトレーニングを複合させる。

A：眼のトレーニング： 動体視力、眼球運動、瞬間視などのトレーニング。数字で表れるのでトレーニングへの動機づけに有効である。得点化して選手間で比較するとトレーニングへの関心が増加するが、このトレーニングだけでパフォーマンスのアップの可能性は少ない。

B：体力トレーニングを工夫する

通常体力トレーニングを工夫。たとえば、よく行われるダッシュトレーニングは笛で行うが、音で動作を起こすことは少ない。見る→俊敏に、正確に動作を起こすトレーニングを工夫する。音なら速いが、見て反応すると全然できない選手も多い。

C：ソフトボールの練習の中で工夫する

練習の中で、見る→テクニックと結びつけたトレーニングを行う。通常の練習はほとんど惰性で、しかもすでにできることの繰り返しが多い。また、パターン化された技術はできても臨機応変の対応ができない選手もいる。

5. 具体的な方法

上記の最も基本的なトレーニング方法を例示する。例でありバリエーションは工夫次第である。

1) 集中して見る、瞬間的に見る能力を強化する

- ・ マースデンボール、ボールにアルファベット、数字などを書き眼の高さに紐で吊し、ボールをスイングさせて眼球運動だけで読みとる。紐を長くしたり、眼との距離を狭く、広くする。

- ・ ソフトテニスのボールにアルファベットや数字などを書き、壁にあてて跳ね返るボールの文字をできるだけたくさん読みとる。

バリエーション：最初に見えた数字が奇数なら右手、偶数なら左手でとる。

- ・ A4～B4の紙にランダムな数字を書く。これを20～30cmくらいの距離で眼球運動だけで声を出して読み上げる。

バリエーション：読みとる方向をかえる。一つ飛ばして読むなど。

- ・ 6桁の数字を書いたボール紙を瞬間に見せる。数字を素速く書き、正解数を記録する。

バリエーション：左右の端の数字を合計して奇数なら手を叩く、偶数なら手を叩かない。たとえ

ば「2」があれば手を叩くなど。

・1～20の数字をB紙に張り、1～20、20～1へ順に両手でタッチする。時間を計る。

バリエーション：数字の位置を変えたり、数を増やす、数字を増やす、片手だけでタッチなど。

● 2人でジャンケン。勝った人は、指で数字（0～5）を出す。奇数なら右を向く、偶数なら左を向く

2) 体力トレーニングを工夫する

● 回転ジャンプコール：2人一組、1回転ジャンプをする。その間に相手は片手で0～5の数字を出す。数字をコールする。左右交互に回る。

● ダッシュトレーニング

- ・コーチが瞬間的に出す片手の指の数が偶数なら右、奇数なら左へダッシュ
- ・コーチが2回、連続して片手で指を出す。合計が偶数なら右へ、奇数なら左へ
- ・左右の手で同時に数字を出す。合計が偶数なら右、奇数から左へ
- ・2名のコーチが10m以上離れ、同時に片手で数字を出す。選手は大きく首を振って判断し、ダッシュする。コーチとの距離が近いほど難しくなる。
- ・2名のコーチが10m以上離れ、両手で○か×のサインを出す。選手は前方を見ていて視野の周辺で○、×を判読する。両方○なら右へダッシュ、両方×なら左へ、左右が違えばダッシュしない。

● リアクションボール（トリッキーボール）：お互いでバウンドさせながら両手で、片手だけでキャッチ。ボールに数字を大きく書き入れておき、数字を読むようにすれば動体視力のトレーニングにもなる。

バリエーション：壁に向かって構えさせ、壁から跳ね返るボールをグローブ側の手でキャッチさせる。

● 3色ボール：赤なら右手、青なら左手、黄色なら両手でキャッチ

3) ソフトボールの練習の中でトレーニング

眼と身体はリンクしている

「眼を切る」とボールは速く感じる。眼を切らないと、それに応じて身体が正確に対応する身体機構がある。

漠然とではなく、見る視点を小さく絞る。たとえば、ボールの中の数字、ファーストのグローブなど

● (1) ボールの数字を読む

ボールに0～9までの数字を1つ書く。数字の大きさは直径5cm程度、慣れてきたら次第に小さくする。例えば3ヶ月行うとして最初の1ヶ月は大、次は中というように。

・キャッチボールのとき声を出してコールする。

・守備練習で捕球したとき数字をコールする。打球が速い場合には無理。守備練習の初めにスローボールで行う。

● (2) トスバッティング

- ・バッティングの瞬間に数字をコールする。
- ・打者の後ろ（捕手の位置）からトスを行い、数字をコールする。
- ・打つ瞬間に奇数なら打ち、偶数ならバッティングをストップする。あるいは偶数なら流し打ち
- ・ボールを赤、黄、青に色分けする。
赤だったら打たない。黄は空振り、青は打つ。あるいは黄は流し打ち、青はセンター返しなど。あらかじめボールの色がわからないように捕手の位置からトスをおこなう。
- ・ゴルフボールに数字を書き、モップ用の棒などの細い木で芯にあて、同時に数字を読む。
- ・ゴルフボール大のスポンジボールを打つ。芯に当てないと飛ばない。

(3) フリーバッティング

通常、投手の投げるボールよりはるかに速いボールをバッティングマシンで投げる。
あるいは距離を短くして投手が投げる。

- ・頭を動かさずに眼だけでボールをホームプレートまで追跡する。
- ・バントする。バットに当たるまでボールをよく見る。
- ・通常のバッティングをする。
- ・数字を1個書き入れたボールをバッティングマシンで投げ（通常のスPEED）、数字を読みとる。

(4) シートノック

- ・声でなくボールの色でプレーさせる。赤ならバックホーム、黄ならファースト、青ならセカンドなど。

6. トレーニングの効果

「ポパイのほうれん草」の効果はないが、継続するとジワジワと効果が出てくる。最低でも2ヶ月、できれば3ヶ月は続けよう。止めると効果はなくなるので、シーズン中も少しずつでも続けよう。どんなトレーニングでも「こんなモノ」と思っていては効果はない。効果を信じ、トレーニングに集中することが大切である。そうすれば、ボールの縫い目が見えたり、ボールが止まって見えるのもまんざら嘘ではないことに気づくはずである。

石垣 尚男（いしがき ひさお）氏のプロフィール

- 1947年静岡県生まれ。東京教育大学（現筑波大学）体育学部卒業
- 現在 愛知工業大学教授（基礎教育系健康科学教室）、医学博士
- 趣味は、伝統的毛鉤釣りであるテンカラと無農薬有機野菜の栽培（自称、半農半漁人）
- 質問やアドバイスはE-mailで、アドレス：ishigaki@ge.aitech.ac.jp

投 稿 規 定

平成 11 年 7 月 30 日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる著者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録されたもの（理事、監督、コーチ、選手）に限る。ただし、研究・調査部会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関わったものとし、巻頭言、提言、総説、論文（含. 抄録）、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一篇につき本誌 4 ページ以内（巻頭言、提言の場合は 1 ページ以内）とするが、研究・調査部会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものはすべて受理・採択する。なお、書式等に問題がある場合は研究・調査部会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、研究・調査部会の委員宛に書留郵便で送付する。投稿の締切は特に設けないが、毎年 11 月 20 日で区切るものとする。

執 筆 要 項

原稿執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、ワードプロセッサで原稿を作成する場合は、A4 版縦置き横書き、全角 40 字×20 行（上下余白 25mm 以上、左右余白 20mm 以上）を基本とする。できれば使用機種、ソフト名を記して、フロッピーとともに提出することが望ましい。

手書きの場合は、A4 版横書き 400 字詰め原稿用紙に清書し提出する。

編集を終えて

森田 啓之（兵庫教育大学）

まず、機関誌「ウインドミル第3号」にご投稿いただいた諸先生方、多忙な中をご執筆いただき有り難うございます。

今回も前号に負けず、興味深い内容となっていますので、指導者や関係者はもちろんのこと、学生の皆さんにも是非読んでほしいと思っています。

なかでも、日本代表としてアトランタオリンピックで大活躍した高山選手（当時は日本体育大学、現在は豊田自動織機）へのインタビューは、調査・研究委員会としての最初の企画です。彼女と話をしてみたの全くの個人的な感想になりますが、本当に「個」が確立している選手だなあと感心するとともに、本当にトップの人というのは「自分の競技哲学」というものを持っている「べき」であることを痛切に感じました。インタビューを終えて帰路につく途中で、一緒にいた久保田先生と興奮しながら会話をしたことを今でも鮮明に覚えています。高山選手は日本代表であるから「特殊」な場合として捉えるのではなく、「大学プレイヤーとして」育てたい理想像を見せてもらった気がしました。

報告の全体的中身については、今後さらに吟味する必要があるとは思いますが、クラブにどのような意味を見だし、指導者はどのような指導を意識すべきなのかを再考するたたき台にはなるのではないかと思います。例えば、われわれが何気なく使っている「指導」という言葉（概念）はどのように理解しておくべきなのかを再確認したり、大学でわざわざ（敢えて言いますが）クラブをやることの意味がどこにあるのかを理論的にも実践の成果としても明らかにしたりすることが必要になってくると思います。

最後になりますが、今回の掲載論文などを契機に、議論が深まることを願っています。

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も内容を一層充実、発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。

とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい!というようなものがあれば、併せて連絡を下さいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までご連絡を下さい。

（研究・調査部会 小川幸三 森田啓之）

森 田 啓 之

〒673-1415 兵庫県加東郡社町下久米942-1

兵庫教育大学 生活・健康系講座

TEL&FAX 0795-44-2227 (ダイヤル)

e-mail : hmorita@life.hyogo-u.ac.jp

【報告】東京女子体育大学 アジア選手権で準優勝

第7回アジア女子ソフトボール選手権大会は、10月31日から11月6日の7日間にわたり、中国上海市のCOMBI野球・ソフトボールセンターを会場に開催され、日本を代表して出場した東京女子体育大学チームは、中国に次いで見事準優勝に輝いた。参加10ヶ国のうち、ナショナルチームでなかったのは日本だけ。しかも、まだページシステムによる決勝トーナメントで優勝の可能性を残しての快挙であった（雨天のため、決勝戦が実施できず、予選リーグの結果で順位決定）。

★出場者

＜役員＞ 団 長 甲佐 清久 （財）日本ソフトボール協会
 監 督 吉野みね子 東京女子体育大学
 コーチ 細田きみ子 東京女子体育大学
 コーチ 小室留美子 東京女子体育大学
 トレーナー 武藤 幸政 城西大学
 総 務 藤井まり子 （財）日本ソフトボール協会
 主 務 飯田 昌代 東京女子体育大学

＜選手＞

背番号	位 置	氏 名	学年	出 身 高 校
18	投 手	増 淵 まり子	2	白鷗大足利
17	投 手	漆 谷 志 保	4	愛知淑徳
14	投 手	大久保 和 美	4	細田学園
13	捕 手	太 田 香	4	星野女子
25	捕 手	武 井 紗 織	2	藤岡女子
3	一塁手	霜 田 亜希子	4	星野女子
1	二塁手	佐 藤 理 恵	1	星野女子
27	三塁手	平 下 真 弓	3	安田女子
5	遊撃手	武 井 裕 美	4	群馬女子短大附属
31	内野手	五十嵐 清 夏	2	ときわの森三愛
32	内野手	品 川 典 子	2	群馬女子短大附属
20	左翼手	岩 渕 亜矢子	4	埼玉栄
7	中堅手	仁 木 景 子	4	埼玉栄
21	右翼手	神 田 多 栄	2	ときわの森三愛
23	外野手	大 沼 由紀子	3	笠田
33	外野手	見 月 志 保	3	中村学園
24	外野手	太 田 真紀子	1	星野女子

★予選リーグ勝敗表

国名	中	日	北	韓	台	フ	タ	イ	シ	香	得点	失点	順位
中国		○	○	○	○	○	○	○	○	○	74	1	1
日本	●		○	○	○	○	○	○	○	○	79	8	2
北朝鮮	●	●		●	○	○	○	○	○	○	49	12	3
韓国	●	●	○		○	●	○	○	○	○	37	19	4
台湾	●	●	●	●		○	○	○	○	○	45	10	5
フィリピン	●	●	●	○	●		○	○	○	○	44	19	6
タイ	●	●	●	●	●	●		○	○	●	22	88	7
インドネシア	●	●	●	●	●	●	●		○	○	20	82	8
シンガポール	●	●	●	●	●	●	●	●		○	22	88	9
香港	●	●	●	●	●	●	○	●	●		7	111	10

11月2日 韓国: 0000000000 | 0

日本：0 0 0 0 0 0 0 0 0 1X | 1

○増淵一太田

タイ : 0 0 0 0 0 0 | 0

日本：102052X | 10

○大久保・漆谷一武井

11月3日 イントネア: 0 0 0 0 0 | 0

目 本 : 10 4 2 6 X | 22

○漆谷一太田

台灣：0 1 0 0 0 0 0 | 0

日本：0 0 0 0 0 0 2X¹ 2

○增淵一太田

シンカ^ゝホ[°]ール : 0 0 0 0 0 | 0

目 本 : 1 4 7 1 X | 13

○増淵一太田

11月4日 日本：2101020 | 6

北朝鮮：0 0 0 0 0 0 0 0

○増淵一太田

香港：0 0 0 0 0 | 0

日本：8 1 2 8 X 19

○大久保一武井

11月5日 中国：040021 | 7

日本：0 0 1 0 0 0 | 1

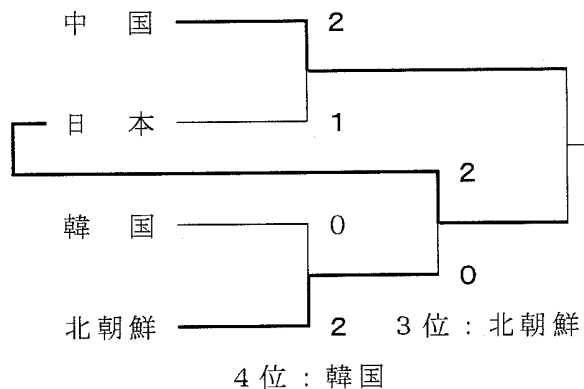
●漆谷一太田

フィリピン : 0 0 0 0 0 0 0 0

日本：0 0 0 1 3 1 X¹ 5

○大久保・漆谷一太田

★決勝トーナメント（ページシステム）



決勝戦は、雨天および
グラウンド不良で中止

優勝：中国

2 位：日本

3 位：北朝鮮

4 位：韓国

★ 個人表彰

ベストナイン賞：岩渕亜矢子左翼手・武井裕美遊撃手

首位打者賞：平下真弓三壘手

★吉野みね子監督談話

私達は、今大会に日本の代表として参加させて頂きましたが、過去に例のない学生チームの公式な国際大会参加は、日本国内に於いては経験出来ない事であり、学生自身も貴重な体験と、大きな収穫を得ることが出来たと確信しています。

このような素晴らしい機会を与えて頂きました日本ソフトボール協会並びに全日本大学ソフトボール連盟の皆様にご心より感謝申し上げます。

★参加選手一言コメント

岩渕亜矢子：10年間続けてきたソフトボールの最後の大会で素晴らしい経験と思い出ができ、悔いを残さず終われたことを大変幸せに思います。

飯田昌代：初めての海外遠征がアジア選手権大会という大舞台となりました。日の丸を胸に、戸惑いとプレッシャーに中臨みましたが、11日間毎日が発見の日々で自分を磨き直すことの出来たかけがえのない遠征になりました。色々と御支援、御指導いただいたスタッフの皆様、また、応援にお越し頂いた御父兄の皆様に感謝しております。

漆谷志保投手：現役最後に、このような素晴らしい経験が出来て嬉しく思います。一生忘れられない思い出になりました。

大久保和美投手：私にとって最後の大会に、中学時代から憧れていた全日本のユニフォームを着ることが出来て、とても嬉しかったです。この大会で得たことをこれからの人生に生かしていきたいと思います。

太田香捕手：初めて国際大会に出場させて頂き、緊張と不安でいっぱいでしたが、試合では楽しんでプレイすることが出来ました。成績としても準優勝が出来、本当に良い経験となりました。このような素晴らしい大会を通して学んだことを、これからの人生に生かしていきたいと思います。

霜田亜希子内野手：この大会で準優勝という成績が残せて、本当によい経験が出来たと思います。ただ最後に中国との試合が姉で中止になってしまいましたが、もう一度中国と試合して勝たかった。

武井裕美内野手：最高のスタッフ、チームメイトに恵まれ、最高のソフトボールが出来、幸せ者です。最高のチームでした。

大沼由紀子外野手：日の丸を胸に、日本の代表としてプレイできたことを誇りに思います。国際大会という貴重な経験で私自身、沢山のことを身につけることが出来ました。

仁木景子外野手：アジア選手権での体験は、私の人生の最大の宝になりました。素晴らしい団長を始め、監督、コーチ、スタッフの方々のもと、また、どんな時

も一つになり、強気で明るく戦ってきたチームの一員として参加でき、幸せです。試合で得た事を今後に活かしていきたいと思います。

平下真弓内野手：アジア大会という国際試合でプレイできたことは、とても勉強になりました。この経験を生かしプレッシャーに負けない選手になりたいと思います。

見月志保外野手：1日2試合を6日間も行ったことは初めてでそれがアジア選手権大会だったことは、私にとって大変勉強になりました。中国など世界でもトップレベルの選手の方達と対戦することが出来てパワーやスピードに圧倒されたと共に学ぶべきものも沢山あり、今後に役立てたいと思いました。

五十嵐清夏外野手：日本代表としてアジア選手権大会に参加し、試合を通じて国際大会と日本の大会との違いを身にしみて感じ、貴重な経験をする事が出来ました。これからはこの経験を糧にしていきたいと思います。

神田多栄内野手：アジア選手権大会に参加し、多数の外国チームとの対戦はとても良い経験になりました。特に中国の堅い守り、力強い打撃、果敢な走塁から学ぶことは多く、とても良い勉強になりました。今後この経験を生かせるよう、日々の練習を頑張っていきたいと思います。

品川典子内野手：アジア選手権大会に参加させていただき大変勉強になりました。国際大会に出場したことにより自分に自信が持てるようになりました。この経験を生かし、これからの練習に取り組んでいきたいと思います。又、出来れば中国戦に出場したかった。

武井沙織捕手：アジア選手権大会に参加させていただき、全員が一つの気持ちで一つの目標に向かっていったということを感じました。試合にあまりでる機会がなかったのですがとても勉強になりました。

増淵まり子投手：アジア選手権大会では、ピッチャーとしての私の役割を半分果たすことが出来ましたが、決勝トーナメントでの中国戦の敗戦は本当に悔しい思いをしました。しかし、とても勉強になりました。

太田真紀子：外野手初めての国際試合を経験して国内での試合とは又違う試合を肌で感じる事が出来ました。日本人とは体格が違い小柄な打者でも長打力があり、外野のポジショニングは大変難しかった。アジア選手権大会を機に今後の試合に役立てていきたいと思います。

佐藤理恵内野手アジア選手権大会を通じて、各国の選手と試合をすることにより自らも技術の向上が出来ました。又、何よりも11日間アジアの人達と交流を深めることができ、良かったと思いました。

平成 1 1 年度の事業報告と今後の課題

全日本大学ソフトボール連盟
理事長 末 井 健 作

平成 1 1 年度の事業は、8 月の文部大臣杯第 3 4 回全日本大学ソフトボール選手権大会（宮城県、男子は矢本町 鷹来の森運動公園、女子は女川町総合運動場）、第 5 回全日本女子短期大学ソフトボール大会（東京都、日本体育大学グラウンド）及び 1 1 月の第 2 6 回東西対抗（滋賀県、長浜ドーム）と関係各位のご協力を賜り無事に終了することができました。また、後援いたしました東日本（埼玉県坂戸市他）、西日本（京都府、宇治市他）大学選手権大会も成功裡に終わりました。大会運営にご尽力を賜りました多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

本年度の全日本大学選手権大会は第 5 6 回国民体育大会リハーサル大会として、主管していただいた宮城県ソフトボール協会、矢元町及び女川町民の皆様の絶大なる歓迎、ご協力により心暖まる雰囲気の中で、また素晴らしい球場でプレイできました。

全日本女子短期大学大会は東京都学連、東西対抗は関西学連の学生委員を中心に運営されましたが、回を重ねる事に充実した運営は高く評価できると思います。しかし、東西対抗のあり方については、さらに検討する必要があると考えています。

大学連盟の運営面の問題としては、チーム及び選手登録者数を如何にして増やしていくか、また、大学チームのレベルを如何にして向上させるか、難問は多いが積極的に取り組まなければならないと考えています。具体的には、本年度チーム及び選手登録規定の改正を行い、専攻科、大学院の学生の選手登録が認められました。今後、（財）日本ソフトボール協会への登録者数の制限及び登録選手の変更時期の緩和についての要望を検討したいと考えています。

現在、平成 1 1 年度の国際交流事業として女子のオーストラリア遠征を、平成 1 2 年 2 月 1 1 日から 2 月 2 1 日まで予定し準備を進めています。これらのことが、少しでも本学連の活性化に繋がることを期待しています。

大学改革並びに社会変化の激しい時代において、平成 1 2 年度の事業がさらに充実した内容で実施出来ますよう、皆様の絶大なるご協力を切にお願い申し上げます。

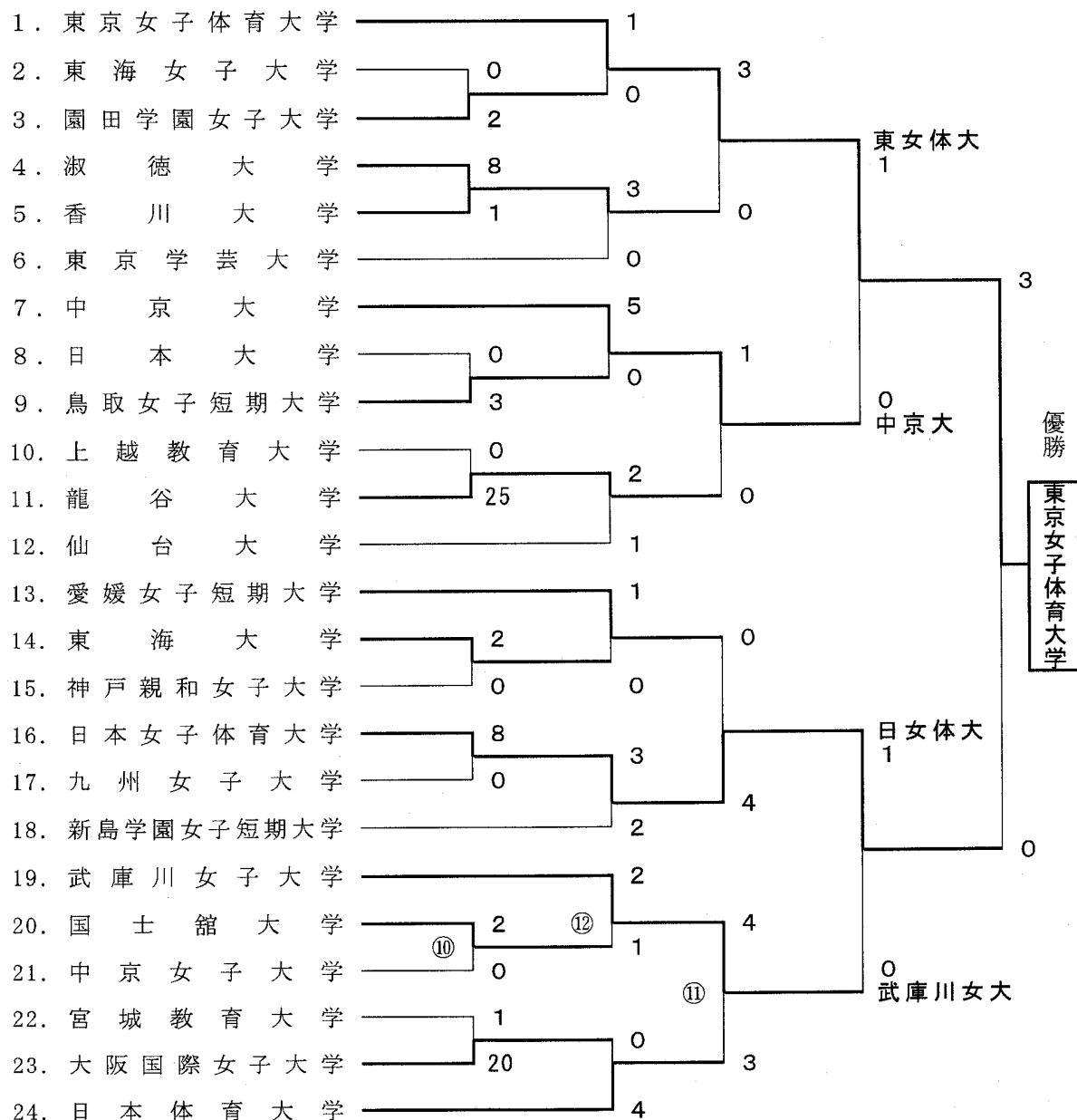
文部大臣杯第34回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成10年8月8日(日)～8月10日(火)

会場：宮城県女川町総合運動公園

大会概要

女川町の小高い丘の上にある会場は、3日間好天に恵まれ、熱い熱い戦いが展開された。決勝戦は、東京のふたつの女子体育大学の間で争われた。五輪出場権獲得に貢献し、今大会でも園田学園女子大戦で完全試合を達成した増淵まり子を擁する東女体大は、投打に日女体大を圧倒し、2年連続の優勝を獲得した。東女体大は、3投手で今大会も4試合を無失点・無失策で切り抜け、見事に守りきったと言えよう。3位は準々決勝で日体大をタイブレイクの末に破った武庫川女子大と準決勝戦で東女体大に1点差で涙を飲んだ中京大であった。日本リーグ関係者からもインカレは、インターハイよりおもしろいと評されるようになった中で、大差の試合が散見されたのは誠に残念であった。なお、大会開催を待望されていた町長須田善二郎氏が急逝されたことは誠に残念であり、ここに記して改めて哀悼の意を表します。(中京女子大 水谷 博)



感動の瞬間 ～2連覇～

東京女子体育大学主将 岩渕 亜矢子

1999年8月10日、大学生活の最後の年である今日この日に私達の最大の目標を達成することができた。

…インカレ二連覇！！

この瞬間、グラウンドの選手、監督・コーチ、ベンチの選手、そしてスタンドの応援団の人達、保護者の方々、全員が飛び上がり、歓声を上げ、涙を流して喜んだ。心から感動しうれしいと思った。なぜなら私達はこの瞬間のために毎日、苦しくつらい練習を積み重ねてきたのだから……。

振り返れば昨シーズンは大学タイトルの全てである五冠達成の偉業を果たした前4年生の後を継ぎ、新チームを編成するにあたり、かなりのプレッシャーの中でのスタートだった。そして私は考えもしなかった主将と言う大役に任命された。勝って当たり前と周囲に言われていたチームの主将という立場に不安と期待のシーズンが始まった。

しかし、新チームの初大会で優勝し幸先のよいスタートが切れた。そして冬のトレーニングを積み、3月、サイパン合宿を行った。この合宿でシーズンに向け本格的なチーム作りを目指し、『自立・自主性・自己を持つ』を目標に掲げ、まずはプレイも行動ものことを第一に考え、個人のレベルアップを図った。この目標の成果が毎日少しずつ出てくることで選手一人一人が自覚できるようになり、その結果、自然とプレイ中の声や雰囲気につながり、集団としてのまとまりができた。このサイパン合宿で学び得たものが今の私たちに多大な影響を与えたと私は確信している。

そして、4月、5月…と順調に各大会に優勝したため選手にどこか緊張感がなくなり、目に見えない安堵感がインカレを目前とした東日本インカレで形となって現れてしまった。

私達は、東日本インカレ初戦から自分達本来の試合ができず、不本意な形で初日を終えた。次の日は準決勝の日本体育大学戦。初回からエラーが続き、ベンチにいる私も全く落ち着くことができなかった。『いつもとリズムが違う』という不安は的中し、まさかの先取点を奪われた。結果、その後追い上げるも点が取れず私達は負けた。試合後、選手は『負けた』という事実に対し実感を持たず茫然としていたが、次第にこの負けの悔しさ、大きさ一人一人が身にしみて味わったと思う。

しかし、この敗北がチーム全体をより一つにした。部員54名、選手は選手、応援は応援と今何をすべきか各自が役割を自覚した。更に初戦から強豪相手のインカレは私達を余計に奮起させた。今大会は何に関しても全員が協力してスムーズだった。私は主将として何の気配りもなくみんなを信じて戦うことができた。その結果が『優勝！！』こんなに感動し達成感、満足感を味わえた大会は初めてだった。何より東女体大全員ソフトの力の偉大さを知った。

そして今度は、3連覇の夢を後輩達に託す……。

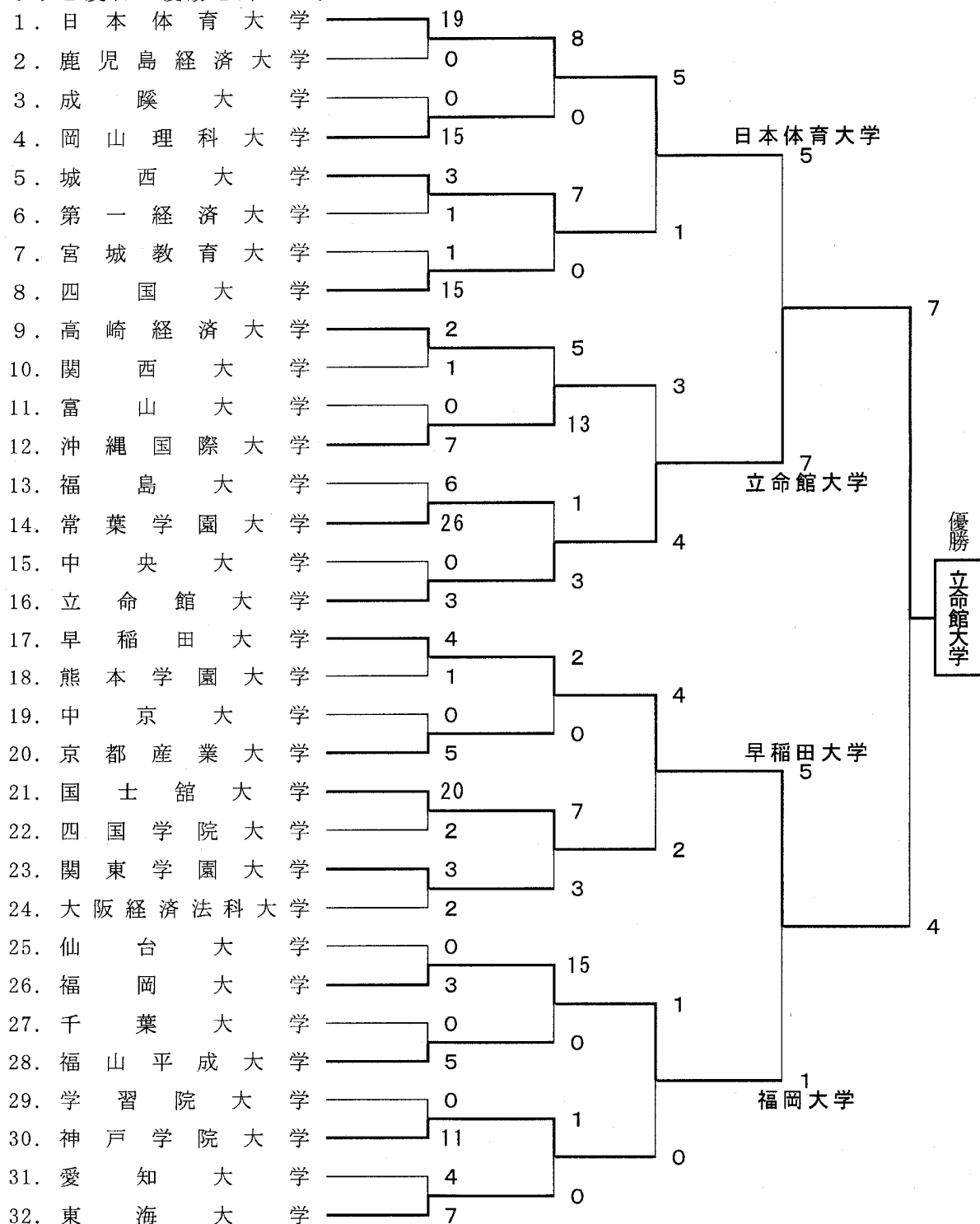
文部大臣杯第34回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成10年 8 月 8 日(日)～8 月10日(火)

会場：宮城県矢本町鷹木の森運動公園

大会概要

全国から32チームを迎えての大会も天候に恵まれ、また試合上のトラブルもなく、予定どおり大成功のもとに終了した。1回戦では大量得点を挙げて点差の開く試合も多く見られたが、選手のキビキビした動きで点差の割には時間があまりかからず、特に、準決勝戦からは手に汗握る逆転劇も見られるなど、大会は盛り上がった。結局、3連覇を狙う日本体育大を撃破し、決勝戦でも鮮やかな逆転で早稲田大を破り、立命館大が3年ぶり2度目の優勝を飾って、インカレの幕は閉じた。(記録長 山崎 修)



決勝戦の結果

早稲田大学	0	2	1	0	1	0	0	4	(早) ● 田原卓哉・森反航平一田部井弘明
立命館大学	0	0	0	5	0	2	X	7	(立) ○ 古里公一郎一久保昇平
早稲田大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回		
(一) 6 三ツ矢 卓	左 飛		一バ安		二ゴロ				
(二) 5 白石哲太郎	三邪飛		投犠バ		三 振				
(三) 4 山田 浩之	二 飛		投犠バ			二ゴロ			
(四) 6 田部井弘明		左中2B	遊内安(盗塁死)			投ゴロ			
(五) 3 藤見 哲郎		遊内安		捕邪飛		三 振			
(六) 9 谷川 昌平		遊ゴロ		投バン				左前安	
(七) D 畠森 大樹		二ゴロ		遊ゴロ				一邪飛	
(八) ① 田原 卓哉		一二安			中3B				
R 安井耕太郎					P R			投ゴロ	
1 森反 航平									
(九) 7 関 洋平		投バン			投スク			三 振	
DH守備 8 川上 正伸									

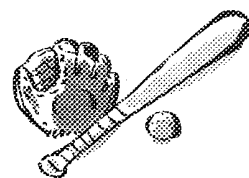
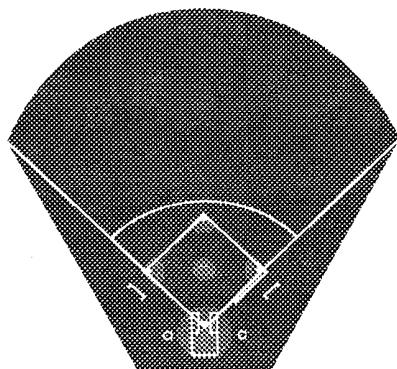
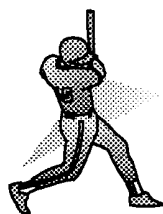
立命館大学	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回		
(一) 9 牛嶋 淳	一ゴロ		右 飛	二 飛		右 飛			
(二) 6 川村 命永	三 振		二ゴロ		四 球				
(三) 2 久保 昇平	四 球			三 振	捕ゴロ				
(四) 7 谷本 光司	二 飛			右越本	三ゴロ				
(五) 4 山田 裕樹		一 飛		四 球	遊ゴロ				
(六) 3 片岡 一人		投 失		三 振		三 振			
(七) 1 古里公一郎		一ゴロ		投バ安		遊ゴロ			
(八) 8 武田 浩治		投ゴロ		遊ゴ失					
8 松永 健						遊内安			
(九) D 福島 潤			遊 飛	左中本		中越本			
DH守備 5 河北 秀隆									

戦評：立命館大学は、3点をリードされた4回、谷本のソロ、福島 of 3ランホームラン等によって一気に逆転し、6回にもまた福島 of 2ランホームランで早稲田大学を突き放し、優勝を決めた。早稲田は序盤に先制し、逆転されてからもスクイズで追いすがったが、福島 of 2本の本塁打に涙をのんだ。(記録員 鈴木豊)

印象に残った選手達

1試合3本塁打の佐野(日体大)と1試合8打点の玉城国聡(沖縄国際大)の両選手が大会新記録を塗り替えた。立命館大学の優勝に大きく貢献した投打の中心は、古里公一郎投手と指名打者の福島潤選手であった。古里投手の奪三振35、防御率1.79、福島選手の4本塁打、特に決勝戦での2打席連続本塁打は賞賛に値する。

また、惜しくもベスト4入りはできなかったが、.727と驚異的なアベレージを残した真栄城校選手等が印象に残った。(記録長 山崎修)



ホームランは打てたけど・・・

立命館大学男子主将 久保 昇平

立命館大学男子ソフトボール部は、3年ぶり2度目のインカレ優勝を果たすことができました。この優勝は、全国優勝ということを常に意識して練習してきた成果が最高の形となったものでした。確かに、新チームになってから、秋季関西学生リーグ・春季関西学生リーグに連続優勝し、西日本大会でも昨年に続いて優勝を納めることができ、公式戦負けなしでこの全日本大学ソフトボール選手権大会を迎えることができました。このことは、チームの中では、自信にしてもいいが、絶対に過信はいけないということをみんなで確認し、また言い聞かせてこの大会に臨みました。しかし、優勝を勝ち取るまでには大変な試合ばかりでした。

初戦の相手は、関東リーグ3位の中央大でした。初回到谷本の2ランと山田のソロホームランで3点を先制したが、この後チャンスに1本が出ずに追加点を奪うことができず、いやな展開になりました。そこをエース古里の踏ん張りで中央打線を3安打に完封して初戦を飾ることができました。続く2回戦も、常葉学園大を調子のあまり良くなかった福島の前制2ランで先行し、古里が反撃を見事1点に抑えて3-1でベスト8入りを決めました。

準々決勝が大きなヤマだったと思います。相手は沖縄国際大でした。沖縄国際大は、昨年・一昨年と3位になっている強豪校です。苦戦が予想されましたが、やはりこの試合は非常に苦しいものになりました。初回到牛島の前頭打者ホームランで先制点を奪ったのはやはり立命館でしたが、直後の2回到追いつかれ、3回到突き放すと、後一歩の7回裏に同点ホームランで振り出しに戻されてしまいました。延長の2回到古里のまわりの野手が好守で盛り上げ、ついに2-2のままタイブレークに入りました。10回は両チームとも得点できず、11回の表に山田が均衡を破る2ランホームランで勝ち越し、その裏の攻撃を1点に抑えて沖縄国際大を下し、準決勝戦進出を決めました。その相手は、昨年の覇者、日本体育大学でした。この試合も初回到相手のまずい守備などもあり1点を先制することができましたが、すぐに2点を取られて逆転されてしまいました。しかし、古里のホームランですぐさま追いつき、4回到には福島のホームランなどで4点を奪い、点の取り合いを7-5で制して日体大に打ち勝つことができました。

そして決勝戦。相手は、試合巧者の早稲田大学でした。2回到この大会で初めて先制点を奪われ次の回到にも1点を追加され、0-3とリードされた苦しい展開になりました。しかし、4回到谷本と福島のホームランで5点を一挙に奪って逆転することができました。5回の守備で、打球を追った武田がフェンスに激突し負傷退場しましたが、このことが、チームの結束力をいっそう高めたように思います。結局、7-4で早稲田大学を下し、3年ぶり2度目の優勝を納めることができました。

最後に、この優勝は私達部員の努力だけで成し遂げられたものではありません。多くの方々のご協力、特に素晴らしい会場と運営をいただいた矢本町の皆様に感謝いたします。

女子大会打撃ベストテン（規定打席数9以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席数	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合
○	5	平下 真弓	東女体	12	12	8	3	2	・	・	・	2	1	4	1	6 6 7	4
	6	菅裏 啓	龍谷	12	11	7	5	5	・	1	・	・	・	3	・	6 3 6	3
○	8	浪方 康江	淑徳	12	10	6	4	・	2	・	・	2	1	1	・	6 0 0	3
	7	黛 靖子	淑徳	10	10	6	1	2	・	・	・	2	・	6	・	6 0 0	3
○	4	佐藤 理恵	東女体	12	7	4	・	1	5	・	・	1	・	3	・	5 7 1	4
○	9	本庄 青	龍谷	9	9	5	4	4	・	・	・	1	・	・	・	5 5 6	3
○	6	武井 裕美	東女体	12	11	5	・	・	・	1	・	・	・	6	・	4 5 5	4
	1	伊藤 さやか	龍谷	9	9	4	3	2	・	・	・	1	・	2	・	4 4 4	3
○	5	高崎 千恵	淑徳	9	9	4	1	2	・	・	・	4	1	3	・	4 4 4	3
	1	島田 祐子	淑徳	10	9	4	1	1	・	・	・	1	1	4	・	4 4 4	3

女子大会上位チーム投手成績

左投	選手名	大学名	回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四死	奪三振	被本打	投球数	防御率	勝試合	負試合	順位
	増淵 まり子	東女体	26	86	85	7	・	・	1	・	40	・	278	0.00	4	0	1
	漆谷 志保	東女体	13	5	4	・	・	・	・	1	2	・	26	0.00	0	0	1
	大久保 和美	東女体	06	3	2	・	・	・	・	1	1	・	16	0.00	0	0	1
	及川 裕美	日女体	19	72	67	14	3	3	4	1	25	・	268	1.11	2	1	2
	大城 里美	日女体	8	30	26	2	・	・	1	3	9	・	110	0.00	1	0	2
	渡辺 早智	日女体	7	25	24	6	2	2	・	1	6	・	97	2.00	1	0	2
	白井 景子	中京	13	50	45	9	1	・	3	2	4	・	198	0.00	1	1	3
	小出 梨愛	中京	7	23	21	3	・	・	2	・	5	・	65	0.00	1	0	3
	宮原 洋子	武庫川	16	58	53	7	1	1	3	2	14	1	232	0.44	1	0	3
	上野 千夏	武庫川	13	52	47	10	4	2	2	3	9	・	204	1.08	1	1	3

男子大会打撃ベストテン（規定打席数12以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席数	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合
	7	真栄城 校	沖縄国際	13	11	8	2	6	1	1	・	・	・	5	2	7 2 7	3
	8	花田 和也	日本体育	14	13	8	6	5	1	・	・	・	・	3	・	6 1 5	4
	3	藤見 哲郎	早稲田	15	13	7	3	3	2	・	・	2	1	4	1	5 3 8	5
	6	喜屋武大志	沖縄国際	13	12	6	4	4	・	1	・	・	・	5	2	5 0 0	3
	2	溝口弘一郎	福岡	13	12	6	3	3	・	1	・	1	1	2	1	5 0 0	4
	6	和佐野弘一	日本体育	17	17	8	5	9	・	・	・	・	2	5	3	4 7 1	4
○	DH	田中 徹治	日本体育	18	15	7	4	3	3	・	・	1	1	4	・	4 6 7	4
○	7	堀部 純弘	日本体育	17	15	7	7	3	・	・	2	・	2	2	2	4 6 7	4
	8	気田 朋幸	国士舘	12	11	5	4	6	1	・	・	1	・	1	2	4 5 5	3
○	4	菅野 淳	神戸学院	12	9	4	2	4	・	2	1	2	・	4	・	4 4 4	3

男子大会新記録一覧

記録	1 Ini.	1 試合個人	1 試合1 チーム	1 試合両チーム
最多盗塁数	四国大 5	末包 直人 5	四国大 15	四国大×宮城教育大 18
最多得点数				常葉学園大×福島大 32
最多打点数		玉城 国聡 8		常葉学園大×福島大 28
最多本塁打		和佐野弘一 3		
最多打席数			常葉学園大 57	
最多四死球			常葉学園大 18	
最多与四死球			福島大 18	

第26回全日本大学男子・女子ソフトボール東西対抗結果

主催：全日本大学ソフトボール連盟・滋賀県ソフトボール協会

主管：関西学生ソフトボール連盟

後援：日本ソフトボール協会・滋賀県・滋賀県教育委員会

期日：平成11年11月7日（日）

会場：滋賀県立長浜ドーム競技場

女子試合結果

東軍：0000000001 1 (東) 浅木・寺原・○西尾・鈴木										
西軍：0000000000 0 (西) 西岡・池永・松本・●宮原・金岩・田中										
東 軍	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回
一4野田 三 振				中前安		左 直			四 球	
二3永原 遊ゴロ				三ゴ失		右邪飛			一 直	R
三2鈴木 二ゴロ				投ゴロ			二ゴロ		(D P)	一犠バ
四5金谷	左邪飛			三 振			三 振			中前安
五6佐田	投ゴロ			三ゴロ			三 振			
六近藤										捕バ安
六D棚内	三 振				二ゴロ			二ゴロ		三 振
七⑦浪越			左 直		三ゴロ					死 球
七飯沼								一 飛		
八8荻			三ゴロ		三振					
八佐久間								二ゴロ		三 振
九9勝俣			三ゴロ							
H門馬						三 振				
九大館									三 振	
DH守備1 浅木・寺原・西尾										
西 軍	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	
一89安田 三 振			投ゴロ			三犠バ				
九島田									三 飛	
二5志津 三 振			三 振			三 振			左邪飛	R 憤死
三D弓場 三 振				一ゴロ			三 振			三バ飛
四7新垣	三 振			右 飛			遊ゴロ			遊ゴ失
五6高	四 球			二ゴロ			右 飛			一 直
六3萩村	三 振				右邪飛			右 飛		(D P)
七2金岩	遊 直				二ゴロ					
二田中								一ゴロ		
八4溝上			一内安		投ゴロ			三 飛		
四原田										
九9山中			投ゴロ							
八小倉						振逃(憤死)			二ゴロ	
DH守備1 西岡・池永・松本・宮原										

総評：個人賞に選ばれた両先発投手の見事な立ち上がりだが、そのまま後半までつながった試合であった。両チームとも得点圏にランナーを進めるものの、あと一本が出ないまま9回が終わり、10回からタイブレークとなった。10回表、東軍は1死3塁から4番金谷選手（日本体育大学）がセンター前に落とし。待望の1点をあげた。一方、西軍は相手エラーから1死1・3塁のチャンスを迎えたが、高選手（園田学園女子大学）の打球が1塁ライナーとなり、ランナーが飛び出しでダブルプレーが成立し、ゲームセットとなった。東軍3投手、西軍4投手がよく踏ん張り1点を争う好ゲームであったが、一方で打線がもう少し活発であればという感も抱いた。

男子試合結果

東軍：200000001 | 3 (東) 加藤：●吉羽・川口ー飯嶋
西軍：10012100X | 5 (西) 古里：○和久・竹下ー久保・溝口・山田

東	軍	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
一	1 加藤 大樹	中前安		三 振		左 飛				
	1 吉羽 貴志									
	1 川口 大								三 振	
二	D 田中 徹治	左 飛		三 振		二ゴロ			中 飛	
三	6 斉藤 恒寿	四 球		二 飛			遊ゴロ		三 振	
四	9 原田 泰光	左前安			遊 直		三 振			中越本
五	3 臼井 健	中儀飛			二ゴロ		三ゴロ			一ゴロ
六	5 森田 秀幸	三 振			三 振					
	H5 大津 崇臣							三 振		二ゴロ
七	7 河合 康治		三 振			四 球		一ゴロ		
	7 三村 大介									三 振
八	4 田中 健生		遊ゴロ			遊ゴロ		三 振		
九	8 三枝 高範		左 飛			遊ゴ失			四 球	
DH守備 2 飯嶋泰光										
西	軍	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回
一	9 牛島 淳	投ゴロ		遊ゴロ						
	H 西村 洋信					四 球				
	9 山田 裕樹							遊ゴロ		
二	5 川村 命永	四 球	PB・WP		投ゴロ	四 球		遊ゴロ		
三	2 久保 昇平	遊ゴロ								
	H2 溝口 弘一郎				左越本	四 球				
	2 吉田 智行							三 振		
四	7 大西 達也	右 直			三ゴロ					
	H7 谷本 光司					三ゴロ			三 振	
五	4 西村 啓		二ゴロ		二ゴロ			左前安	三ゴロ	
六	6 岡本 厚志		二 飛			中 飛				
	6 南風 貢						四 球		遊ゴロ	
七	8 武田 浩治		三 振		(憤死)	四 球	一儀バ			
八	3 福島 潤			三 振		遊安失	左前安(盗塁死)			
九	1 古里 公一郎			三 飛						
	1 和久 望					三ゴロ	三 振			
	1 竹下 雅樹									

DH守備

総評：東軍が西軍先発の立ち上がりを見事に捕らえ、2点を先制した。しかし、4回代打で登場した溝口選手（福岡大学）が初球を見事に同点本塁打した。これをきっかけに、西軍が相手投手の乱れにつけこんで加点し、ほぼ試合を決めた。最終回に原田選手（日本体育大学）が竹下投手（神戸学院大学）の速球を見事に左中間に本塁打したが、後続が断たれ、試合終了となった。投手対打者の一対一勝負が多く見られ、さらに男子らしい一発も飛び出した試合であった。（文責：兵庫教育大学 森田啓之）

対戦成績 男子西軍の12勝14敗、女子東軍の21勝（5年連続）5敗

表彰選手

最優秀選手賞 男子：溝口弘一郎捕手（西軍、福岡大学）
女子：浅木 明香投手（東軍、日本大学）
敢闘賞 男子：原田泰光右翼手（東軍、日本体育大学）
女子：西岡 留美投手（西軍、園田学園女子大学）

会場：日本体育大学深沢グラウンド



いま、熱いドラマが始まる。

白球が青空に舞う。音が消え時間が止まる。

おとずれるクライマックス。どよめきが起こり、

ためいきがもれる。

一球に笑い、一球に泣く、ホットなドラマ。

naigaiのボールは、永年の経験が
うみだす信頼のブランド。品質に対する情熱の
ドラマがいきづく一球です。

ガンバレ！白球ドラマの主人公たち。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

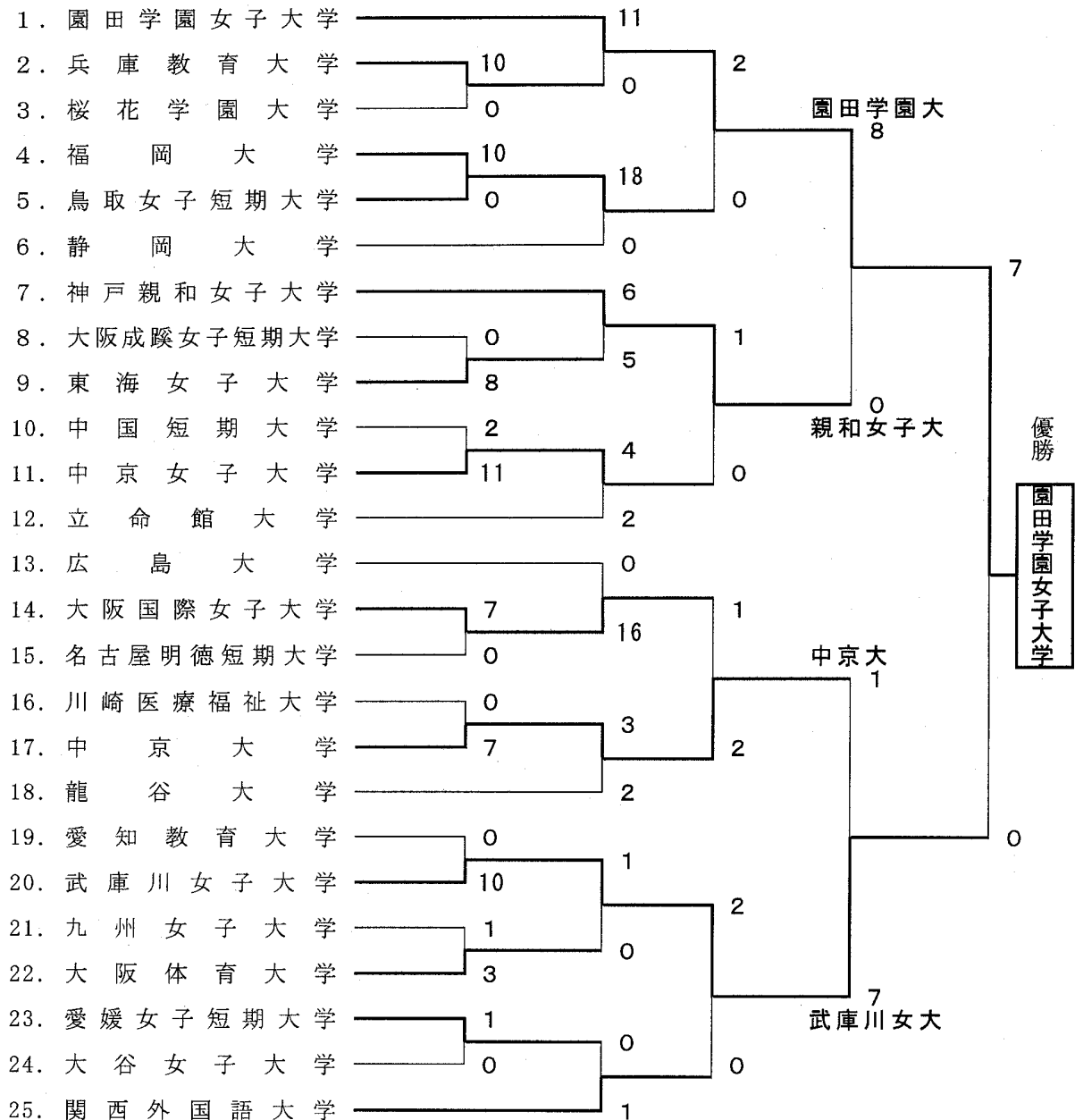
(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

第31回西日本大学ソフトボール選手権大会（女子）

会期：平成11年 7月31日（土）～ 8月2日（月）

会場：京都府城陽市山城総合運動公園（太陽ヶ丘野球場）



大会概要

大会は初日の夕立を除けば、3日間を通して晴天に恵まれ、その下で熱戦が繰り広げられた。試合は1回戦から好カードが数試合あり、1点を争う白熱したゲームが展開され、初日から強豪チームが姿を消す場面もあった。その中からベスト4に抜け出たのは、前年度優勝の園田学園女子大学、武庫川女子大学、神戸親和女子大学、中京大学であり、関西勢の層の厚さが伺えた結果となった。

準決勝戦は、園田学園女子大学が、初のベスト4で勢いづく神戸親和女子大学を破った。もう一つのゾーンでは武庫川女子大学が中京大学を下し、決勝は園田学園女子大学と武庫川女子大学の対決となった。このカードは春の関西リーグ優勝決定戦でもあり、好ゲームが期待された。試合は、園田学園女子大学が2本の本塁打を含む打線が爆発し、武庫川女子大学を下し、大会3連覇を成し遂げた。

優秀選手賞には西岡留美投手（園田学園女子大学）、優秀選手賞には宮原洋子投手（武庫川女子大学）が選出された。（文責：大阪国際女子大学 久保田豊司）

第31回西日本大学ソフトボール選手権大会（男子）

会期：平成11年7月31日(土)～8月2日(月)

会場：京都府城陽市鴻ノ巣山総合運動公園他

順位	大学名	学点	学点	学点	学点
1.	立命館大	7 x	4		
2.	東亜大	4			
3.	大阪府立大	3	0		
4.	福岡大	9			
5.	岐阜聖徳学園大	2	1		
6.	九州産業大	1			
7.	愛知大	8	4		
8.	京都大	9			
9.	岡山理科大	2	3		
10.	香川大	0	2		
11.	九州東海大	1	5		
12.	京産大	12	3		
13.	福山平成大	2			
14.	奈良教育大	2	3		
15.	第1経済大	20	4		
16.	広島経済大	3			
17.	四天王寺国際仏教大	11	0		
18.	四国学院大	3			
19.	熊本国大	10	2		
20.	静岡岡西大	0	5		
21.	関戸学大	9			
22.	神戸学院大	7	12		
23.	岡山教大	3	0		
24.	兵庫教育大	17			
25.	松山学大	11	1		
26.	宮崎産業経営大	0			
27.	愛知学大	2	2		
28.	弘前教大	1			
29.	九州共立大	18	1		
30.	岡山商科大	1	7		
31.	長崎県立大	0			
32.	龍谷大	9	8		
33.	常葉学園大	10	3		
34.	西日本工業大	7			
35.	同志社大	19	1		
36.	産業医科大学	0			
37.	近畿大工学部	6	1		
38.	九大工学部	0			
39.	九大工学部	2			
40.	四中	0	3		
41.	中京大	15			

大会概要

初日こそ第4、5試合が夕立に見舞われたものの、3日間を通して好天に恵まれ、その下で熱戦が繰り広げられた。ベスト4には大方の予想通り、立命館大学、中京大学、神戸学院大学、京都産業大学が順当に名乗りを上げてきた。関西リーグで互いの手の内を知り尽くしている立命館大学と京都産業大学の準決勝は接戦となったが、村里投手の投打にわたる活躍で立命館が決勝にコマを進めた。もう一つの準決勝は、中京大学が神戸学院大学竹下投手の立ち上がりを見事に捕らえ、大差で勝利した。決勝戦は中京大学山本投手が連投の疲れからか連打を浴び、終わってみれば意外な大差で立命館大学が優勝を果たした。最優秀選手賞には古里公一郎投手（立命館大学）、優秀選手賞には関根幸一二塁手（中京大学）が選ばれた。（文責：兵庫教育大学 森田啓之）

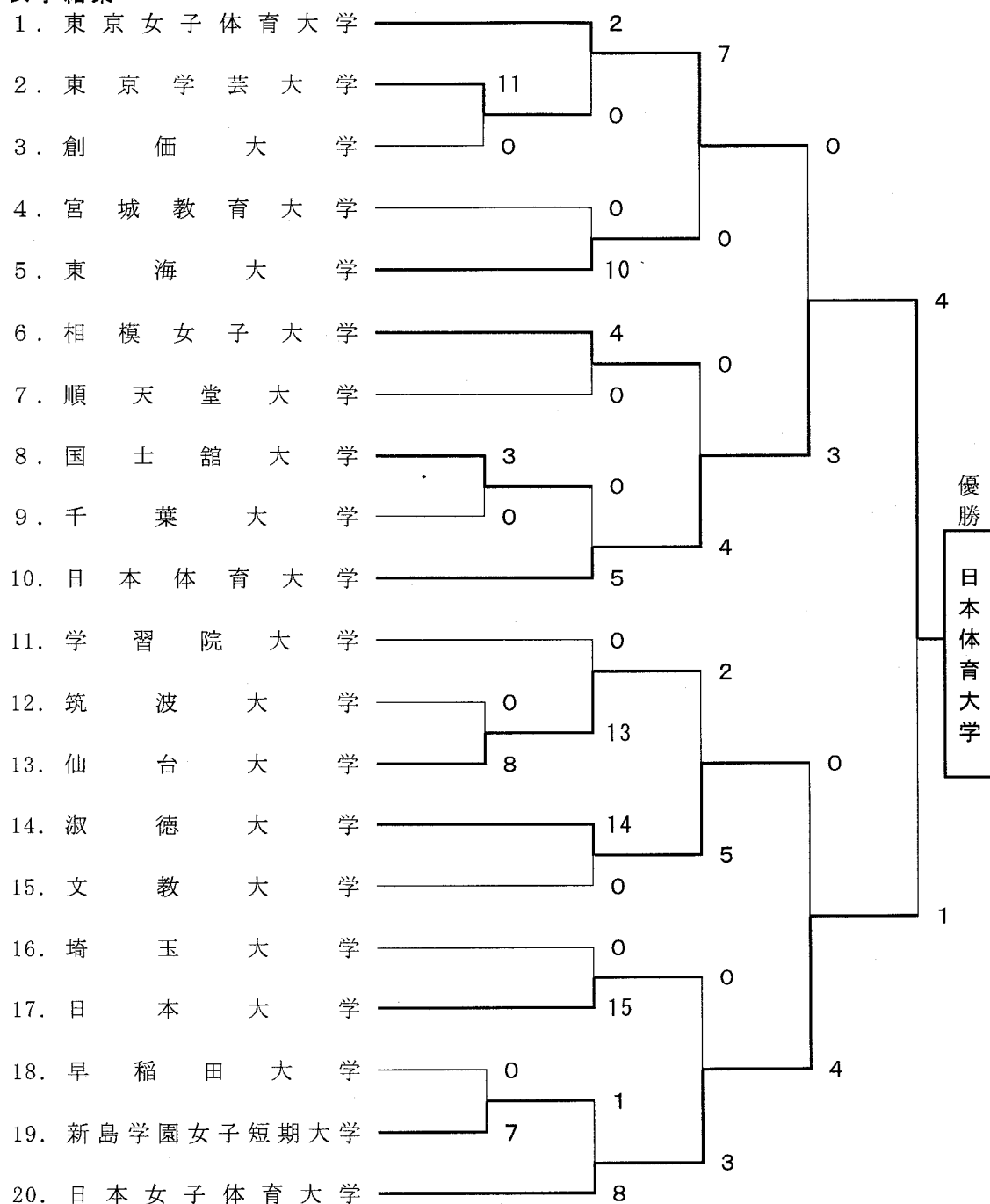
会場：埼玉県坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町

順位	大学名	得点	順位	大学名	得点
1.	日本体育大学	7	17.	筑波大学	5
2.	高崎経済大学	9	18.	東京大学	5
3.	山梨学院大学	8	19.	福島大学	1
4.	埼玉大学	8	20.	中央大学	9
5.	盛岡大学	1	21.	千葉大学	1
6.	城西大学	8	22.	関東学園大学	19
7.	明治大学	1	23.	群馬大学	3
8.	慶應義塾大学	15	24.	日本大学工学部	0
9.	日本大学生物資源科学部	18	25.	都留文科大学	7
10.	早稲田大学	8	26.	東京国際大学	15
11.	文教大学	0	27.	富山国際大学	4
12.	仙台大学	13	28.	国際武道大学	3
13.	信州大学	0	29.	国士舘大学	9
14.	文教大学情報国際学部	5	30.	東海大学	7
15.	明海大学	12			
16.	学習院大学	12			

埼玉県中央部2市1町で開催された大会は、梅雨明けの夏空のもと、猛暑と熱風・土ぼこりの中、参加30チームの若人が優勝を目指して熱戦を繰り広げた。決勝戦は、奇しくも日体大・東海大の両シード校の対戦となった。優勝した東海大は、失策から先行されて苦しい戦いとなったが、最終回一挙4点を挙げて大逆転、優勝の栄に輝いた。日体大は、優勢に試合を進めながら、守備の破綻から大魚を逃した。

40

女子結果



大会概要

梅雨晴れ10日。快晴に恵まれた本大会は、埼玉県中央部の坂戸市を会場として開催された。連日の猛暑の中、決勝に駒を進めた日体大と日女体大の両チームは、先制点を挙げた日体大が、日女体大の攻撃を1点に抑え、栄冠を勝ち得た。1週間に違いで、雨の心配の全くない大会だったが、選手を始め関係者一同、暑さ対策に追われる中で、随所に好プレーが見受けられ、一面レベル差から大量点の入るゲームもあった。また、少人数チームながら、学生らしく健闘する姿も見られ、好感を抱かせた。

なお、印象に残ったのは、打率6割2分5厘の佐田智美遊撃手（日体大）・3試合完投3勝の寺原満美投手（日体大）・大会最多7安打の大山晶子左翼手（仙台大）などの選手であった。（記録長 武藤康次）

第51回全日本総合女子選手権大会結果

会期：平成11年9月23日（木）～26日（日）

会場：高知県立春野総合運動公園

順位	学校名	愛知	大阪府	他府県
1	トヨタ自動車 (愛知)	3	0	0
2	日立工機 (茨城)	0	0	4
3	ホンダエンジニアリング (埼玉)	0	1	1
4	ミキハウス (大阪)	1	2	0
5	太陽誘電 (群馬)	7	0	1
6	園田学園女子大学 (兵庫)	1	0	1
7	三洋島根 (島根)	0	1	0
8	日立製作所 (神奈川)	1	0	0
9	YKK 四国 (香川)	7	0	0
10	鳥取女子短期大学 (鳥取)	0	0	0
11	戸田中央総合病院 (埼玉)	2	1	0
12	東邦銀行 (福島)	1	0	0
13	山形屋 (鹿児島)	0	0	1
14	大徳 (東京)	3	2	0
15	大和電気工業 (長野)	0	0	0
16	日立高崎 (群馬)	4	0	0
17	日立通工 (神奈川)	2	0	0
18	日本精工 (滋賀)	0	2	0
19	日立マクセル (京都)	1	2	0
20	デンソー (愛知)	2	0	0
21	仙台大学 (宮城)	0	0	0
22	伊予銀行 (愛媛)	1	3	0
23	東芝北九州 (福岡)	1	1	0
24	シオノギ製薬 (兵庫)	2	0	0
25	東京女子体育大学 (東京)	7	4	0
26	クラブ栃木 (栃木)	0	1	0
27	YKK 黒部 (富山)	1	0	0
28	静甲 (静岡)	0	0	0
29	松下電工 (埼玉)	3	0	0
30	FUKUJUSOU (岐阜)	2	0	0
31	関病院 (静岡)	0	2	0
32	豊田自動織機製作所 (愛知)	6	0	0

第51回全日本総合男子選手権大会結果

会期：平成11年9月23日（木）～26日（日）

会場：山口県下関市・長府扇町運動広場

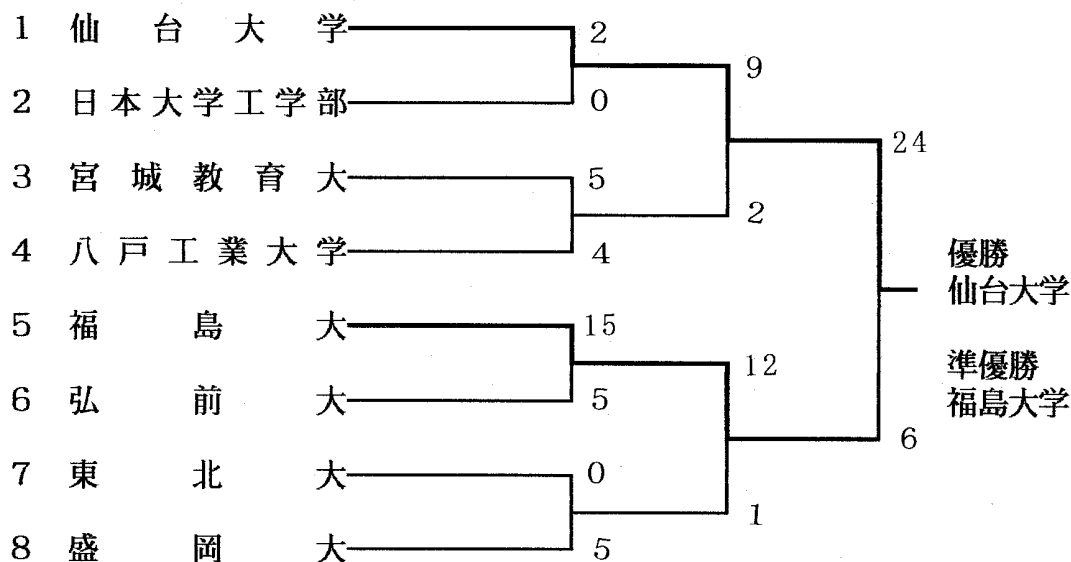
チーム名	得点	順位
ホンダエンジニアリング (埼玉)	7	13
浦上呑長 (長崎)	0	3
山梨クラブ (山梨)	3	1
香川興産 (香川)	7	2
西日本シロアリ (鹿児島)	0	2
オール武生 (福井)	6	0
大阪フェローズ (大阪)	3	4
日本体育大学 (東京)	3	1
東岡山クラブ (岡山)	5	2
石狩クラブ (北海道)	0	4
丹羽クラブ (愛知)	2	1
ツヅキグローバル (大阪)	14	0
USC浦安 (千葉)	1	0
東洋通信機 (福島)	0	1
九州不二サッソ (熊本)	3	2
デンソー (愛知)	1	1
トヨタ自動車 (愛知)	3	1
紳士服のシモノ (鹿児島)	3	1
横浜クラブウドウ (神奈川)	2	0
鳥取吹クラブ (鳥取)	6	1
山形県庁 (山形)	3	0
京都クラブ (京都)	3	0
KOA (長野)	1	1
埼玉県庁 (埼玉)	1	1
徳島市役所 (徳島)	0	2
NK (三重)	4	2
住友金属 (和歌山)	0	0
大阪FCクラブ (大阪)	14	0
旭化成 (宮崎)	8	9
静岡岡クラブ (静岡)	2	3
福島クラブ (福島)	8	8
日新製鋼 (広島)		

第20回 東北・北海道地区大学ソフトボール選手権大会
— 第34回全日本大学ソフトボール選手権大会東北北海道地区予選会 —

会期：平成11年5月15日（土）・16日（日）

会場：岩手県岩手郡滝沢村 岩手県立大学野球場・岩手県職員グラウンド

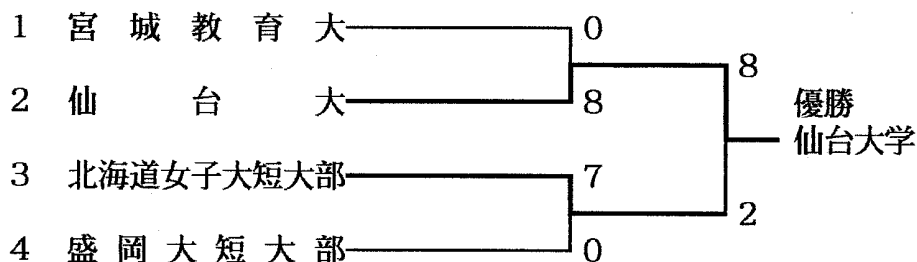
【男子の部】



【インカレ地元選出チーム決定戦 男子】

平成11年5月23日 宮城教育大学グラウンド
宮城教育大 9 - 2 東北大

【女子の部】



【コメント】

8月に宮城でひらかれるインカレの出場権を争う本大会は、男子は仙台大と福島大が、女子は仙台大が、順当に優勝・準優勝を獲得し、インカレ出場を決めた。仙台大男子は昨年の雪辱を果たし、同女子は9年連続の出場となった。男子は年々チームの力が接近してきて、好ゲームが展開され、最後までどこが残るか予断を許さない状況である。

今年は地元開催のため、通常枠の男子2女子1に加えて、宮城県チーム男女各1チームが出場できる。女子は自動的に宮城教育大に決まったが、男子の場合は東北大と宮教大で後日決定戦をやり、宮教大が勝ち男女そろっての出場となった。

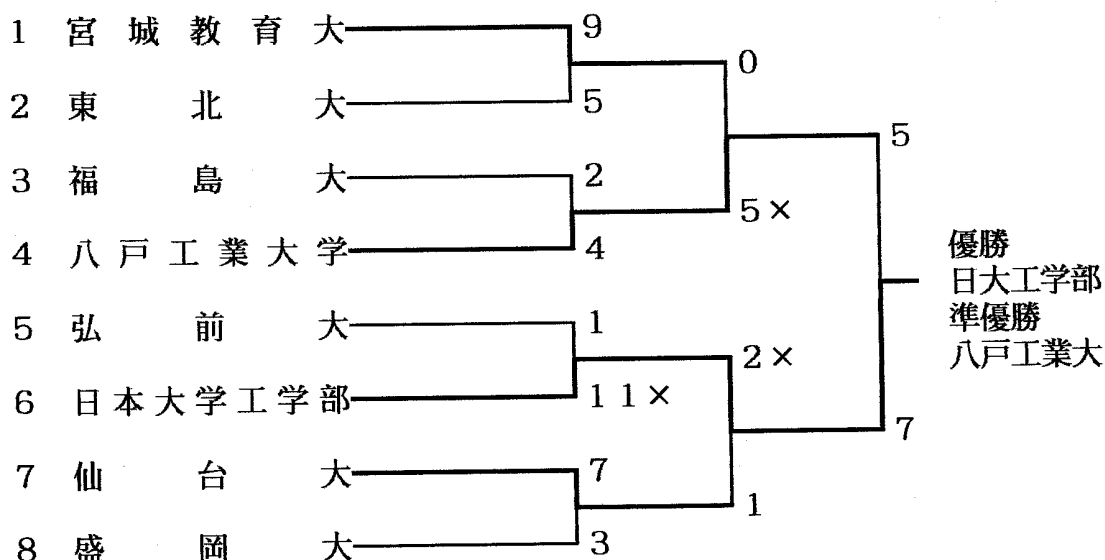
平成11年度 東北地区大学ソフトボール秋季トーナメント大会

会期：平成11年10月9日（土）・10日（日）

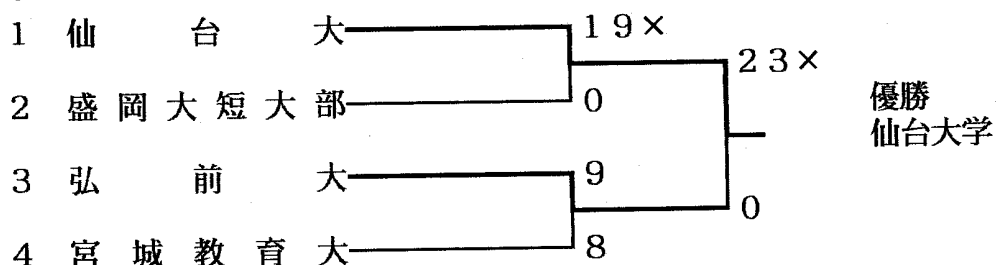
会場：宮城県柴田郡柴田町 柴田町多目的グラウンド（男子）

柴田町並松グラウンド（女子）

【男子の部】



【女子の部】



【コメント】

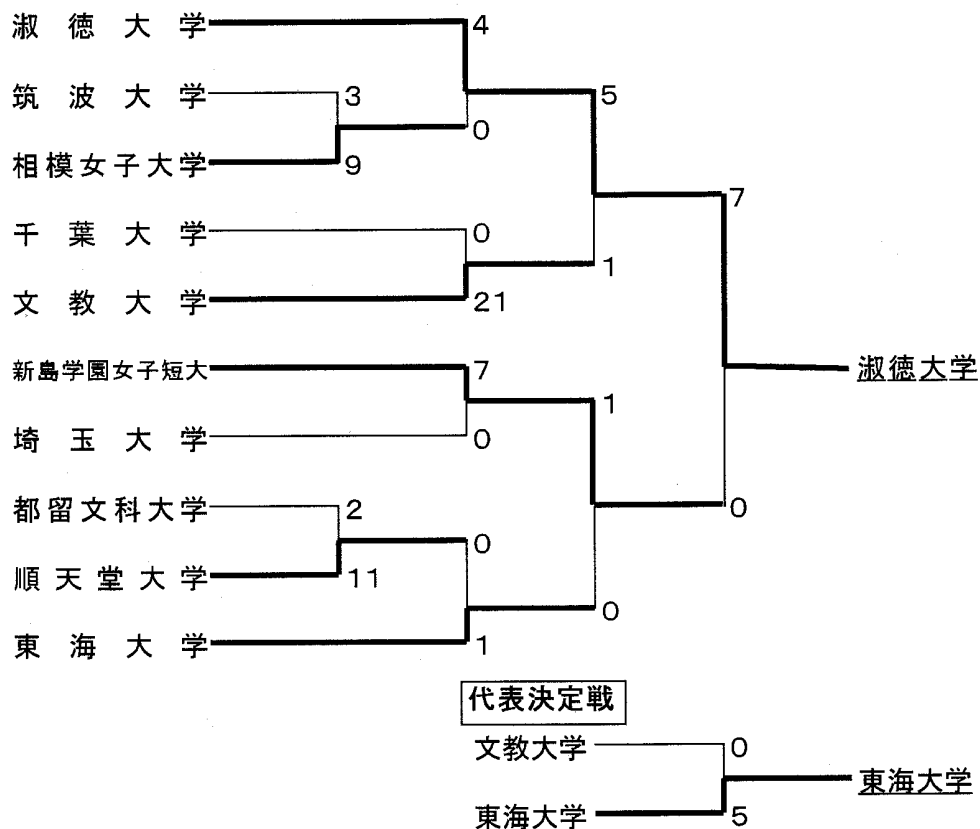
秋季トーナメント戦は、特に男子においてさながら新人戦の様相を呈し、インカレ予選の4年生メンバーが抜けて、12年生の戦力で戦っているチームが多く、春季リーグ戦やインカレ予選と比べると、各チームの実力やゲーム展開に大きな変化が見られる。その結果決勝は、八戸工大と日大工学部という工学部同士の珍しい組み合わせとなった。互角の力で似たチームカラーながら、集中打が功を奏して、日大が優勝を飾った。

結局学連にチーム登録していながら、春季・インカレ予選・秋季という3つの地区学連の公式の大会のいずれにも参加することの出来なかったチームが2チーム（八戸大男子・盛岡大女子）あったことは残念である。恐らくメンバーが足りないためであろうが、来季は上記公式ゲームに全登録チームが出場できることを希望している。また今年登録を見合わせた北里大学の復帰を切に望んでいる。

<男子>



<女子>



【総 評】

女子の部では、今大会においても淑徳大学、東海大学、新島学園女子短期大学によって上位が占められる結果となった。ただし、今大会では東海大学に代わり新島短大が初の準優勝に輝いた。準決勝における両校の対決は、島田（東海）、山内（新島）による投手戦となったが、新島は初回、橋本の好走塁による1得点を戸塚との継投で守りきった。

淑徳大学は、去年のインカレ第3位の自信をもとに、島田一勝又のバッテリーを中心に1点も与えない磐石の試合はこびで、本大会7連覇を果たした。

また新しい芽生えとして、順天堂大学が選手数を大幅に増やしたことがあげられる。相模女子大学でも1年生9名を獲得し、今後新勢力あるいは古豪復活が予見される。

第30回関東学生ソフトボール選手権大会

主 催： 関東学生ソフトボール連盟、関東ソフトボール協会

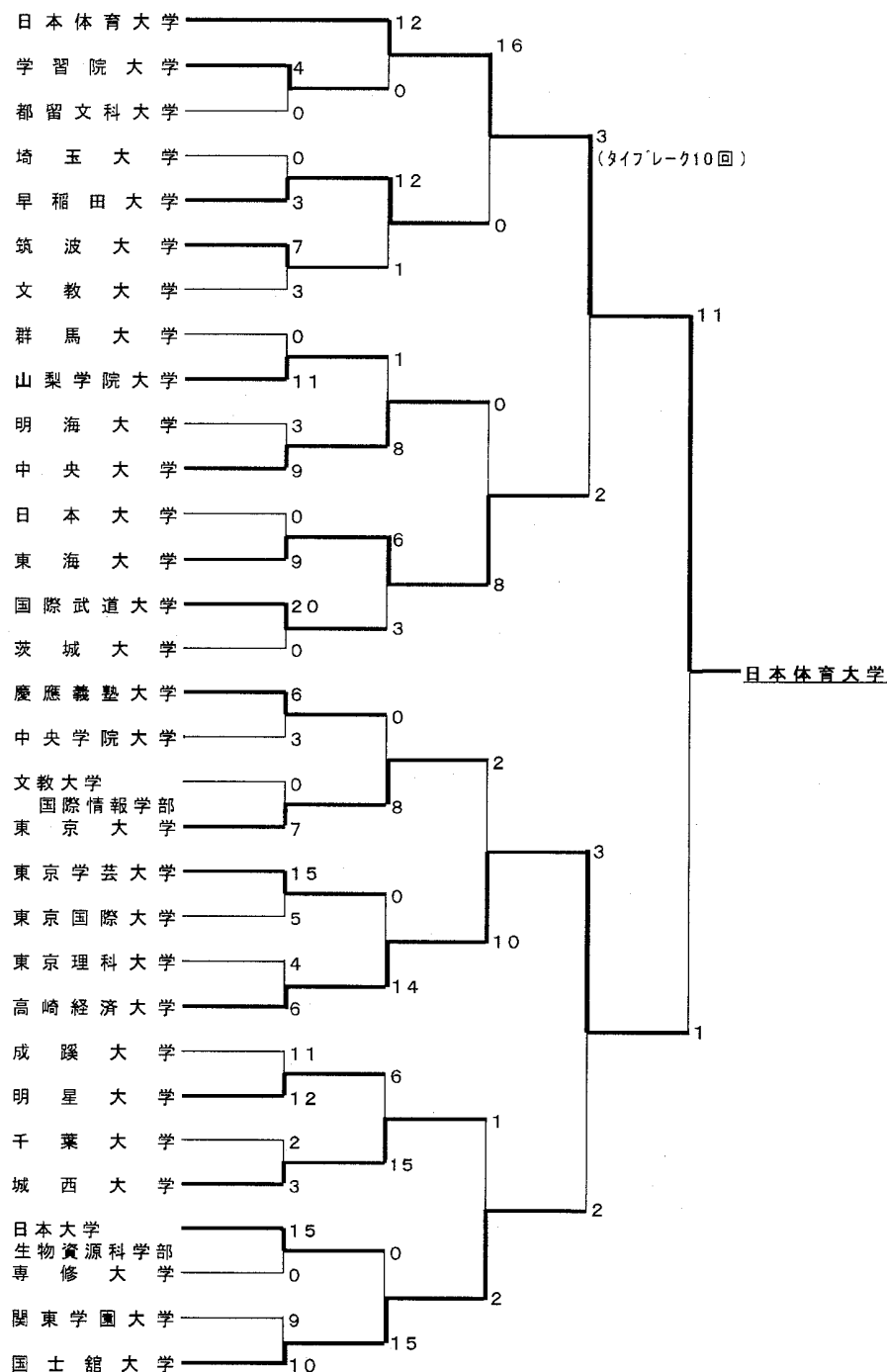
主 管： 茨城県ソフトボール協会・真壁町ソフトボール連盟

会 期： 平成11年10月16日(土)～18日(月)

会 場： 茨城県真壁町町民運動場他

(試合結果)

<男子>

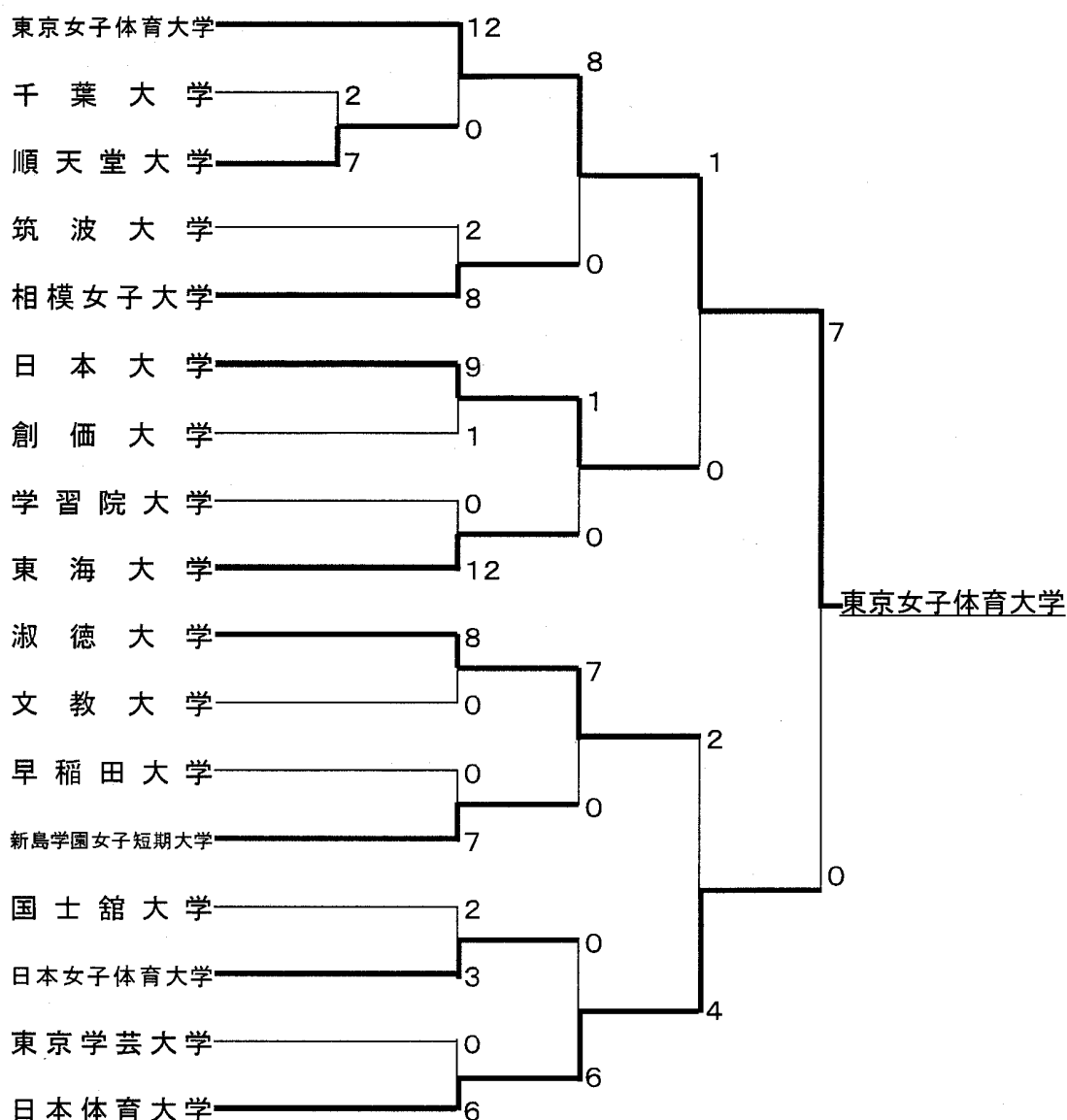


【総 評】

関東の雄である「日本体育大学」「国士舘大学」「東海大学」が相変わらずの強さを見せて順当に勝ち上がり、今大会もこの3強による覇権争いになるかと思われた。ところが、伏兵「高崎経済大学」が初日・二日目の勢いをそのままに、また、主戦福島投手の投打にわたる活躍もあって国士舘大学を敗るという大金星をあげ、第2大会(昭和46年)以来28年ぶりの決勝進出を果たした。

しかし、決勝戦では、10回タイブレークの末に東海大学を退けた日本体育大学が実力の違いをみせつけて大勝し、2年連続の覇者となった。今大会では大健闘をみせた高崎経済大学ではあったが、川口投手のキレの鋭いスライダーになす術もなく、28年ぶりの栄冠に手をかけることさえもできなかった。

<女子>



【総 評】

今大会も、覇権争いは「東京女子体育大学」と「日本体育大学」の顔ぶれとなり、関東では、ここしばらくこの両チームの力がとくに抜きん出ている状況にある。決勝戦では、好ゲームの期待をよそに東京女子体育大学が日本体育大学を圧勝し、2年連続の覇者となった。

今回の東京女子体育大学は、インカレ優勝や全日本総合での準優勝などの輝かしい戦歴が物語っているように、増淵投手を中心とした守りの鉄壁さや打線の破壊力は、関東は言うに及ばず現在の学生チームを完全にリードしていると思われる。

そういったなか、この東京女子体育大学を6回まで0点に押さえ込み、ベンチを慌てさせた「日本大学」の浅木投手の好投は特筆でいるものであった。また、「日本女子体育大学」と「淑徳大学」の足を絡めた巧い試合運びも目についた。

第5回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会

(兼文部大臣杯第 34 回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

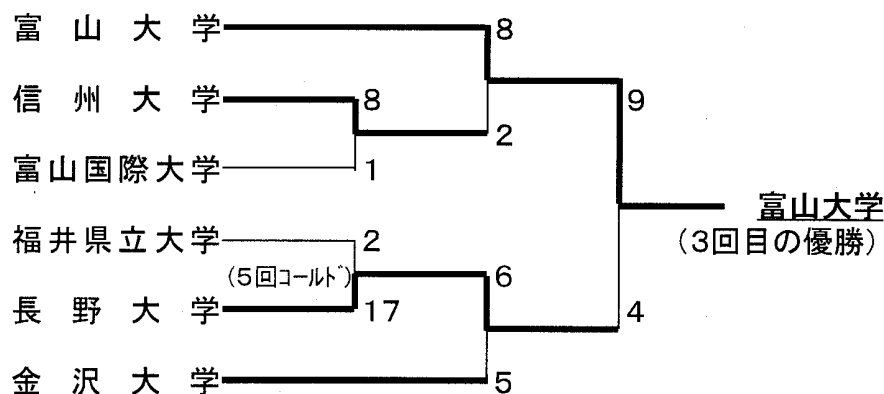
主 催：北信越地区大学ソフトボール連盟

会 期：平成11年5月29・30日

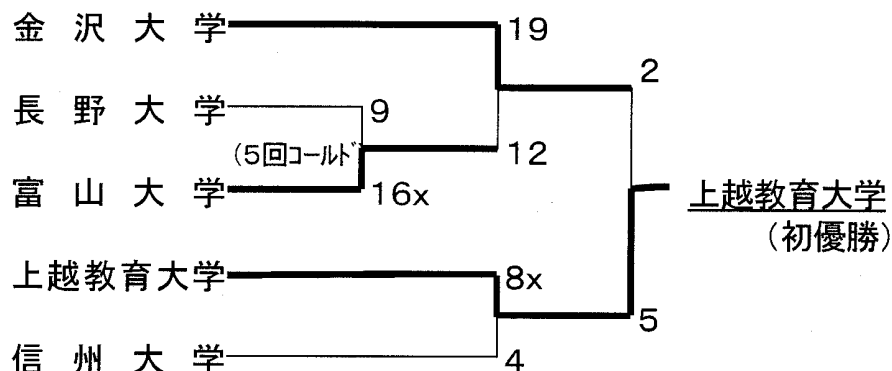
会 場：長野県長野市松代町西寺尾運動場

【試合結果】

<男子>



<女子>



【総評】

今年度は男子富山大学、女子上越教育大学がインカレ出場と決まりました。

男子は出場予定の福井大学が4年生の就職活動と重なったこと、新人が確保できなかったことが重なって出場できませんでした。これからもっと選手の確保が難しくなるものと思われます。試合結果は昨年と同様長野大学と富山大学との決勝戦となりましたが富山大学のピッチャーの出来が良く安定感のあるピッチングによって長野大学を下しました。

又女子も昨年と変わって越教育大学が決勝戦では昨年の新人戦の覇者金沢大学を相手にかなり優位に試合を進めて5対2で勝ちました。女子の方はまだまだ守備打撃共に稚拙な点があり夏までに精進が必要と思われます。負けた大学もそれぞれ良く健闘し、来年に向けて更に研鑽をつむものと期待します。

《北信越地区 黒田重靖 記》

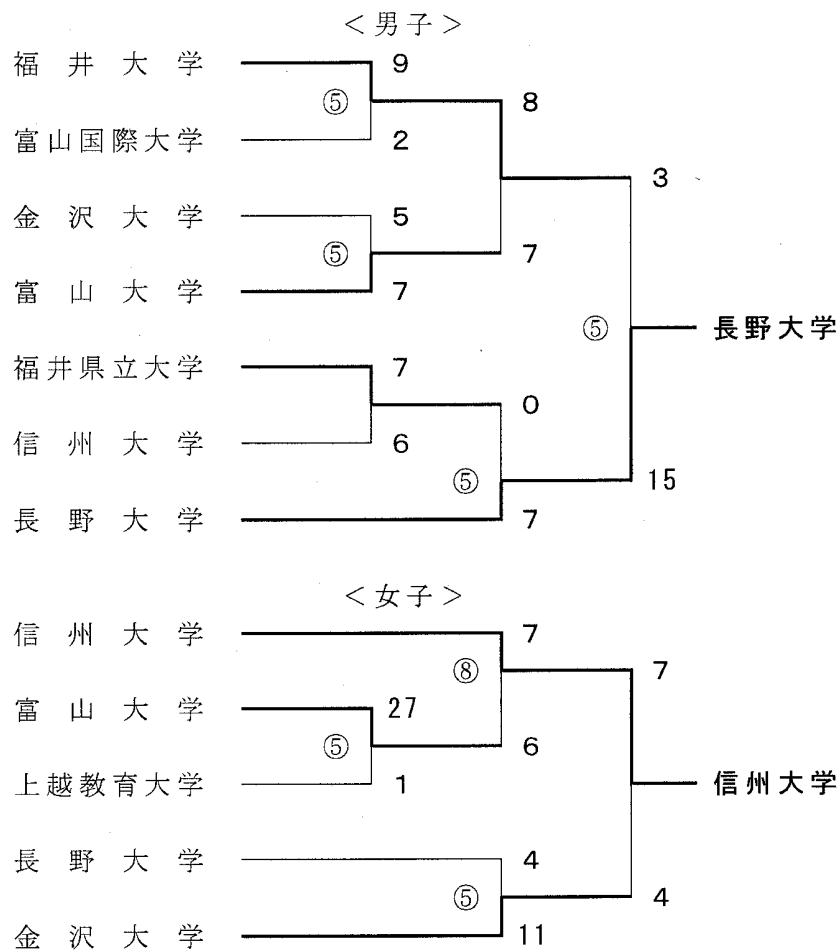
第6回北信越地区大学男子・女子ソフトボール新人戦

主催 北信越地区大学ソフトボール連盟

会期 平成11年10月9・10日

会場 富山市岩瀬スポーツ公園

【試合結果】



【総評】今年度の新人戦は男子が長野大学、女子は信州大学が優勝しました。男子の長野大学は投手と攻撃の両輪がうまくかみ合ってバランスのとれたチームで危なげなく勝ち進みました。特に剛速球という投手ではないがコントロールが良く守備にリズムをもたらしている。打撃は結構良いところがあるように見え、得点もコンスタントであることから優勝は順当なところといえます。他のチームも此から楽しみなところで冬場のチーム作り如何ではチャンスはあると思える。特に投手の整備にかかっている。

女子では信州大学が安定した力を出していたように思えます。投手はコントロールとスピードがあり他を離しているが、時折コントロールミスがあつて不安なところがあるが此も来シーズンまでには克服されれば打撃と共にいいチームとなるでしょう。他のチームでは投手が良ければというチームも幾つかあるのでやはり冬場の投手力整備にかかっていると思われます。

一般にチームは今が出発なので来春の大会までどのように作り上げるかにかかっています。《北信越地区 黒田重靖》

平成11年度第31回東京都大学ソフトボール 春季リーグ戦(男女)

会 期：平成11年4月18日～

主 催：東京都大学ソフトボール連盟

昨年のインカレ優勝の日本体育大学(男子)・東京女子体育大学(女子)を擁する第31回東京都大学リーグ春季リーグは4月18日から男子4、女子3の計7部にわたって開催されました。

本年は晴天にも恵まれ、各地で無事に日程が消化されましたが、女子の入れ替え戦は相次ぐ雨天中止を経て7月までもつれ込んでしまいました。

【試合結果】

<男子>

1 部	日体大	国士館	中大	早稲田	成蹊	学習院	勝	敗	分	順位
日体大		○ 4-2	○ 8-0	○ 5-2	○ 5-0	○ 13-0	5	0	0	優勝
国士館	● 2-4		○ 6-5	○ 10-0	○ 13-1	○ 10-0	4	1	0	2
中大	● 0-8	● 5-6		○ 7-2	○ 10-3	○ 12-5	3	2	0	3
早稲田	● 2-5	● 0-10	● 2-7		○ 11-0	○ 8-5	2	3	0	4
成蹊	● 0-5	● 1-13	● 3-10	● 0-11		○ 7-3	1	4	0	5
学習院	● 0-13	● 0-10	● 5-12	● 5-8	● 3-7		0	5	0	6

MVP：和佐野 弘一(日本体育大)

入れ替え戦：学習院 6-5 東大 <学習院残留>

2 部	東大	慶大	日大	学芸大	杏林大	明大	勝	敗	分	順位
東大		○ 11-5	○ 7-0	○ 10-0	○ 10-0	○ 10-0	5	0	0	優勝
慶大	● 5-11		○ 7-5	● 4-5	○ 18-4	○ 11-1	3	2	0	2
日大	● 0-7	● 5-7		○ 6-4	○ 10-6	○ 11-5	3	2	0	3
学芸大	● 0-10	○ 5-4	● 4-6		○ 6-5	○ 5-2	3	2	0	4
杏林大	● 0-10	● 4-18	● 6-10	● 5-6		○ 20-8	1	4	0	5
明大	● 0-10	● 1-11	● 5-11	● 2-5	● 8-20		0	5	0	6

MVP：渡辺 琢也(東大)

入れ替え戦：明大 3-10 桜美林 <桜美林昇格>

3 部	桜美林	文教大	東農大	明星大	専修大	一橋大	勝	敗	分	順位
桜美林		○ 8-1	○ 14-4	○ 10-7	○ 11-8	○ 11-5	5	0	0	優勝
文教大	● 1-8		○ 8-6	○ 16-0	● 7-8	○ 35-5	3	2	0	2
東農大	● 4-14	● 6-8		○ 10-9	○ 9-2	● 13-15	2	3	0	3
明星大	● 7-10	● 0-16	● 9-10		○ 8-7	○ 11-1	2	3	0	4
専修大	● 8-11	○ 8-7	● 2-9	● 7-8		○ 18-4	2	3	0	5
一橋大	● 5-11	● 5-35	○ 15-13	● 1-11	● 4-18		1	4	0	6

MVP：菅野 康幸(桜美林大)

入れ替え戦：一橋大 17-18 武蔵工大 <武蔵工大昇格>

4 部	武蔵工	日本歯	東洋大	東経大	帝京大	I C U	勝	敗	分	順位
武蔵工		○ 10-9	○ 15-0	○ 7-0	○ 12-0	○ 21-2	5	0	0	優勝
日本歯	● 9-10		○ 18-9	○ 20-3	○ 42-0	○ 12-2	4	1	0	2
東洋大	● 0-15	● 9-18		○ 11-4	○ 14-9	● 4-16	2	3	0	3
東経大	● 0-7	● 3-20	● 4-11		○ 21-1	○ 19-15	2	3	0	4
帝京大	● 0-12	● 0-42	● 9-14	● 1-21		○ 13-12	1	4	0	5
I C U	● 2-21	● 2-12	○ 16-4	● 15-19	● 12-13		1	4	0	6

MVP : 村山 勲(武蔵工大)

<女子>

1 部	東女体	日女体	日体大	学芸大	国士館	学習院	勝	敗	分	順位
東女体大		○ 8-0	○ 2-0	○ 15-0	○ 2-0	○ 36-0	5	0	0	優勝
日女体大	● 0-8		○ 4-3	○ 2-0	● 3-4	○ 11-0	3	2	0	2
日体大	● 0-2	● 3-4		○ 12-4	○ 1-0	○ 16-0	3	2	0	3
学芸大	● 0-15	● 0-2	● 4-12		○ 5-1	○ 20-1	2	3	0	4
国士館	● 0-2	○ 4-3	● 0-1	● 1-5		○ 13-0	2	3	0	5
学習院	● 0-36	● 0-11	● 0-16	● 1-20	● 0-13		0	5	0	6

MVP : 増渕 まり子(東海女子体育大)

入れ替え戦: 学習院 0-7 日大 <日大昇格>

2 部	日大	早稲田	中大	専修大	桜美林	明星大	勝	敗	分	順位
日大		○ 6-3	○ 7-0	○ 10-0	○ 13-0	○ 8-0	5	0	0	優勝
早稲田	● 3-6		○ 15-3	○ 8-1	○ 13-1	○ 14-2	4	1	0	2
中大	● 0-7	● 3-15		○ 8-7	○ 11-4	○ 6-5	3	2	0	3
専修大	● 0-10	● 1-8	● 7-8		○ 7-6	○ 9-6	2	3	0	4
桜美林	● 0-13	● 1-13	● 4-11	● 6-7		○ 8-4	1	4	0	5
明星大	● 0-8	● 2-14	● 5-6	● 6-9	● 4-8		0	5	0	6

MVP : 浅木 明香(日大)

入れ替え戦: 明星大 6-3 創価大 <明星大残留>

3 部	創価大	日本女	勝	敗	分	順位
創価大		○ 9-2	1	0	0	優勝
日本女大	● 2-9		0	1	0	2

MVP : 田中 博子(創価大)

平成11年度第31回東京都大学ソフトボール 秋季リーグ戦(男女)

会 期： 平成11年9月4日～

主 催： 東京都大学ソフトボール連盟

今夏のインカレ準優勝の早稲田大学(男子)・そして今年も優勝を飾った強豪東京女子体育大学(女子)を擁する第31回東京都大学リーグ秋季リーグは9月4日から男子4、女子3の計7部にわたって開催されました。

男子1部ではしばらくの間優勝を続けていた日本体育大学を押し分け、国士舘大学が優勝、女子は順当に東京女子体育大学が優勝しました。

【試合結果】

<男子>

1 部	国士舘	日体大	早稲田	学習院	中大	成蹊大	勝	敗	分	順位
国士舘		● 2-3	○ 6-2	○ 8-1	○ 18-0	○ 10-0	4	1	0	優勝
日体大	○ 3-2		● 2-4	○ 7-3	○ 7-0	○ 14-0	4	1	0	2
早稲田	● 2-6	○ 4-2		○ 8-4	○ 8-1	○ 12-0	4	1	0	3
学習院	● 1-8	● 3-7	● 4-8		○ 7-6	○ 9-2	2	3	0	4
中大	● 0-18	● 0-7	● 1-8	● 6-7		○ 10-0	1	4	0	5
成蹊大	● 0-10	● 0-14	● 0-12	● 2-9	● 0-10		0	5	0	6

MVP：須田 竜(国士舘大)

入れ替え戦：成蹊大 3-7 東大 <東大昇格>

2 部	東大	日大	学芸大	桜美林	杏林大	慶大	勝	敗	分	順位
東大		○ 14-4	○ 8-0	○ 10-0	○ 8-0	● 9-10	4	1	0	優勝
日大	● 4-14		○ 10-5	○ 5-2	○ 16-2	○ 10-0	4	1	0	2
学芸大	● 0-8	● 5-10		○ 7-6	○ 8-7	○ 7-6	3	2	0	3
桜美林	● 0-10	● 2-5	● 6-7		○ 9-6	○ 14-4	2	3	0	4
杏林大	● 0-8	● 2-16	● 7-8	● 6-9		○ 11-7	1	4	0	5
慶大	○ 10-9	● 0-10	● 6-7	● 4-14	● 7-11		1	4	0	6

MVP：永島 拓(東大)

入れ替え戦：慶大 5-3 明星大 <慶大残留>

3 部	明星大	東農大	文教大	明治大	専修大	武蔵工	勝	敗	分	順位
明星大		○ 11-7	○ 10-1	● 6-8	○ 8-1	○ 10-1	4	1	0	優勝
東農大	● 7-11		○ 5-1	○ 6-5	○ 10-6	○ 11-1	4	1	0	2
文教大	● 1-10	● 1-5		○ 7-2	○ 3-2	○ 10-3	3	2	0	3
明治大	○ 8-6	● 5-6	● 2-7		△ 2-2	○ 14-2	2	2	1	4
専修大	● 1-8	● 6-10	● 2-3	△ 2-2		○ 25-1	1	3	1	5
武蔵工	● 1-10	● 1-11	● 3-10	● 2-14	● 1-25		0	5	0	6

MVP：畠山 三弘(明星大)

入れ替え戦：武蔵工大 0-28 日本歯科大 <日本歯科大昇格>

4 部	日本歯	一橋大	東洋大	I C U	東経大	帝京大	勝	敗	分	順位
日本歯		○ 14-10	○ 18-5	○ 8-7	○ 25-2	○ 22-12	5	0	0	優勝
一橋大	● 10-14		△ 19-19	○ 25-13	○ 21-0	○ 29-9	3	1	1	2
東洋大	● 5-18	△ 19-19		○ 9-2	○ 17-15	○ 18-14	3	1	1	3
I C U	● 7-8	● 13-25	● 2-9		○ 10-3	● 11-22	1	4	0	4
東経大	● 2-25	● 0-21	● 15-17	● 3-10		○ 21-15	1	4	0	5
帝京大	● 12-22	● 9-29	● 14-18	○ 22-11	● 15-21		1	4	0	6

MVP : 岡木 振一郎(日本歯科大)

<女子>

1 部	東女体	日女体	日体大	国士館	日大	学芸大	勝	敗	分	順位
東女体大		○ 12-0	○ 2-0	○ 11-0	○ 1-0	○ 10-0	5	0	0	優勝
日女体大	● 0-12		○ 2-1	○ 3-2	○ 5-0	○ 13-0	4	1	0	2
日体大	● 0-2	● 1-2		○ 13-0	○ 5-0	○ 23-0	3	2	0	3
国士館	● 0-11	● 2-3	● 0-13		○ 3-2	○ 10-3	2	3	0	4
日大	● 0-1	● 0-5	● 0-5	● 2-3		○ 11-0	1	4	0	5
学芸大	● 0-10	● 0-13	● 0-23	● 3-10	● 0-11		0	5	0	6

MVP : 武井 祐美(東京女子体育大)

入れ替え戦: 学芸大 7-2 早稲田 <学芸大残留>

2 部	早稲田	学習院	専修大	中大	桜美林	明星大	勝	敗	分	順位
早稲田		○ 9-0	○ 4-0	○ 7-0	○ 11-0	○ 11-0	5	0	0	優勝
学習院	● 0-9		○ 7-1	○ 10-3	○ 9-1	○ 17-8	4	1	0	2
専修大	● 0-4	● 1-7		○ 8-4	○ 5-3	● 1-4	2	3	0	3
中大	● 0-7	● 3-10	● 4-8		○ 13-12	○ 6-4	2	3	0	4
桜美林	● 0-11	● 1-9	● 3-5	● 12-13		○ 6-4	1	4	0	5
明星大	● 0-11	● 8-17	○ 4-1	● 4-6	● 4-6		1	4	0	6

MVP : 青木 真理(早稲田)

入れ替え戦: 明星大 8-0 日本女子大 <明星大残留>

3 部	日本女	創価大	勝	敗	分	順位
日本女大		○ 7-5	1	0	0	優勝
創価大	● 5-7		0	1	0	2

MVP : 川畑 りえ(日本女子大)

平成11年度春季第33回東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦結果

- 主 催：東海地区大学ソフトボール連盟
- 主 管：愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・幸田町ソフトボール協会・中京女子大学
- 開催日：5月1・2・3・5日
- 会 場：愛知県幸田町とぼね運動場
- 一部リーグ戦対戦成績

チーム	東 海	中 京	中 女	桜 花	明 徳	勝	分	敗	勝点	順位
東海女子		● 0-1	○ 13-6	◎ 9-2	○ 1-0	4	0	1	+5	2位
中 京	○ 1-0		○ 5-0	◎ 11-1	○ 4-2	5	0	0	+9	優勝
中京女子	● 6-13	● 0-5		○ 10-2	○ 3-1	2	0	2	±0	3位
桜花学園	◆ 2-9	◆ 1-11	● 2-10		○ 3-2	1	0	3	-6	4位
明 徳	● 0-1	● 2-4	● 1-3	● 2-3		0	0	4	-8	5位

6. 女子二部リーグ戦結果

チーム	愛 教	静 岡	名 大	常 葉	聖 徳	勝	分	敗	勝点	順位
愛知教育		● 1-3	◎ 7-0	○ 6-0	◎ 17-0	3	0	1	+6	2位
静 岡	○ 3-1		○ 5-2	◆ 2-9	◎ 14-6	3	0	1	+4	3位
名古屋	◆ 0-7	● 2-5		◆ 0-11	○ 16-13	1	0	3	-6	4位
常葉学園	● 0-6	◎ 9-2	◎ 11-0		◎ 19-0	3	0	1	+7	優勝
岐阜聖徳	◆ 0-17	◆ 6-14	● 13-16	◆ 0-19		0	0	4	-11	6位

◎：コールド勝ち(+3) ○：勝ち(+2) □：タイブレイク勝ち(+1) △：引き分け(±0)
 ■：タイブレイク負け(-1) ●：負け(-2) ◆：コールド負け(-3) ()内は勝点

7. 大学選手権第3代表決定戦

常葉学園大学：0 0 0 0 0 | 0 ●杉山一板倉
中京女子大学：0 1 6 2 x | 9 ○内藤一鈴木

8. 個人表彰

最優秀選手賞：安田真富果 左翼手（中京大学2年）

敢闘選手賞：綾部 稚恵 投手（東海女子大学1年）

優秀選手賞：杉山 自穂 遊撃手（常葉学園大学2年）

一部首位打者賞：安田真富果 左翼手（中京大学2年 6割6分7厘）

二部首位打者賞：中根 江美 投手（常葉学園大学3年 7割0分0厘）

ベストナイン：投手 白井 景子（中京女子大学2年）

捕手 寺村 朋子（中京大学4年）

一塁手 西埜 美和（東海女子大学4年）

二塁手 小池有香理（中京大学2年）

三塁手 大矢 留美（東海女子大学2年）

遊撃手 池内真理子（中京大学2年）

左翼手 安田真富果（中京大2年）

中堅手 塩川 愛（中京大学4年）

右翼手 六鹿 美樹（中京大学2年）

指名打者 植田麻紀子（中京女子大学4年）

9. 総評

一日は雨に流されたものの、それ以外はさわやかな青空と眩しい新緑のもとにリーグ戦は展開された。一部リーグ戦は、終わってみればいつもの指定席に納まったように感じられるが、それぞれに見応えのある試合が展開された。特に、優勝を決めた中京対東海女子と、最下位を決めた桜花対明徳の試合が印象に残る。前者では、中京大の安田外野手の打撃と新人ながら好投した綾部投手が注目された。また後者では、桜花学園大の粘りが目についた。明徳短大は4試合すべてに善戦し全敗するという残念な結果になったが、走塁を強化すれば決して最下位に甘んじるようなチームではなくなるであろう。また、二部リーグ戦は、上位3チームが三つ巴になり、愛教大が常葉大戦での得点がわずかに1点及ばず、常葉大に優勝をさらわれた形になった。これには、大会規定によるとはいえ、勝負の厳しさを思い知らされた。

なお、今季から導入された3回コールド制は、時間短縮には役立ったが、敗戦チームには物足りなさを感じさせたようだ。秋季は、南山大と学泉大の復帰を待つて、一部二部各6チームで賑やかに開催したい。（中京女子大 水谷）

平成11年度春季第44回東海地区大学（男子）ソフトボールリーグ戦結果

1. 期日：5月1・2・3・5日
2. 会場：愛知県豊田市千石ソフトボール場
3. 男子一部リーグ戦結果

チーム	中 京	愛 知	常 葉	学 院	静 岡	聖 徳	勝	分	敗	勝点	順位
中 京		○ 3-1	● 9-13	◎ 19-2	◎ 8-1	○ 9-0	4	0	1	+8	優勝
愛 知	● 0-3		◎ 12-3	◎ 8-1	◎ 7-0	◎ 7-0	4	0	1	+10	2位
常葉学園	○ 13-9	◆ 3-12		● 7-11	○ 7-2	◎ 13-0	3	0	2	+2	3位
愛知学院	◆ 2-19	◆ 1-8	○ 11-7		● 5-6	○ 7-5	2	0	3	-4	4位
静 岡	◆ 1-8	◆ 0-7	● 2-7	○ 6-5		● 2-3	1	0	4	-8	6位
岐阜聖徳	● 0-9	◆ 0-7	◆ 0-13	● 5-7	○ 3-2		1	0	4	-8	5位

4. 男子二部リーグ戦結果

チーム	朝 日	岐 経	名古屋	みずほ	愛 教	南 山	名 城	日 福	勝	分	敗	勝点	順位
朝 日		● 12-14	● 17-18	◎ 21-0			● 4-7		1	0	2	-1	6位
岐阜経済	○ 14-12		○ 7-6	◎ 12-0	● 6-7				3	0	0	+7	2位
名 古 屋	○ 18-17	● 6-7		◎ 14-7		◆ 0-13			2	0	1	+3	4位
み ず ほ	◆ 0-21	◆ 0-12	◆ 7-14					◎ 14-2	0	0	3	-6	7位
愛知教育		○ 7-6				○ 5-2	○ 4-0	◎ 18-3	3	0	0	+7	優勝
南 山			◎ 13-0		● 2-5		○ 10-5	◎ 15-2	2	0	1	+3	3位
名 城	○ 7-4				● 0-4	● 5-10		◎ 17-0	1	0	2	-1	5位
日本福祉				◆ 2-14	◆ 3-18	◆ 2-15	◆ 0-17		0	0	0	-6	8位

◎：コールド勝ち(+3) ○：勝ち(+2) □：タイブレイク勝ち(+1) △：引き分け(±0)

■：タイブレイク負け(-1) ●：負け(-2) ◆：コールド負け(-3) ()内は勝点

5. 個人表彰

最優秀選手賞：小岩正敏三塁手（中京大3年）

敢闘選手賞：武田剛史捕手（愛知大4年）

優秀選手賞：佐藤圭一中堅手（愛知教育大4年）

一部首位打者賞：岡村卓典捕手（中京大3年）

二部首位打者賞：岡本大輔投手（朝日大4年）

ベストナイン：投 手 小野川直人（中京大3年）

捕 手 岡村卓典（中京大3年）

一塁手 高橋龍雄（愛知学院大4年）

二塁手 吉村 啓（中京大3年）

三塁手 小岩正敏（中京大3年）

遊撃手 坂本英也（愛知大3年）

左翼手 牧 重信（愛知大4年）

中堅手 良知宏一（常葉学園大4年）

右翼手 大山 勲（常葉学園大4年）

6. 総評

平成11年度春季第44回東海地区大学男子ソフトボールリーグ戦は上記4日間の日程により、参加14校による1部15試合、2部12試合、2部順位決定戦4試合、第3代表決定戦1試合の合計32試合が展開された。雨による1日の順延があった以外は順調に消化された。

中京大学と愛知大学が4勝1敗で並んだが直接対決の結果、中京大学の2季連続の通算34回目の優勝となった。今リーグも中京大学の壁は他大学の前にたちはだかった結果となった。勝ったチームが優勝となる今リーグ戦の最終試合となった中京大学VS愛知大学は熱戦が予測されたが終わってみれば中京大学の完勝となった。特に中京大小岩選手（3年、石川野々市明倫高出）の2本の長打は効果的であった。敗れた愛知大学は目の前にぶらさがっていた久しぶりの優勝をさらわれた格好となった。接戦でこそ粘りのある試合運びができるようなチーム作りを急ぎたい。常葉学院大学は中京大戦で見せたような打撃と勢いをどんな相手にも出していきたい。下位3チームは苦戦を強いられた。特に愛知学院大学は2部制になって初の2部降格の危機を最終戦で回避した。3チームは全日本大学選手権には出場できないが秋以降の立て直しをはかってもらいたい。（文責：愛知大学 紅林和博）

平成11年度秋季第34回東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦結果

- 主 催：東海地区大学ソフトボール連盟
- 主 管：愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・刈谷市ソフトボール連盟・中京女子大学
- 開催日：10月9・11・24・31日
- 会 場：愛知県刈谷市刈谷駅南運動場広場
- 一部リーグ戦対戦成績

チーム	中 京	東 海	中 女	桜 花	明 徳	常 葉	勝	分	敗	勝点	順位
中 京		■ 0-4	○ 3-0	◎ 7-0	○ 3-1	◎ 11-0	4	0	1	+9	優勝
東海女子	□ 4-0		● 0-2	◎ 7-0	○ 4-1	◎ 12-0	4	0	1	+7	3位
中京女子	● 0-3	○ 2-0		○ 6-1	○ 3-1	◎ 7-0	4	0	1	+7	2位
桜花学園	◆ 0-7	◆ 0-7	● 1-6		◆ 1-8	○ 2-1	1	0	4	-9	5位
明 徳	● 1-3	● 1-4	● 1-3	◎ 8-1		○ 10-5	2	0	3	-1	4位
常葉学園	◆ 0-11	◆ 0-12	◆ 0-7	● 1-2	● 5-10		0	0	5	-13	6位

6. 女子二部リーグ戦結果

チーム	愛 教	静 岡	名古屋	聖 徳	南 山	学 泉	勝	分	敗	勝点	順位
愛知教育		● 6-8	◎ 10-0	◎ 12-5	○ 6-1	◎ 12-0	4	0	1	+9	2位
静 岡	○ 8-6		◎ 15-8	◎ 11-1	○ 9-4	◎ 8-0	5	0	0	+13	優勝
名 古 屋	◆ 0-10	◆ 8-15		○ 12-11	○ 3-2	◎ 12-2	2	0	3	+1	3位
岐阜聖徳	◆ 5-12	◆ 1-11	● 11-12		◆ 0-7	○ 5-1	1	0	4	-9	5位
南 山	● 1-6	● 4-9	● 2-3	◎ 7-0		◎ 7-0	2	0	3	±0	4位
愛知学泉	◆ 0-12	◆ 0-8	◆ 2-12	● 1-5	◆ 0-7		0	0	5	-14	6位

◎：コールド勝ち(+3) ○：勝ち(+2) □：タイブレイク勝ち(+1) △：引き分け(±0)
 ■：タイブレイク負け(-1) ●：負け(-2) ◆：コールド負け(-3) ()内は勝点

7. 一部二部入れ替え戦

常葉学園大学：4 1 1 2 0 | 8 ○中根一板倉 (6回日没コールド)
静岡大学：0 5 0 0 2 | 7 ●惣領一海老

初回に先頭打者からの4連打で4点を先行した常葉学園大であったが、静岡大も2回に打者一巡の猛攻で追いつき、緊迫した展開になった。常葉学園大が4回までの毎回得点で突き放したかに思われたが、静岡大は5回に1点差まで追いつけた。しかし、常葉学園大は必死の守りで、辛うじて1部残留を決めた。日没によって7回まで戦えなかったのは、誠に残念であった。

8. 個人表彰

最優秀選手賞：北岡 梨奈 右翼手 (中京大学3年)

敢闘選手賞：杉林佳代子 遊撃手 (中京女子大学3年)

優秀選手賞：相川 智美 三塁手 (静岡大学4年)

一部首位打者賞：松山 香織 遊撃手 (名古屋明德短期大学1年 5割6分3厘)

二部首位打者賞：加藤美紗子 中堅手 (岐阜聖徳学園大学4年 5割8分8厘)

ベストナイン：投手 小長井美希 (東海女子大学1年)

捕手 中山美千代 (中京女子大学1年)

一塁手 西岡 景子 (中京大学3年)

二塁手 小池有香理 (中京大学2年)

三塁手 峰 和子 (中京大学3年)

遊撃手 中山 静 (東海女子大学3年)

外野手 安田真富果 (中京大2年)

外野手 北岡 梨奈 (中京大学3年)

外野手 松本 陽子 (中京女子大学3年)

指名打者 水野なおみ (名古屋明德短期大学1年)

9. 総評

スポーツの秋、さわやかな青空と眩しい陽光のもとに、学泉大学と南山大学が復帰を果たして、リーグ戦は一部二部各6チームの計12チームで展開された。しかし、各部で1試合計2試合、当日選手数不足によって棄権試合が生じたことは、誠に遺憾であった。

一部リーグ戦は、終わってみればいつもの指定席に納まったように感じられるが、それぞれに見応えのある試合が展開された。特に、上位3チームが4勝1敗で並ぶという結果は意外であった。コールドゲームによる勝ち数とタイブレイクの勝敗によって順位は決定されたが、優勝を決めた中京大学にしても納得できるものではなかったであろう。その原因は、白井投手の不調にあったように思われる。インカレの準決勝戦で東京女子体育大に0-1で敗れたが、その好投が見られなかったのは残念であった。他の印象に残った選手では、中京大の北岡・安田両外野手並びに明德短大の松山遊撃手の打撃と中京大戦に好投した東海女子大の小長井投手があげられる。

また、二部リーグ戦は、静岡大と愛教大がともに全勝で最終日に死闘を演じたが、打力にやや優る静岡大の優勝となった。首位打者争いも熾烈で、愛教大の出納選手を聖徳大の加藤選手が、最後の4打席を連続安打で逆転した。今回注目されたのは、これまでのような混戦がなく、すっきり順位が決定したことである。このことは、二部の中でも力の差が生じてきたとも解される。来季、参加チーム数が増加した場合には、三部制の導入を考慮しなくてはならないであろう。(中京女子大 水谷)

平成11年度秋季第45回東海地区大学（男子）ソフトボールリーグ戦結果

- 主 催：東海地区大学ソフトボール連盟
- 主 管：愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・碧南市ソフトボール連盟・中京女子大学
- 開催日：10月9・10・16・17日
- 会 場：愛知県碧南市玉津浦グラウンド
- 男子一部リーグ戦結果

チーム	中 京	愛 知	常 葉	学 院	聖 徳	愛 教	勝	分	敗	勝点	順位
中 京		● 1-2	◆ 2-10	● 0-1	○ 6-2	◎ 10-0	2	0	3	-2	5位
愛 知	○ 2-1		◎ 10-3	◎ 8-1	△ 2-2	○ 5-1	4	1	0	+10	優勝
常葉学園	◎ 10-2	◆ 3-10		◎ 23-15	● 7-9	◎ 9-1	3	0	2	+4	3位
愛知学院	○ 1-0	◆ 1-8	◆ 15-23		◆ 0-10	○ 6-3	2	0	3	-5	4位
岐阜聖徳	● 2-6	△ 2-2	○ 9-7	◎ 10-0		○ 9-2	3	1	1	+5	2位
愛知教育	◆ 0-10	● 1-5	◆ 1-9	● 3-6	● 2-9		0	0	5	-12	6位

6. 男子二部リーグ戦結果

チーム	静 岡	南 山	名 城	みずほ	岐 経	名 大	朝 日	日 福	勝	分	敗	勝点	順位
静 岡		◆ 2-9	● 6-7	○ 13-9		◆ 5-12			1	0	2	-3	6位
南 山	◎ 9-2		□ 4-3	◎ 9-2	□ 5-4				3	0	0	+7	優勝
名 城	○ 7-6	■ 3-4		□ 12-11			○ 6-2		2	0	1	+2	3位
みずほ	● 9-13	◆ 2-9	■ 11-12					◆ 3-16	0	0	3	-6	8位
岐阜経済		■ 4-5				◎ 10-3	◎ 11-4	◎ 12-0	3	0	0	+9	2位
名古屋	◎ 12-5				◆ 3-10		◆ 2-13	◎ 15-3	1	0	2	-3	5位
朝 日			● 2-6		◆ 4-11	◎ 13-2		◎ 10-3	2	0	1	+3	4位
日本福祉				◎ 16-3	◆ 0-12	◆ 3-15	◆ 3-10		0	0	3	-9	7位

◎：コールド勝ち(+3) ○：勝ち(+2) □：タイブレイク勝ち(+1) △：引き分け(±0)

■：タイブレイク負け(-1) ●：負け(-2) ◆：コールド負け(-3) ()内は勝点

7. 1部2部入れ替え戦

愛知教育大学（1部6位）1－0南山大学（2部1位）（愛教大は1部残留）

8. 個人表彰

最優秀選手賞：根本 弘一（愛知大3年）

敢闘選手賞：河村 聡（岐阜聖徳大2年）

優秀選手賞：伊藤 真也（南山大3年）

一部首位打者賞：大山 勲（常葉学園大4年）

二部首位打者賞：桑野 真輔（岐阜経済大1年）

ベストナイン：投 手 根本弘一（愛知大3年）

捕 手 河下卓司（愛知教育大2年）

一 塁 手 辻本真一（中京大1年）

二 塁 手 吉村 啓（中京大3年）

三 塁 手 坂東俊輔（岐阜聖徳大1年）

遊 撃 手 坂本英也（愛知大3年）

外 野 手 江村江二（中京大2年）

外 野 手 須藤竜太（愛知大2年）

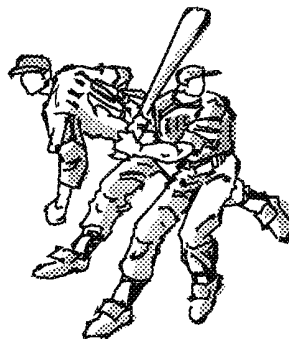
外 野 手 清水 巧（常葉学園大4年）

指名打者 大山 勲（常葉学園大4年）

9. 総評

1部リーグ戦は、愛知大が4勝1分の無敗で平成6年秋以来11季ぶり8回目の優勝を飾った。根本投手（3年：福島：郡山北工高出）の投打にわたる活躍が優勝へ導いたともいえよう。特に、常葉大戦での3打席連続本塁打は圧巻であった。岐阜聖徳大は、1部3季目にして2位と大躍進となった。河村投手（2年：石川：尾山台高出）は球速も増し、今後の伸びに大いに期待がかかる。それにも増してチームの盛り上がりは最高潮であった。来春は1部の他チームの怖い存在となりそうである。常葉学園大学の打撃力のすごさは相変わらずだが、ただ好不調の波があるのが今後の課題といえよう。愛知学院大は、仲倉投手（1年：鳥取：由良育英高出）の活躍が目立った。4位と今リーグふるわなかったものの、中京大戦で完封勝利を納めた。このところ元気がなかっただけにこれを機に立て直しをはかってもらいたいものである。中京大は、5位と今リーグ絶不調であった。東海地区の牽引車だけに、来季の巻き返しをはかってもらいたい。愛教大は、全敗とふるわなかったものの、非常に元気が良かった。入替戦でも勝利をおさめたため来季も1部に残留を決めている。雰囲気維持して好成績を期待したいものである。

また、2部リーグ戦も激しい試合が展開された。特に、A・B両グループとも上位チーム同士の戦いは熾烈であった。結局は1本の長打や一つのミスが試合を決めているので、投手力を中心とする守備力のわずかな差が順位を決定しているようである。来季はこの強化を特に望みたい。（愛知大 紅林）



第31回春季関西学生ソフトボールリーグ戦(女子)

主 催： 関西学生ソフトボール連盟

主 管： 関西学生ソフトボール連盟

会 期： 平成11年4月25日・29日・5月2日・3日・4日

会 場： 園田学園女子大学・大谷女子大学・京都女子大学

【試合結果】

<1部>

1部	園田	武庫川	親和	関外大	龍谷	国際	勝	敗	分	順位
園田		● 0-1	○ 5x-2	○ 2x-0	○ 9x-0	● 1-2	3	2	0	2
武庫川	○ 1-0		○ 3x-0	○ 1x-0	○ 4x-0	● 0-3x	4	1	0	優勝
親和	● 2-5x	● 0-3x		○ 1-0	● 0-9x	● 0-1x	1	4	0	5
関外大	● 0-2x	● 0-1x	● 0-1		● 0-1	○ 2-1	1	4	0	6
龍谷	● 0-9x	● 0-4x	○ 9x-0	○ 1-0		○ 2x-1	3	2	0	4
国際	○ 2-1	○ 3x-0	○ 1x-0	● 1-2	● 1-2x		3	2	0	3

入れ替え戦： 関西外国語大学 vs 立命館大学 <立命館大学が1部昇格>

★首位打者：中越 規菜(大阪国際) 0.500 ★最優秀防御率：辻本 恵美子(大阪国際)0.350

【1部リーグ戦総評】

今大会は、例年がない晴天に恵まれ日程通り試合が行われた。リーグ初日、第1試合から波乱は起こった。昨年秋季リーグで優勝した園田学園女子大学が、大阪国際女子大学との試合でいつものペースがつかめず投打もかみ合わないまま初戦を落とした。その後、3勝したものの武庫川女子大学に敗れ無念の2位となった。大阪国際女子大学は園田学園女子大学に勝ち波に乗るかと思われたが、その後の試合で苦戦をし、最終日まで首位であったが龍谷大学に敗れ3位となった。武庫川女子大学は大阪国際女子大学に敗れはしたものの、他の試合ではいずれも接戦をものにし6年ぶりの優勝となった。戸親和女子大学は昨年の勢いがなく、打撃力はあるもののチャンスをものにすることができず苦しい試合展開となった。龍谷大学は、園田学園女子大学、武庫川女子大学に敗れたものの、神戸親和女子大学には快勝した。関西外国語大学は、投手力はあるもののうまくリズムをつかむことが出来ず入れ替え戦となった。今後の奮起に期待したい。

全体を見て、この春季リーグ戦はどのチームも実力的にはたいして差はなく、少ないチャンスをものにしたチーム、最後まで集中力が持続したチームが勝利をものにした感じがする。今回のリーグ戦結果からもわかるように、1部6チーム間における競技レベルの差は縮まってきており、次回の秋季リーグ戦では各チームの奮起に好ゲームを期待したい。

入れ替え戦は、2部Aで優勝した立命館大学が楽投手の好投により関西外国語大学を破り1部昇格を果たした。

文責 関西学生連盟女子委員長 杉下 美和

<2部>

2部A	大谷	立命館	成蹊	大体大	兵教	I B U	府立	勝	敗	分	順位
大谷		● 0-1	○ 6x-2	○ 3-2	○ 7x-0	○ 12-0x	○ 13-0	5	1	0	2
立命館	○ 1-0		○ 7-0	○ 8-2	○ 7x-0	-	○ 35-0	5	0	0	優勝
成蹊	● 2-6x	● 0-7		○ 3-2	○ 11x-1	○ 9x-1	○ 11-0	4	2	0	3
大体大	● 2-3	● 2-8	● 2-3		○ 9-0	○ 13x-0	○ 29-0	3	3	0	4
兵教	● 0-7x	● 0-7x	● 1-11x	● 0-9		○ 19-0	○ 14x-5	2	4	0	5
I B U	● 0-12x	棄権	● 1-9x	● 0-13	● 0-19		○ 15-5	1	4	0	6
府立	● 0-13	● 0-35	● 0-11	● 0-29	● 5-14x	● 5-15		0	6	0	7

入れ替え戦：大阪府立大学 vs 奈良教育大学 <奈良教育大学が2部昇格>

★首位打者：山田 沙織(立命館)0.579

★最優秀防御率：楽 直子(立命館)0.730

2部B	奈良教	佛教	神戸	京薬	勝	敗	分	順位
奈良教		● 7-9	○ 5x-3	○ 10-0	2	1	0	2
佛教	○ 9-7		○ 10-0	○ 17x-1	3	0	0	優勝
神戸	● 3-5x	● 0-10		○ 9x-2	1	2	0	3
京薬	● 0-10	● 1-17x	● 2-9x		0	3	0	4

★首位打者：桜井 良江(佛教大)0.714

★最優秀防御率：田口 裕架子(佛教大)0.000

【2部A・Bリーグ戦総評】

2部A上位チームの対戦では僅差で切迫したゲームが展開され、各チームとも好機を作るのに苦労した投手戦の試合が多く見られた。2部の試合では、失点の背景の多くにエラーが見られる。各チームとも共通して言えることは、エラー後の切り替えが出来ず、試合の流れを引き寄せられないまま、ズルズルとチームの力が発揮できずに試合が終わってしまったというケースである。大谷女子大学と立命館大学の一戦では、打線に火がつかず失点の要因は配球のミスや失投などの見えないエラーであった。また、大阪成蹊女子短期大学と大阪体育大学の試合では、典型的とも言えるような緊迫した場面での配球、捕球のミスが見られた。このゲームは延長戦に連れ込み、大阪成蹊女子短期大学が勝利した。エラー後の切り替えが出来たかどうか、勝負の明暗を分けたものと思われる。

2部の試合では、直接的な敗因ではないにしろ試合の流れを変えてしまうエラーの影響は大きい。各チームに共通して足りないのは、広げられた点差を1イニング1点ずつでも継続して返していけるような粘り強さ、試合の流れを変えることが出来る力ではないだろうか。

文責 関西学生連盟女子委員長 杉下 美和

平成11年度第31回春季関西学生ソフトボールリーグ戦(男子)

主 催： 関西学生ソフトボール連盟男子事務局
 後 援： 大阪ソフトボール協会、ラジオ大阪
 協 賛： (株)MIZUNO、(株)ツツキ
 期 日： 平成11年4月3・4・11・25・29・5月2・3・4日
 会 場： 万博公園スポーツ広場

【試合結果】

<1部>

1	部	京産大	神院大	龍谷大	四仏大	関西大	立命館	勝	敗	分	勝点	順位
京 都 産 業 大 学		○ 2-0	○ 1-0	○ 9-1	○ 5-1	● 5-6	4	1	0	12	2	
神 戸 学 院 大 学	● 0-2		○ 4-0	○ 2-1	○ 5-0	● 1-2	3	2	0	9	3	
龍 谷 大 学	● 0-1	● 0-4		○ 12-1	○ 7-4	● 1-8	2	3	0	6	4	
四 天 王 寺 国 際 仏 大	● 1-9	● 1-2	● 1-12		● 0-7	● 1-7	0	5	0	0	6	
関 西 大 学	● 1-5	● 0-5	● 4-7	○ 7-0		● 2-5	1	4	0	3	5	
立 命 館 大 学	○ 6-5	○ 2-1	○ 8-1	○ 7-1	○ 5-2		5	0	0	15	優勝	

☆5位の関西大学は入れ替え戦へ、6位の四天王寺国際仏教大学は自動的に2部に降格

☆入れ替え戦: 関西大学 vs 同支社大学 は10-0(3回コールド)で関西大学が勝利し、1部残留

[1部総評]

優勝候補の筆頭は昨年度の秋を制した立命館大学と目されていた。その立命館を向こうにして、京都産業大学がどう巻き返してくるか、また、昨季に素晴らしい勢いで1部昇格を果たした四天王寺国際仏教大学がどのような戦いをみせるかに興味が集まった。

まず、四仏大は昨秋活躍した4年生、特に投手の抜けた穴が大きく、全敗を喫して2部に降格となってしまった。チームを建て直して、もう一度頑張ってもらいたい。

優勝争いは、本命の立命館大学が安定して力を発揮し、京都産業大学との実質的な決勝戦を迎えた。先攻した京産大は6回まで5-3とリードしていたが、好投していた和久投手に代えた西條投手の起用が結果的に裏目となった。立命館の福島選手に3ランホームランを浴び、5-6と逆転されてしまったところで時間となり、6回で試合が成立することとなった。結局、立命館の鮮やかな逆転勝ちとなり、優勝を手中にした。関西リーグの男子の試合は、会場の都合で、「1部は 90 分、2部は 80 分を越えて、新たなイニングに入らない」という特別規定を設けている。仕方のないことであるが、今回の対戦は京産大にとっては悔いの残る形での終わり方だった。

文責 副理事長 森田啓之(兵庫教育大学)

<2部>

2 部 A	兵教大	大工大	姫獨大	奈教大	経法大	勝	敗	分	勝点	順位
兵庫教育学大		○ 8-1	● 6-8	○ 7-2	● 2-3	2	2	0	6	2
大阪工業大	● 1-8		● 6-11	● 5-13	● 0-7	0	4	0	0	5
姫路獨協大	○ 8-6	○ 11-6		● 2-11	● 0-8	2	2	0	6	4
奈良教育学大	● 2-7	○ 13-5	○ 11-2		● 0-13	2	2	0	6	3
大阪経済法科大学	○ 3-2	○ 7-0	○ 8-0	○ 13-0		4	0	0	12	優勝

2, 3, 4位は得失点差規定により決定

2 部 B	佛教大	近畿大	京都大	関学大	勝	敗	分	勝点	順位
佛教大学		○ 8-0	● 1-11	○ 9-2	2	1	0	6	2
近畿大学	● 0-8		● 0-7	△ 8-8	0	2	1	1	3
京都大学	○ 11-1	○ 7-0		○ 11-2	3	0	0	9	優勝
関西学院大	● 2-9	△ 8-8	● 2-11		0	2	1	1	4

3, 4位は得失点差規定により決定

2 部 C	大阪大	桃学大	大府大	京園大	勝	敗	分	勝点	順位
大阪大学		○ 7-0	● 5-6	○ 7-2	2	1	0	6	2
桃山学院大	● 0-7		● 9-18	● 2-13	0	3	0	0	4
大阪府立大	○ 6-5	○ 18-9		○ 6-1	3	0	0	9	優勝
京都学園大	● 2-7	○ 13-2	● 1-6		1	2	0	3	3

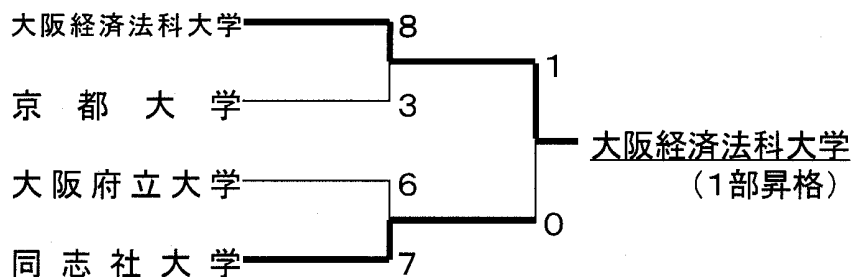
2 部 D	和山大	神戸大	同社大	大市大	勝	敗	分	勝点	順位
和歌山大学		● 棄権	● 0-15	● 3-10	0	3	0	0	4
神戸大学	○ 不戦勝		● 0-2	○ 8-0	2	1	0	6	2
同志社大学	○ 15-0	○ 2-0		○ 4-2	3	0	0	9	優勝
大阪市立大	○ 10-3	● 0-8	● 2-4		1	2	0	3	3

[2部総評]

2部リーグ戦は各チームとも秋の勢いを持っているため、シード校を中心とした戦いとなった。そして、焦点はいかに他のチームがシード校を脅かすかになった。

Aブロックは、1部経験のある大阪経済法科大学が、初戦こそ兵庫教育大学に先制され辛勝したものの、その後は安定して勝利を重ね全勝した。Bブロックでは、打撃力・守備力とも一枚上の京都大学が順当に勝ち抜き、決勝トーナメントへとコマを進めた。一方、Dブロックは、またしても同ブロックに入った同志社大学と神戸大学の争いとなり、直接対決が明暗を分け、同志社大学が1位となった。このように3ブロックともシード校が制したが、Cブロックはやや展開が変わっていた。シード校の大阪大学はエースをケガで欠いた大阪府立大学戦、先制するも逆転され、痛い負けを喫し、これに勝利した大阪府立大学がCブロックを制することとなった。

<2部ブロックトーナメント>



同志社大学は入れ替え戦へ

<1・2部入れ替え戦>

関西大学 10 vs 0 同志社大学

(3回コールド)

関西大学1部残留

[2部決勝トーナメントおよび入れ替え戦総評]

準決勝第1試合は、実力的にも1部と対等に戦える経法大が京都大学に貫禄勝ちした。第2試合は、最終回二死からの本塁打で乱打戦に決着をつけた同志社大が府立大を下した。決勝は1-0という緊迫した試合を制した経法大が、1部に振り返った。

また、2位となった同志社大は、1部5位の関西大と入れ替え戦を行った。久しぶりの1部昇格へのチャンスであったが、関西大の本塁打を含む打撃力の前に、涙をのんだ。関西大は1部に踏みとどまった。

文責 記録委員長 西岡真一(神戸大学)

平成11年度第31回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）結果

会期：平成11年 9月26日・10月 3・10・11・17日

会場：園田学園女子大学・大谷女子大学・京都女子大学

主催：関西学生ソフトボール連盟

主管：関西学生ソフトボール女子事務局・兵庫県大学ソフトボール連盟

後援：兵庫県ソフトボール協会・大阪府ソフトボール協会・京都府ソフトボール協会

1部 対戦成績表

	武庫川	園 田	国 際	龍 谷	親 和	立命館	勝 敗	順 位
武庫川		$0 - \overset{\times}{1}x$	$2 \frac{\bigcirc}{9} - 1$	$0 - \overset{\times}{1}x$	$3 \overset{\bigcirc}{x} - 1$	$1 \overset{\times}{-} 2$	2勝 3敗	5 位
園 田	$1 \overset{\bigcirc}{x} - 0$		$4 \overset{\bigcirc}{-} 1$	$2 - \overset{\times}{3}x$	$1 \overset{\times}{-} 2$	$1 \overset{\bigcirc}{-} 0$	3勝 2敗	3 位
国 際	$1 \overset{\times}{9} - 2$	$1 - \overset{\times}{4}x$		$0 - \overset{\times}{1}x$	$0 - \overset{\times}{4}x$	$2 \overset{\bigcirc}{-} 0$	1勝 4敗	6 位
龍 谷	$1 \overset{\bigcirc}{x} - 0$	$3 \overset{\bigcirc}{x} - 2$	$1 \overset{\bigcirc}{x} - 0$		$1 \overset{\bigcirc}{1} - 0$ 10回	$0 \overset{\times}{-} 2$	4勝 1敗	優 勝
親 和	$1 - \overset{\times}{3}x$	$2 \overset{\bigcirc}{-} 1$	$4 \overset{\bigcirc}{x} - 1$	$0 - \overset{\times}{1}x$ 10回		$1 \overset{\bigcirc}{-} 0$	3勝 2敗	2 位
立命館	$2 \overset{\bigcirc}{-} 1$	$0 \overset{\times}{-} 1$	$0 - \overset{\times}{2}x$	$2 \overset{\bigcirc}{-} 0$	$0 \overset{\times}{-} 1$		2勝 3敗	4 位

*入れ替え戦 大阪国際女子大学 0 - 1 関西外国語大学（1部昇格）

1部 個人打撃成績

	氏 名	大 学	試合	打 数	安 打	打 点	打 率
1	小倉 琴子	親 和	5	18	7	0	. 389
2	計盛 志津子	親 和	5	16	6	2	. 375
2	大西 真弓	園 田	5	16	6	0	. 375
4	新垣 涼子	園 田	5	15	5	0	. 333
4	平川 香奈子	園 田	5	15	5	0	. 333
6	三村 朋子	園 田	5	12	4	0	. 333
7	藤井 幸子	親 和	5	13	4	0	. 308
8	藤原 弘美	武庫川	5	17	5	1	. 294
9	森田 文香	園 田	5	14	4	1	. 286
9	一柳 津也子	立命館	5	14	4	0	. 286
9	山中 都江	武庫川	5	14	4	0	. 286

1部 個人投手成績

	氏 名	大 学	試合	投球回数	勝	負	打者数	自責点	防御率
1	山下 郁代	龍 谷	3	25	2	1	91	0	0. 000
1	西岡 留美	園 田	5	31	3	2	118	0	0. 000
3	松本 薫	親 和	4	31	3	1	110	1	0. 226
4	楽 直子	立命館	4	22 1/3	1	3	87	1	0. 313
5	宮原 洋子	武庫川	4	33	2	3	124	3	0. 636

2部A 成績表

	関西外大	大谷	成蹊	大阪体育	兵庫教育	四天王寺	佛教	順位
関西外大		1 $\frac{\circ}{x}$ 0-0 10回	9 $\frac{\circ}{x}$ 6-2 6回	2 $\frac{\circ}{x}$ 1-1	11 $\frac{\circ}{x}$ 4-1 4回	13 $\frac{\circ}{x}$ 3-0 3回	1 $\frac{\circ}{x}$ 4-0 3回	1
大谷	0 $\frac{x}{1}$ 1- $\frac{x}{0}$ 10回		5 $\frac{\circ}{x}$ 1-1	1 $\frac{x}{9}$ 0-0 9回	7 $\frac{\circ}{x}$ 5-0 5回	14 $\frac{\circ}{x}$ 3-4 3回	2 $\frac{\circ}{x}$ 7-0 3回	2
成蹊	2 $\frac{x}{6}$ 9-x 6回	1 $\frac{x}{x}$ 5-5		2 $\frac{x}{1}$ 0-4 10回	3 $\frac{\circ}{x}$ x-0	8 $\frac{\circ}{x}$ 5-0 5回	10 $\frac{\circ}{x}$ x-0 4回	4
大阪体育	1 $\frac{x}{x}$ 2-2	0 $\frac{x}{9}$ 1-x 9回	4 $\frac{\circ}{1}$ 0-2 10回		5 $\frac{\circ}{x}$ x-3	1 $\frac{\circ}{2}$ 3-0 3回	9 $\frac{\circ}{x}$ 5-0 5回	3
兵庫教育	0 $\frac{x}{4}$ 11-x 4回	0 $\frac{x}{5}$ 7-x 5回	0 $\frac{x}{x}$ 3-3	3 $\frac{x}{x}$ 5-x		10 $\frac{\circ}{x}$ 3-0 3回	7 $\frac{\circ}{x}$ 5-0 5回	5
四天王寺	0 $\frac{x}{3}$ 13-x 3回	4 $\frac{x}{3}$ 14-x 3回	0 $\frac{x}{5}$ 8-x 5回	0 $\frac{x}{3}$ 1-2 3回	0 $\frac{x}{3}$ 10-x 3回		4 $\frac{x}{x}$ 6-6	7
佛教	0 $\frac{x}{3}$ 1-4 3回	0 $\frac{x}{3}$ 2-7 3回	0 $\frac{x}{4}$ 10-x 4回	0 $\frac{x}{5}$ 9-9 5回	0 $\frac{x}{5}$ 7-7 5回	6 $\frac{\circ}{x}$ 4-4		6

2部A 個人打撃成績

	氏名	大学	試合	打数	安打	打点	打率
1	中村 祥子	大谷	6	16	10	5	.625
2	新居 久美子	成蹊	6	15	7	2	.467
3	吉元 規子	大谷	5	13	6	5	.462
3	南 ひとみ	関外大	4	13	6	3	.462
5	山中 由香里	兵教	6	14	6	11	.429
6	山本 紗矢佳	関外大	4	12	5	0	.417
7	南島 永衣子	大体大	6	15	6	0	.400
8	三井 純子	大谷	5	13	5	5	.385
9	岡本 佳乃	大体大	6	16	6	4	.375
10	笹岡 夏己	大体大	6	15	5	1	.333
10	平井 貴子	大体大	6	15	5	1	.333

2部A 個人投手成績

	氏名	大学	試合	投球回数	勝	負	打者数	自責点	防御率
1	相川 早苗	大体大	4	18 2/3	3	0	69	0	0.000
2	福井 円	大谷	3	22	2	1	79	1	0.318
3	渡辺 美貴	関外大	3	21	3	0	79	3	1.000
4	野田 貴子	大体大	4	22 1/3	1	2	87	6	1.883
5	平田 実穂	成蹊	5	22 2/3	2	3	100	1	4.027

2部B 成績表

	大阪府立	神戸	同志社	京都女子	順位
大阪府立		x7-14	○12-11	○7-0	2
神戸	○14-7		○18-8	○11-3	1
同志社	x11-12	x8-18		x1-5	4
京都女子	x0-7	x3-11	○5-1		3

棄権：奈良教育大学
京都薬科大学

2部B 個人打撃成績

	氏 名	大 学	試合	打 数	安 打	打 点	打 率
1	水野 亜由美	佛 教	3	12	8	5	. 666
2	山下 由美子	佛 教	3	11	7	6	. 636
3	松本 美和	佛 教	3	12	7	4	. 583
4	杉田 智恵	佛 教	3	7	4	0	. 571
5	西村 泰江	佛 教	3	9	5	2	. 555
6	宮野 優紀	佛 教	3	8	4	2	. 500
7	梅田 かおり	神 戸	3	13	6	8	. 461
8	直原 一恵	佛 教	3	11	5	1	. 454
9	平野 さやか	奈 教	3	10	4	4	. 400
9	中村 恵子	佛 教	3	10	4	3	. 400

2部B 個人投手成績

	氏 名	大 学	試合	投球回数	勝	負	打者数	自責点	防御率
1	浅野 幸恵	神 戸	3	18	3	0	102	13	5. 055
2	武富 麻衣	大府立	3	19	2	1	101	16	5. 894
3	秋山 裕子	同志社	3	16	0	3	95	17	7. 437

1部リーグ戦総評

1部リーグ戦は、春・秋の連覇をねらう全日本インカレ3位の武庫川女子大学をはじめ、西日本インカレ優勝の園田学園女子大学、大阪国際女子大学、龍谷大学、神戸親和女子大学、立命館大学の計6チームで行われた。戦前の予想では、武庫川女子大学、園田学園女子大学と全日本短大会優勝メンバーを抱える大阪国際女子大学の3チームがリーグ戦をリードしていくものと思われた。

大会初日、第1試合から波乱の幕開けとなった。春の覇者武庫川女子大学が、投打の歯車がかみ合わず2部より昇格した立命館大学に敗れたのである。本来の実力が出せず波に乗れない傾向は、園田学園女子大学、大阪国際女子大学にも現れ、特に大阪国際女子大学は、この傾向がリーグ戦の最後まで続きまさかの最下位となった。その中で順調に勝ち星をあげたのが、龍谷大学であった。春から若干のメンバーが入れ替わったものの、安定した力で終始リーグ戦を戦い見事優勝に輝いた。また、1部に昇格してから安定した力を出している神戸親和女子大学が準優勝となった。立命館大学は武庫川女子大学に勝ち、このままいくかと思われたが1部の壁はなかなか厚かったようである。

最後に、関西リーグはここ2～3シーズン、順位の入替えが激しいリーグ戦を展開している。各チームともレベルが均衡しており、この傾向は今後も続くと言われる。全体のレベルアップを図るためにも、より一層の努力を期待する。＜文責：久保田豊司（大阪国際女子大学）＞

2部A・B総評

2部Aは戦前の予想通り、最終日に関西外国語大学と大谷女子大学の全勝対決を迎えた。試合は渡辺（関外）と福井（大谷）の素晴らしい投手戦となり、1点を争う緊迫したゲームが繰り広げられた。そして、決着はタイブレークまでもつれこんだ。10回表に大谷はチャンスを逸し、その裏の関西外大も3塁ながらも2死となっていた。ここで、代打南が絶妙のセフティーバントを捕手前に転がした。慌てた大谷内野陣のスキをついて3塁走者が本塁に生還し、決勝点をあげた。大谷は春に続いてあと一步で涙を吞んだが、これをバネに来季以降につなげてほしい。

一方、2部Bは投手力が頭ひとつ抜け出している神戸大学が有利にゲームを進め、10年ぶりの優勝を飾った。B全体としては、大会直前の棄権によって、参加チームのゲーム数が減少したことが残念である。部員確保はどの大学でも難しいが、これまでの先輩達の思いをできるだけ引き継いでいってほしい。＜文責：森田啓之（兵庫教育大学）＞

平成11年度第31回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）結果

主 催： 関西学生ソフトボール連盟男子事務局

後 援： 大阪ソフトボール協会、ラジオ大阪

協 賛： （株）MIZUNO、（株）ツツキ

期 日： 平成11年10月3, 17, 24, 31, 11月3, 7日

会 場： 万博公園スポーツ広場

【1部総評】

秋季リーグには、4回生が抜けた新チームで望む大学が多い。そのような中でも今回の主役はやはり、選手層の厚い立命館大学と目されていた。昨秋及び今春のリーグ戦、そして西日本インカレ、全日本インカレと立て続けに優勝してきた力はこのチームも認めるところであった。しかし、最終的には京都産業大学が4季ぶり14回目の見事な優勝を飾ることとなった。

京産大にとって鍵となったのは、まず2日目の神戸学院大とのゲームであった。2得点とも2死3塁からのもので、圧巻はサインプレーによるホームスチールであげた2点目であった。好投手竹下選手の配球を読んだうえでの大胆な作戦であり、ソフトボールの醍醐味を感じさせてくれた。投げては西條投手が見事なピッチングを見せた。また、3日目の立命館大学とのゲームは事実上の決勝戦となった。初回到2点を先制されるものの、6・7回に大逆転を演じた。2試合とも少ないチャンスを生かし、投手が踏ん張るというソフトボールらしい内容であり、そのうえでの優勝は高く評価されるものであろう。

（文責：副理事長 森田啓之）

【2部総評】

振り返ってみると、2部においても決め手はやはり投手力だという強い印象を受けた。Bブロックは投手力に勝る京都大学が全勝で優勝を決めたが、他のブロックは大接戦となった。まずCブロックは1部経験のあるシード校四天王寺国際仏教大学が有利と思われたが、長打力のある大阪市立大学に直接対決でコールド負けを喫した。Dブロックは、シード校同志社大学が苦しみながらも要所をおさえ、辛くも決勝トーナメントにコマを進めた。そして、大波乱が起こったのがAブロックだった。シード校大阪府立大学と奈良教育大学の全勝対決となり、先制した大府大が安定した投手力で逃げ切るかと思われた。しかし、1イニングに2回のタイムをとってしまったため、ルールによってエースは降板せざるを得なくなり、その後の奈良教育大学の逆転を演出することになってしまったのである。ルールを知らなかった大府大にとっては悔やみきれない1敗となってしまった。

【決勝トーナメント】

1回戦は2試合ともコールドと力の差がはっきりと現れた。京都大学が奈良教育大学に10-0（3回）、同志社大学が大阪市立大学に7-0（5回）とそれぞれ勝利した。決勝は両者互角のまま、タイブレークへととなった。緊迫した雰囲気の中、着実に塁を進めた京大が6-5でサヨナラ勝ちをし、念願の1部昇格となった。

【1部-2部入れ替え戦】

2部準優勝となった同志社は3試合連続という厳しい状況の中、1部5位の龍谷大学との入れ替え戦を迎えた。投手の疲労が心配された同志社であったが、ライズボールを警戒した龍谷大学の早打ちに助けられながら、数少ない好機を生かして2-0で勝利し、京大に続いて2部からの1部昇格を果たした。

来季は2大学が新たに1部に加わる。旋風を期待したい。

（文責：記録委員長 神戸大学 西岡真一）

1部リーグ	京産大	龍谷大	神院大	関西大	経法大	立命大	勝	敗	分	勝点	順位
京都産業大学		○ 2-1	○ 2-0	× 3-4	○ 4-0	○ 3-2	4	1	0	12	1
龍谷大学	× 1-2		× 0-1	× 4-7	○ 10-4	× 0-4	1	4	0	3	5
神戸学院大学	× 0-2	○ 1-0		○ 4-1	○ 1-0	△ 1-1	3	1	1	10	3
関西大学	○ 4-3	○ 7-4	× 1-4		○ 3-1	× 1-8	3	2	0	9	4
大阪経済法科大学	× 0-4	× 4-10	× 0-1	× 1-3		× 2-7	0	5	0	0	6
立命館大学	× 2-3	○ 4-0	△ 1-1	○ 8-1	○ 7-2		3	1	1	10	2

2位の立命館大学と3位の神戸学院大学は得失点差による

5位の龍谷大学は入れ替え戦へ、6位の大阪経済法科大学は自動的に2部に降格

2部Aブロック	大府大	関学大	和 大	奈教大	桃山大	勝	敗	分	勝点	順位
大阪府立大学		○ 5-1	○ 10-0	× 6-11	○ 3-1	3	1	0	9	2
関西学院大学	× 1-5		○ 棄権	× 1-8	× 1-13	1	3	0	3	4
和歌山大学	× 0-10	× 棄権		× 0-26	× 2-19	0	4	0	0	5
奈良教育大学	○ 11-6	○ 8-1	○ 26-0		○ 11-1	4	0	0	12	1
桃山学院大学	× 1-3	○ 13-1	○ 19-2	× 1-11		2	2	0	6	3

2部Bブロック	兵教大	京学大	京都大	神戸大	大工大	勝	敗	分	勝点	順位
兵庫教育大学		○ 10-3	× 1-3	○ 3-1	× 6-7	2	2	0	6	2
京都学園大学	× 3-10		× 3-11	○ 5-2	○ 15-2	2	2	0	6	3
京都大学	○ 3-1	○ 11-3		○ 7-0	○ 7-3	4	0	0	12	1
神戸大学	× 1-3	× 2-5	× 0-7		○ 7-6	1	3	0	3	4
大阪工業大学	○ 7-6	× 2-15	× 3-7	× 6-7		1	3	0	3	5

2位と3位、並びに4位と5位は直接対決の結果による

2部Cブロック	姫獨大	四仏大	甲南大	大市大	勝	敗	分	勝点	順位
姫路獨協大学		× 0-10	○ 12-2	× 4-6	1	2	0	3	3
四天王寺国際仏大	○ 10-0		○ 17-0	× 2-9	2	1	0	6	2
甲南大学	× 2-12	× 0-17		× 0-9	0	3	0	0	4
大阪市立大学	○ 6-4	○ 9-2	○ 9-0		3	0	0	9	1

2部Dブロック	近畿大	大阪大	佛教大	同 大	勝	敗	分	勝点	順位
近畿大学		× 1-6	○ 7-2	× 0-7	1	2	0	3	3
大阪大学	○ 6-1		○ 1-0	× 1-11	2	1	0	6	2
仏教大学	× 2-7	× 0-1		○ 4-2	1	2	0	3	4
同志社大学	○ 7-0	○ 11-1	× 2-4		2	1	0	6	1

1位と2位、並びに3位と4位は直接対決の結果による

2部ブロック決勝トーナメント

準決勝 第1試合 奈良教育大学0-10 京都大学

第2試合 大阪市立大学0-7 同志社大学

決 勝 戦 京都大学VS同志社大学は6-5で京都大学が勝利し、1部昇格

入 れ 替 え 戦 龍谷大学VS同志社大学は2-0で同志社大学が勝利し、1部昇格

第34回全日本大学ソフトボール選手権大会 第31回西日本大学ソフトボール選手権大会 中国地区予選

主 催： 中国地区大学ソフトボール連盟、中国ソフトボール協会

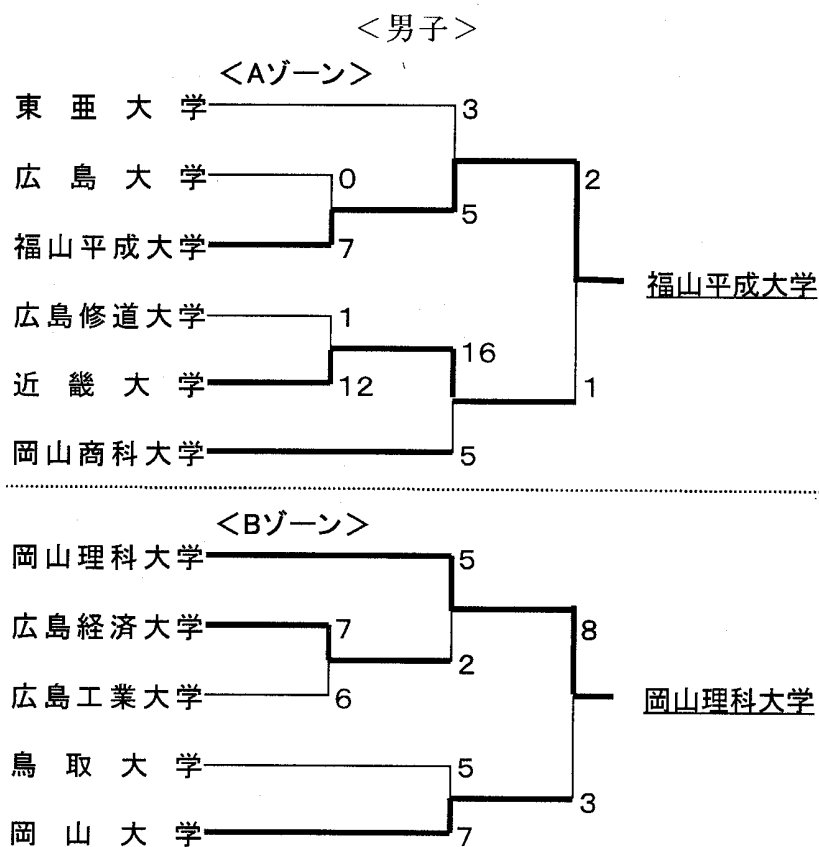
主 管： 広島県ソフトボール連盟、広島市ソフトボール連盟

中国地区大学ソフトボール連盟

会 期： 平成11年6月12日(土)、13日(日)

会 場： 広島修道大学グラウンド

【試合結果】



《出場権獲得チーム》

★全日本大学ソフトボール選手権大会(2チーム)

福山平成大学(広島県)

岡山理科大学(岡山県)

★西日本大学ソフトボール選手権大会(7チーム)

岡山大学(岡山県)

岡山理科大学(岡山県)

岡山商科大学(岡山県)

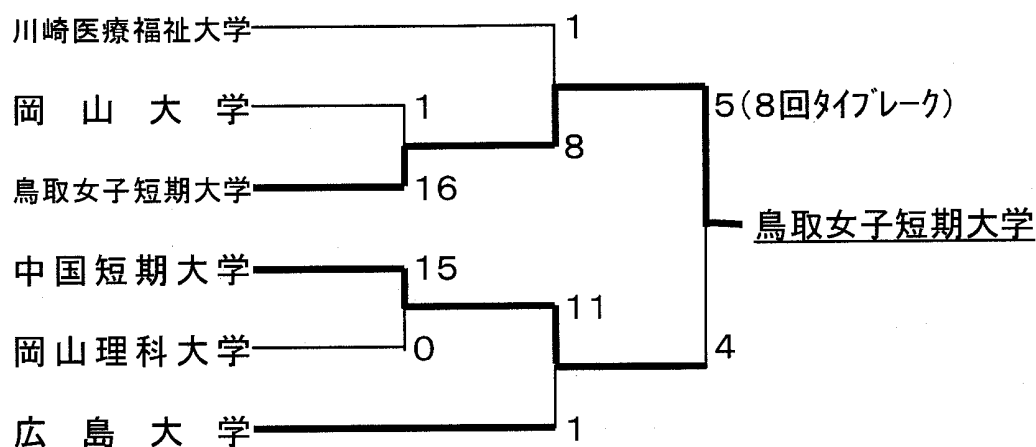
広島経済大学(広島県)

近畿大学工学部(広島県)

福山平成大学(広島県)

東亜大学(山口県)

<女子>



《出場権獲得チーム》

★全日本大学ソフトボール選手権大会(1チーム)

鳥取女子短期大学(鳥取県)

★西日本大学ソフトボール選手権大会(4チーム)

鳥取女子短期大学(鳥取県)

中国短期大学(岡山県)

川崎医療福祉大学(岡山県)

広島大学(広島県)

<総 評>

中国地区では、毎年梅雨入り後の大会開催となるため、天候が危ぶまれたが好天に恵まれ予定通り終了出来たことは、大変ラッキーであった。

大会は、男子11チーム、女子6チームの参加による、全日本大学、西日本大学への出場権を競うもので、本地区においては中国五県から一年に一度集う七夕大会である。

大会の結果は以上の通りであるが、今年は昨年度全日本大学に出場した3チームに変わり、男子は福山平成大学と岡山理科大学が、女子は昨年の雪辱を果たした鳥取女子短期大学が全日本の切符を手にした。その中でも、福山平成大学は創部4年の若いチームであるが、投・走攻守に長けたチームで、特に代表決定戦では劣勢を跳ね除けての勝利であったので、喜びも一入大きかったものと思われる。

第34回全日本大学ソフトボール選手権大会四国予選兼

第31回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選

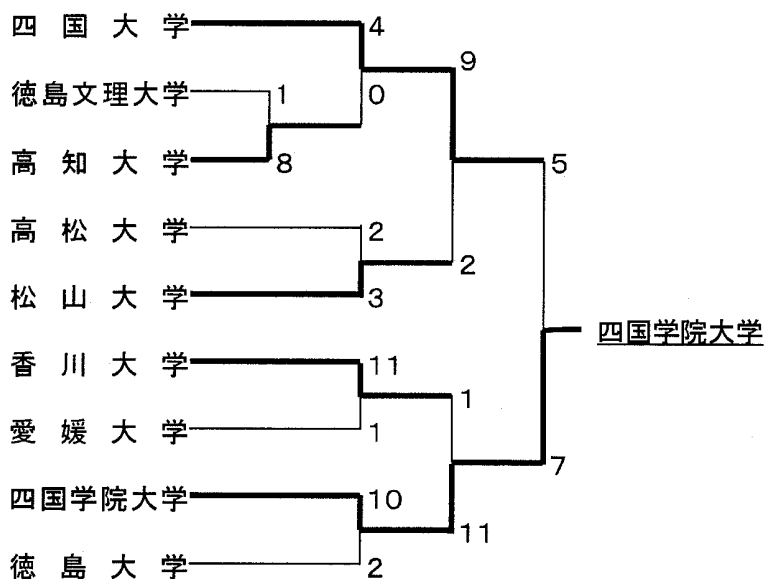
会 期：平成11年5月15日(土)、16日(日)

会 場：新居浜市

全日本大学ソフトボール連盟に、四国地区では昨年と同じ男子9チーム、女子8チームの登録されたが特に女子部員数の減少が激しく、折角登録されながら部員数不足から2チームが出場を断念したのは非常に残念である。また、部員数が確保できたチームも殆どがギリギリの部員数で、故障などで何時試合に出られないチームが現れるか心配である。

【試合結果】

<男子>



準決勝戦 戦評 (四国大学 vs 松山大学)

四国大学は1回表、松山大学水沼投手の立ち上がりを捉え1番西地・2番末包が連打して3番が送った後4番豊谷の中前打と6番竹本の二塁打などで4点を先取り、3回に敵失で1点、5回には4番豊谷の2点本塁打で試合を決めた。対する松山大学は2回に二死後6番秋山が死球で出塁・直ちに二盗して7番松下の右前打で1点、5回にも3番山下の二塁打で1点を返したが及ばなかった。

準決勝戦 戦評 (四国学院大学 vs 香川大学)

四国学院大学は1回裏1番岡が二塁打で出塁し、二死後4番松村の三・遊間安打と5番木下の二塁打で幸先よく2点を先取。2回にも2本の安打と四球で二死満塁のチャンスで3番西尾の走者一掃の二塁打で3点を追加する。3回には9番門田の満塁本塁打を含む2本塁打と2四死球・3本のヒットで6点を奪って5回コールド勝ちとする。対する香大は5回に内野ゴロの間に1点を返して完封を免れるのやっとならった。

決勝戦 戦評 (四国学院大学 vs 四国大学)

四国大学豊谷頭手に押さえられ敗色濃厚であった四国学院大学は、6回表疲れの出た豊谷投手に襲いかかり、一死後3四死球で満塁のチャンスを掴み、4番松村のレフトオーバーの本塁打と5・6番の短長打・敵失などで一挙6点を奪い逆転し、七回にも一点を加え松村投手の投打にわたる活躍で優勝する。対する四国大学は1・2回に安打の走者を盗塁・敵失などでそれぞれ1点ずつ奪い試合を優位に進めたが、最後に豊谷投手が四国学院打線に捕まり惜敗した。

＜女子＞

全日本大学ソフトボール連盟に8チーム登録されておりながら、2チームは部員数不足で試合に出場できず、3チームは部員数がギリギリで故障者が出たのと就職活動のため手が揃わず止む得ず棄権した。今まで最低の3チームだけの参加という淋しい大会になった。そのため3チームのリーグ戦で予選を行った。

	愛媛女短	香川大学	徳島大学	勝	敗	分	順位
愛媛女短		○ 3-0	○ 23-0	2	0	0	優勝
香川大学	● 0-3		○ 7-0	1	1	0	2
徳島大学	● 0-23	● 0-7		0	2	0	3

戦 評(香川大学 vs 徳島大学)

押し気味に試合を進めていた香川大学は、3回裏この回の先頭打者2番近藤が四球で出塁、次打者の二ゴロで二封されたが4番中村の左中間本塁打で2点を先取、続く5・6・7番が敵失と2四球で満塁のチャンスを掴み、二死後9番が押し出しの四球を選び続く1番田中・2番近藤の連続適時打が出てこの回6点を奪い、4回にも1点を加えてコールド勝ちする。対する徳島大学は香大山下投手の前に散発2安打に押さえられ完封負けを喫す。

戦 評(愛媛女子短大 vs 徳島大学)

愛媛女子短大は1回裏に10安打(2本塁打・1三塁打・6盗塁)とタイムリー敵失で14点を奪い試合を決めた。対する徳島大学は愛媛女短の両投手の絶妙なコーナーワークと緩急をつけた投球の前に二塁も踏めず完敗したが、部員僅か9名で矢野主将を中心として精一杯のプレーを見せて、ワンサイドゲームではあったが爽やかな試合を展開してくれ後味のよい試合であった。

戦 評(愛媛女子短大 vs 香川大学)

愛媛女子短大は2回裏、この回の先頭打者5番米須が内野安打で出塁して6番の送りバントの間に好走よく三塁を陥れ、香大捕手のパスボールで1点を先取。5回には敵失の走者を置いて3番大城のライト線を抜く本塁打で2点を追加して張・溪両投手の力投で完封勝ちとする。対する香川大学打線は愛媛の両投手の緩急をつけた投球に翻弄され完封負けを喫す。敗れはしたが、香川大学は選手層に力の差のある愛媛女子短大を相手に山下投手を中心によく健闘した。

この結果、愛媛女子短期大学が2戦2勝で優勝、香川大学が1勝1敗で準優勝、徳島大学が0勝2敗で第3位。

平成11年度四国地区大学（男・女）ソフトボール秋季大会

会 期：平成11年16・17日

会 場：香川県丸亀河川敷グラウンド

【試合結果】

<男子>

全日本大学ソフトボール連盟に加盟していない高知短大から秋季大会に是非参加させて欲しいとの申し出があり、協議の結果来年度より全日本大学連盟に加盟することを条件に参加を認める。尚、四国学院大学は大学行事の関係から出場辞退があり、9チームを3グループに分けて予選リーグを行い、各グループの1位グループと2位グループで順位決定リーグを行った。

(予選リーグ)

予 選 A	香 川 大	高 知 短	徳 島 大	勝	敗	分	順 位
香川大学		○ 14 x - 1	○ 11 - 2	2	0	0	1
高知短大	● 1 - 14 x		○ 6 - 2	1	1	0	2
徳島大学	● 2 - 11	● 2 - 6		0	2	0	3

予 選 B	四 国 大	高 松 大	愛 媛 大	勝	敗	分	順 位
四国大学		● 1 - 3	○ 11 x - 6	1	1	0	1
高松大学	○ 3 - 1		● 6 - 7 x	1	1	0	2
愛媛大学	● 6 - 11 x	○ 7 x - 6		1	1	0	3

* 3チーム同率のため得失点差によって順位を決定した。

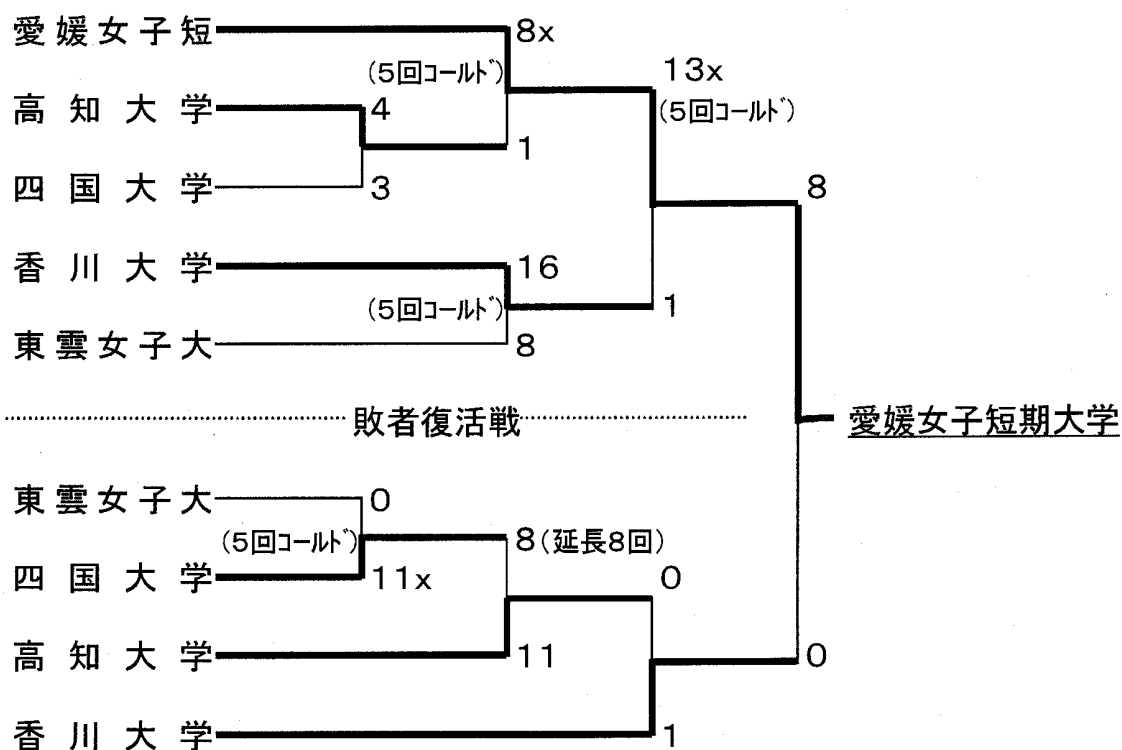
予 選 C	松 山 大	高 知 大	徳 島 文	勝	敗	分	順 位
松山大学		○ 2 - 0	○ 8 - 0	2	0	0	1
高知大学	● 0 - 2		○ 8 x - 1	1	1	0	2
徳島文理	● 0 - 8	● 1 - 8 x		0	2	0	3

(順位決定リーグ)

順位決定	松山大	香川大	四国大	勝	敗	分	順位
松山大学		○ 8 x - 6	○ 3 - 2	2	0	0	優勝
香川大学	● 6 - 8 x		○ 4 - 1	1	1	0	2
四国大学	● 2 - 3	● 1 - 4		0	2	0	3

順位決定	高知大	高知短	高松大	勝	敗	分	順位
高知大学		○ 5 x - 3	○ 9 x - 2	2	0	0	4
高知短大	● 3 - 5 x		○ 4 - 1	1	1	0	5
高松大学	● 2 - 9 x	● 1 - 4		0	2	0	6

<女子>



【総括】

今年度最後の大会である秋季大会は両日共好天に恵まれ、随所で好プレー・好試合が見られて有終の美を飾ることができた。男子では1～5位は力の差は余り感じられなかった。冬季の基礎体力トレーニングに精進して、さらに強力なチームづくりに励んでもらいたい。

女子は愛媛女子短大が実力的にも一歩も二歩も抜き出ている。しかし、目の前に大きな目標があるのだから、他のチームも愛媛女子短大に少しでも近づき・追い越すよう頑張ってもらいたい。

第19回九州地区大学男子・女子ソフトボール大会

(兼第34回全日本大学男子・女子ソフトボール選手権大会予選)

主 催： 九州ソフトボール協会・九州地区大学ソフトボール連盟

主 管： 鹿児島県ソフトボール協会・南薩支部ソフトボール協会

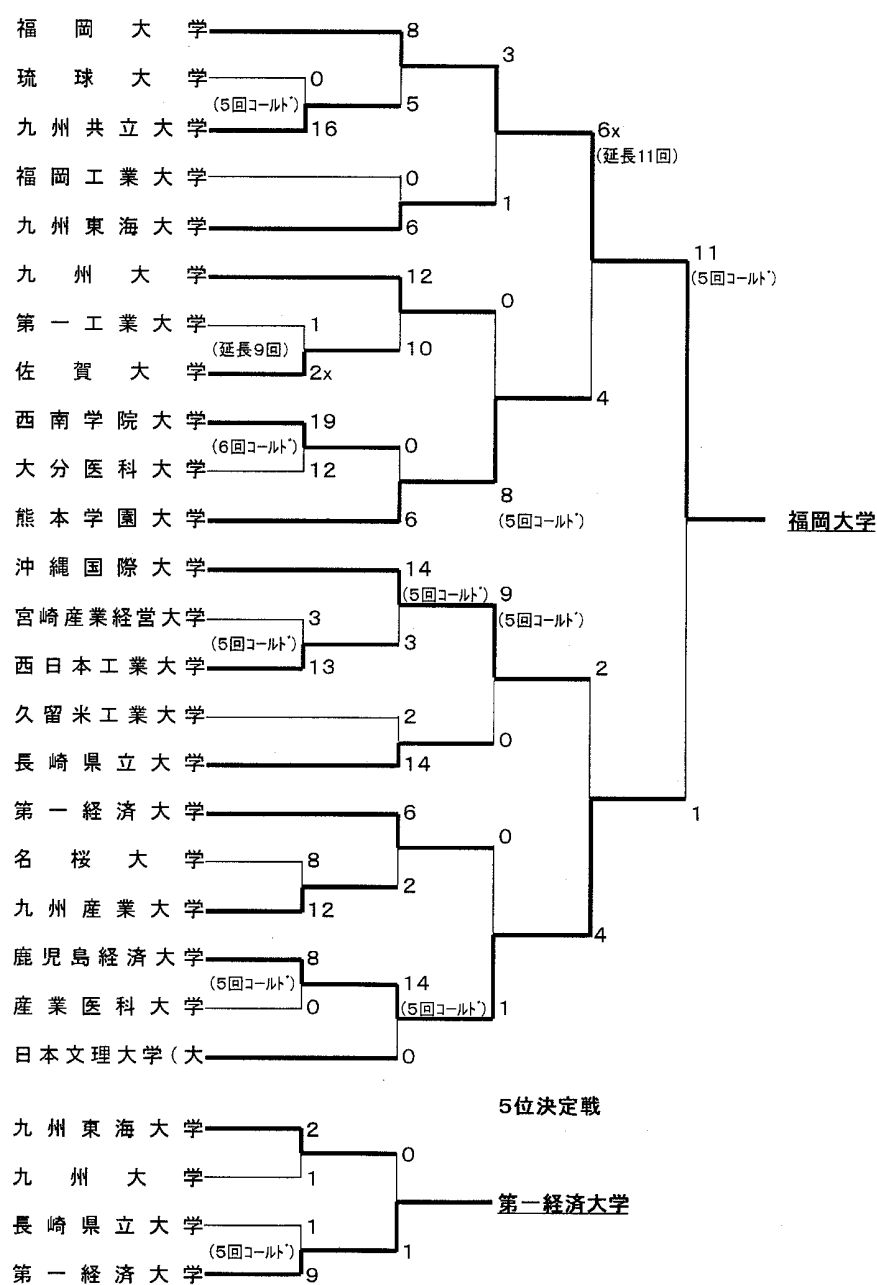
後 援： 鹿児島県教育委員会・鹿児島県体育協会・知覧町教育委員会
知覧町県体育協会・南日本新聞社

会 期： 平成11年5月15日(土)・16日(火)

会 場： 知覧町・平和公園多目的球場他

【試合結果】

<男子>



<女子>

	九州女子	沖縄国際	福岡大学	勝	敗	分	順位
九州女子		○ 9-7	○ 4-1	2	0	0	優勝
沖縄国際	● 7-9		○ 6-4	1	1	0	2
福岡大学	● 1-4	● 4-6		0	2	0	3

平成11年度九州地区大学ソフトボール大会は 15・16 日の両日、川辺郡知覧町の知覧町平和公園多目的球場で行われ、九州各県から男子 22、女子3チームが出場して熱戦が展開された。本県勢では、男子の鹿児島経大、第一工大が出場。鹿経大は決勝まで勝ち進み、福岡大(福岡)と対戦したが、序盤から大量失点を喫し、惜しくも準優勝に終わった。女子は3チーム総当たりのリーグ戦が行われ、九州女大(福岡)が全勝して3年連続6回目の栄冠に輝いた。

男子の5位までと女子の1位は8月7・8・9日に宮城県矢本町で行われる全国大会に出場する。

全国大会出場チーム

<男子>

1位 福岡大学

2位 鹿児島経済大学

3位 熊本学園大学

3位 沖縄国際大学

5位 第一経済大学

<女子>

1位 九州女子大学

全日本大学ソフトボール連盟役員名簿
平成11・12・13年度

	氏 名	(上)自宅住所 (下)勤務先	電 話	FAX
会 長	大内 敬哉	〔自〕〒471-0066豊田市栄町4-5-17	0565-33-1701	
		〔勤〕 中京大学	0565-45-0971	0565-46-1297
副 会 長	一谷 宣宏	〔自〕〒651-2113神戸市西区伊川谷有瀬77-3	078-974-6212	
		〔勤〕 学校法人園田学園理事長・園田学園女子大学学長	06 -427-7848	06 -427-7250
副 会 長	斎藤 滋雄	〔自〕〒171-0031東京都豊島区目白1-2-8-305	03-3983-4042	
		〔勤〕 学習院大学	03-3971-8989	03-5992-9306
顧 問	坂井 正郎	〔自〕〒214-0037川崎市多摩区西生田5-14-21	044-966-7340	
		〔勤〕 国土舘大学名誉教授・評議員	03-5996-3611	
顧 問	角田真一郎	〔自〕〒154-0021東京都世田谷区豪徳寺2-19-16	03-3428-0150	
		〔勤〕		
顧 問	水野 信義	〔自〕〒737-0045呉市本通4丁目10-8ハナリウホ 呉本通1202	0823-22-5946	
		〔勤〕		
理 事 長	末井 健作	〔自〕〒678-0175赤穂市北野中472-106	07914-8-8706	
		〔勤〕 姫路工業大学	0792-92-1515	0792-93-5710
副理事長 常任理事	小川 幸三	〔自〕〒216-0031川崎市宮前区神木本町3-1-13	044-865-7217	
		〔勤〕 日本体育大学	03-5706-0925	03-5706-0912
副理事長 常任理事	水谷 博	〔自〕〒461-0004名古屋市東区葵3丁目7-20～1201	052-933-1154	052-933-1154
		〔勤〕 中京女子大学	0562-46-1291	0562-44-0310
常任理事	大和田 寛	〔自〕〒980-0853仙台市青葉区川内大工町35	022-265-8778	
		〔勤〕 仙台大学	0224-55-1121	0224-57-2769
常任理事	高橋 伸次	〔自〕〒370-1201高崎市倉賀野町1274-13	027-346-1219	
		〔勤〕 高崎経済大学	027-344-7517	027-343-4830
常任理事	黒田 重靖	〔自〕〒930-0200中新川郡立山町下米沢25	0764-63-1822	
		〔勤〕 富山大学	0764-41-1271	0764-45-6703
常任理事	森田 啓之	〔自〕〒675-1324小野市育ヶ丘1480-344	0794-62-4962	
		〔勤〕 兵庫教育大学	0795-44-2227	0795-44-2227

	氏 名	(上)自宅住所 (下)勤務先	電 話	FAX
常任理事	久保田豊司	〔自〕〒534-0027大阪市都島区中野町4-17-23 〔勤〕 大阪国際女子大学	06-6351-4828 06-6902-0791	 06-6902-8894
常任理事	逢坂 秀樹	〔自〕〒689-3201西伯郡名和町豊成162-2 〔勤〕 鳥取女子短期大学	030-170-2455 0858-26-1811	 0858-26-1813
常任理事	川田 健司	〔自〕〒761-8064高松市上之町2丁目7-5 〔勤〕 徳島文理大学	087-865-5974 087-894-5111	 087-894-8556
常任理事	原口 和之	〔自〕〒811-3213宗像郡福岡町2642-1-502 〔勤〕 九州女子大学	0940-42-1038 093-693-3349	 093-693-3349
事務局長 理 事	中野 紀明	〔自〕〒229-1101相模原市相原3-1-14 〔勤〕 国土館大学	0427-73-9023 0427-36-2324	 0427-36-5481
理 事	小嶋 高良	〔自〕〒031-0071八戸市沼館1-7-19 〔勤〕 八戸工業大学	0178-45-7268 0178-25-3111	 0178-25-2008
理 事	飯島 隆	〔自〕〒020-0066盛岡市上田1丁目16-3 〔勤〕 盛岡大学	0196-23-7527 0196-88-5555	
理 事	松永 尚久	〔自〕〒257-0002秦野市鶴巻南5-8-4-111 〔勤〕 東海大学	0463-78-6323 0463-50-2220	 0463-59-6180
理 事	武藤 幸政	〔自〕〒354-0041埼玉県入間郡三芳町藤久保541-11 ハレムみずほ台613号 〔勤〕 城西大学	0492-59-6994 0492-71-7971	 0492-71-7971
理 事	岡田 万嗣	〔自〕〒400-0026甲府市塩郡3-9-7 〔勤〕 山梨学院大学	0552-52-8132 055-224-1362	 055-224-1387
理 事	野口 周一	〔自〕〒370-0046高崎市江木町501-1 〔勤〕 新島学園女子短期大学	027-323-9467 027-326-1155	 027-324-1444
理 事	青木 真	〔自〕〒943-0847上越市南新町1-10-404 〔勤〕 上越教育大学	0255-22-3624 0255-22-2411	
理 事	吉野みね子	〔自〕〒270-0176流山市加867-1A'-ｸﾞｲｯﾄﾞﾎｰﾑ709 〔勤〕 東京女子体育大学	0471-58-7766 0425-72-4131	 0425-76-2397

	氏 名	(上)自宅住所 (下)勤務先	電 話	FAX
理 事	笠原 敏裕	〔自〕〒171-0021豊島区西池袋4-29-9ア'ビルミ-N205	03-5995-3026	
		〔勤〕学習院大学	03-3971-8989	
理 事	矢澤 久史	〔自〕〒504-0002各務原市尾崎北町3丁目118-1	0583-83-0485	
		〔勤〕東海女子大学	0583-89-2200	0583-89-2205
理 事	山本 英弘	〔自〕〒481-0004西春日井郡師勝町大字鹿田字神明附114-1	0568-21-285	
		〔勤〕朝日大学	058-326-6131	058-329-1096
理 事	青井 誠	〔自〕〒463-0004名古屋市守山区吉根太鼓ヶ根3239-47 マンション城土501		
		〔勤〕名古屋明德短期大学	052-601-6000	052-601-6010
理 事	宇田 雅宏	〔自〕〒470-0372豊田市井上町2-44-7ステップ 5-205	0565-46-2065	
		〔勤〕中京大学	0565-45-0971	0565-46-1297
理 事	乾 多慶士	〔自〕〒669-1412三田市木器1527-5	0795-69-1159	
		〔勤〕園田学園女子大学	06-6429-1201	06-6422-8523
理 事	児玉 公正	〔自〕〒583-0996南河内郡太子町聖和台2-1-2	0795-69-0057	
		〔勤〕大谷女子大学	0721-24-0381	0721-24-5741
理 事	中村 哲士	〔自〕〒658-0022神戸市東灘区深江南町4-12-6-601	078-413-1587	
		〔勤〕武庫川女子大学	0798-47-1212	
理 事	萩尾 健甫	〔自〕〒731-5135広島市佐伯区海老園2-19-18	0829-23-6899	
		〔勤〕広島修道大学	082-848-2121	082-848-2765
理 事	小林 宏行	〔自〕〒666-0112川西市大和西3-21-9	0727-94-8211	
		〔勤〕岡山理科大学	086-252-3161	
理 事	藤本 賢一	〔自〕〒779-3234徳島県名西郡石井町字白鳥167-10	0886-74-6384	
		〔勤〕四国大学	0886-65-1300	0886-65-8037
理 事	宮林 達也	〔自〕〒862-0932熊本市長嶺町3058-28	096-381-7880	
		〔勤〕熊本学園大学	096-364-5161	
理 事	吉末 和也	〔自〕〒591-8037堺市赤畑町5丁目584-11	0722-54-8287	
		〔勤〕園田学園女子大学	06-6429-9645	06-6422-8523

	氏 名	(上)自宅住所 (下)勤務先	電 話	FAX
評 議 員	吉武 敦磨	〔自〕〒334-0002鳩ヶ谷市本町4-1-15-414	048-281-2659	048-281-2659
		〔勤〕 芝浦工業大学	048-687-5041	048-687-5041
評 議 員	鈴木 昭寿	〔自〕 229-0003相模原市東淵野辺4-14-23-409	0427-59-3422	
		〔勤〕 東海大学	0463-58-1211	0463-50-2056
評 議 員	丸山 克俊	〔自〕 〒301-0043竜ヶ崎市の松葉3-7-21	0297-66-3781	0297-66-3781
		〔勤〕 東京理科大学	0471-24-4310	0471-24-4310
評 議 員	友坂 敏信	〔自〕 〒939-2716婦負郡中町下轡田4-4	0764-65-5803	
		〔勤〕 富山大学		
評 議 員	後田 忠勝	〔自〕 〒448-0007刈谷市東境町昭山3-5	0556-36-3184	
		〔勤〕 名古屋明德短期大学	052-601-6000	052-601-6010
評 議 員	佐多 直温	〔自〕 〒441-8157豊橋市上野町字上原28-4	0532-46-2997	
		〔勤〕 愛知大学	0532-47-4118	
評 議 員	秦 真人	〔自〕 〒458-0828名古屋市緑区鳴門町姥子山83ヶ所-77ス 姥子山301	052-624-7029	
		〔勤〕 愛知学泉大学	0564-34-1212	0564-34-1270
評 議 員	廣田 真史	〔自〕 〒467-0065名古屋市瑞穂区松園町1-55-3	052-654-6761	
		〔勤〕 名古屋大学	052-781-5111	
評 議 員	但尾 哲哉	〔自〕 〒572-0029寝屋川市寿町44-3	0720-34-4545	
		〔勤〕 神戸親和女子大学	078-591-3649	078-591-3113
評 議 員	真来 省二	〔自〕 〒662-0071西宮市桜町1-40	0798-71-5681	
		〔勤〕 大阪府立大学	0722-52-1161	
評 議 員	土倉 完爾	〔自〕 〒565-0824吹田市山田西2-8-A3-204	06-6876-6302	
		〔勤〕 関西大学	06-6368-1121	
評 議 員	松村 新也	〔自〕 〒593-8329堺市下田町23-10-205	0722-62-9706	
		〔勤〕 大阪体育大学	0724-53-8846	
評 議 員	長澤 幸一	〔自〕 〒751-0806下関市一の宮町3-6-56	0832-56-0274	
		〔勤〕 東亜大学	0832-56-1111	

	氏 名	(上)自宅住所 (下)勤務先	電 話	FAX
評 議 員	山本 孔一	〔自〕〒798-0026宇和島市泉町3-1-43-201	0895-22-2969	
		〔勤〕愛媛女子短期大学	0895-22-7279	0895-22-7857
評 議 員	荒牧昭二郎	〔自〕〒862-0928熊本市長嶺南1-7-69	096-382-0790	
		〔勤〕九州東海大学	096-382-1141	
評 議 員	新垣 寛	〔自〕〒904-0323中頭郡読谷村字高志保1252-1	098-958-4833	
		〔勤〕沖縄国際大学	098-892-1111	098-893-3273
監 事	藤井 立三	〔自〕〒183-0057府中市晴見町2-10-22	0423-68-7756	
		〔勤〕明星大学	042-591-5039	
監 事	平野 義明	〔自〕〒617-0814長岡京市今里4-10-4	075-951-2608	
		〔勤〕大阪工業大学	06-6954-4274	06-6957-2135

事 務 局	〒670-0092 姫路市新在家本町1-1-12 姫路工業大学 環境人間学部	TEL 0792-92-1515 FAX 0792-93-5710 E-mail suei@hept.himeji-tech.ac.jp
-------	---	---

平成11年度 加盟大学一覧

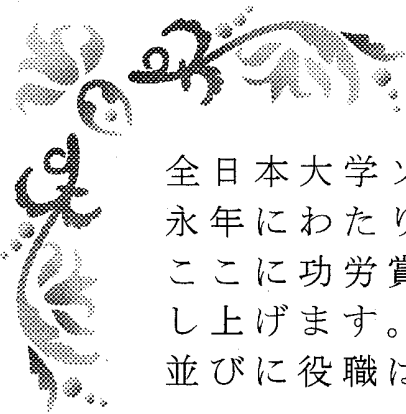
(男子)

全日本大学ソフトボール連盟

地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	9	八戸工業大学 仙台大学 盛岡大学 福島大学 東北大学 宮城教育大学 日本大学工学部 弘前大学 八戸大学
関 東	21	都留文科大学 山梨学院大学 茨城大学 高崎経済大学 日本大学生物資源科学部 群馬大学 芝浦工業大学 城西大学 獨協大学 千葉大学 東京理科大学 埼玉大学 東海大学 国際武道大学 筑波大学 明海大学 関東学園大学 流通経済大学 東京国際大学 文教大学 中央学院大学
北 信 越	7	長野大学 信州大学 富山大学 福井大学 富山国際大学 金沢大学 福井県立大学
東 京	24	日本体育大学 国士舘大学 早稲田大学 学習院大学 東京学芸大学 中央大学 東京大学 明治大学 東洋大学 慶應義塾大学 専修大学 日本歯科大学 東京経済大学 帝京大学 桜美林大学 日本大学 成蹊大学 杏林大学 武蔵工業大学 一橋大学 国際基督教大学 明星大学 東京農業大学 文教大学国際情報学部
東 海	14	中京大学 名古屋大学 愛知大学 愛知学院大学 南山大学 愛知教育大学 常葉学園大学 名城大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 岐阜経済大学 朝日大学 日本福祉大学 愛知みずほ大学
近 畿	24	京都産業大学 同志社大学 京都大学 関西大学 立命館大学 奈良教育大学 龍谷大学 大阪大学 仏教大学 大阪市立大学 桃山学院大学 神戸大学 関西学院大学 四天王寺国際仏教大学 大阪工業大学 大阪府立大学 和歌山大学 神戸学院大学 大阪経済法科大学 姫路工業大学 兵庫教育大学 京都学園大学 姫路獨協大学 近畿大学和歌山
中 国	12	広島修道大学 広島経済大学 広島大学 岡山大学 岡山理科大学 東亜大学 島根大学 広島工業大学 岡山商科大学 近畿大学 広島県立大学 鳥取大学
四 国	9	四国学院大学 香川大学 徳島大学 愛媛大学 松山大学 高知大学 四国大学 徳島文理大学 高松大学
九 州	24	福岡大学 九州産業大学 九州大学 西南学院大学 産業医科大学 熊本大学 第一経済大学 佐賀大学 九州東海大学 熊本学園大学 琉球大学 長崎大学 沖縄国際大学 日本文理大学 福岡工業大学 第一工業大学 大分医科大学 西日本工業大学 鹿児島経済大学 宮崎産業経営大学 九州共立大学 長崎県立大学 久留米工業大学 名桜大学

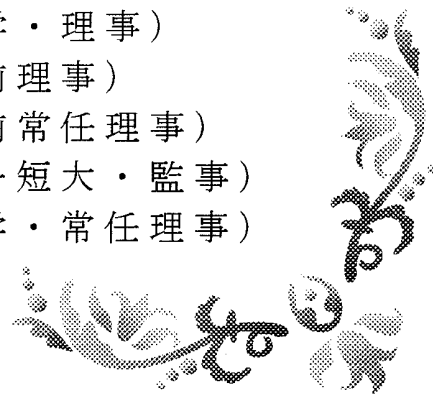
(女子)		
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	6	仙台大学 盛岡大学 宮城教育大学 北海道女子短期大学 盛岡大学短期大学部 弘前大学
関 東	12	都留文科大学 文教大学 埼玉大学 相模女子大学 東海大学 千葉大学 筑波大学 日本大学生物資源科学部 新島学園女子短期大学 順天堂大学 淑徳大学 千葉経済大学短期大学部
北 信 越	5	長野大学 信州大学 富山大学 金沢大学 上越教育大学
東 京	14	日本体育大学 東京女子体育大学 日本女子体育大学 東京学芸大学 中央大学 学習院大学 国士舘大学 早稲田大学 日本女子大学 桜美林大学 専修大学 日本大学 創価大学 明星大学
東 海	12	中京大学 中京女子大学 静岡大学 常葉学園大学 岐阜聖徳学園大学 南山大学 名古屋大学 愛知教育大学 愛知学泉大学 東海女子大学 桜花学園大学 名古屋明德短期大学
近 畿	19	園田学園女子大学 武庫川女子大学 立命館大学 大阪体育大学 神戸大学 龍谷大学 大阪国際女子大学 大谷女子大学 京都薬科大学 仏教大学 兵庫教育大学 大阪成蹊女子短期大学 神戸親和女子大学 奈良教育大学 京都女子大学 関西外国語大学 大阪府立大学 同志社大学 四天王寺国際仏教大学
中 国	7	広島大学 岡山大学 岡山理科大学 鳥取女子短期大学 中国短期大学 川崎医療福祉大学 徳山女子短期大学
四 国	8	四国学院大学 香川大学 徳島大学 松山東雲女子短期大学 高知大学 四国大学 徳島文理大学 愛媛女子短期大学
九 州	3	福岡大学 九州女子大学 沖縄国際大学
男 子 144大学 女 子 86大学 合 計 230大学		

平成11年7月13日現在



全日本大学ソフトボール連盟の役員として
永年にわたり連盟の運営にご尽力を賜り、
ここに功労賞を受賞された方々をご紹介します。
（順不同・敬称略・所属大学
並びに役職は受賞時のもの）

水野信義（日本大学・前理事長）
後藤静夫（相模女子大学・理事）
渡邊 功（静岡大学・前理事）
山内真二（中京大学・前常任理事）
中村恒雄（PL学園女子短大・監事）
萩尾健甫（広島修道大学・常任理事）



表紙デザイン・写真・カット等の募集

ウインドミルの誌面を飾るものを次の要領で募集します。ご応募ください。

1. 全日本大学ソフトボール連盟の事業を表すのにふさわしい作品
2. 優秀な作品は、ウインドミルに掲載し、氏名を発表します。
3. 応募資格は、連盟加盟大学の学生に限ります。
4. 作品は未発表のものに限り、著作権は連盟に帰属します。
5. 締切は、毎年11月末日です。
6. 送付・問い合わせ先

〒474-0011 愛知県大府市横根町名高山55 中京女子大学 水谷 博
FAX (0562) 44-0310 渉外課気付
E-mail mztm@chujo-u.ac.jp

表紙写真：クロスプレー

撮 影：杉本 旭 (〒471-0035 愛知県豊田市小坂町8-80)

編 集 後 記

ウインドミル第3号を発刊することができました。大学教員をしていると、いろいろな文書に触れるのですが、先日、ウインドミル第2号のコピーをある機会に公式な資料として添付されているのを見ました。ああ、こんな使われ方もあるのだと逆に驚かされてしまいました。責任の重大さを改めて思い知らされたわけです。編集も3回目になるとついつい慣れが出てしまい、それに伴って新鮮さが失われてしまったようにも思います。それにしても、今回も誌面の不統一さが目に付きました。一度も編集会議を開かず、ほとんどE-mailでのファイルのやりとりで作業をしているので、このようになってしまったのですが、次号からは、いっそう読みやすい誌面構成にしていきたいと思っています。それが、日本におけるソフトボール発展の一助になれば幸いです。お力添えをお願い申し上げます。

広報記録委員会：水谷 博（中京女子大学）・山本英弘（朝日大学）

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 ウインドミル 第3号

1999年12月25日発行

発行者 全日本大学ソフトボール連盟 会長 大内 敬哉

編集責任者 広報記録委員長 水谷 博

E-mail: mztn@chujo-u.ac.jp

発行所 全日本大学ソフトボール連盟

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12

姫路工業大学気付

FAX (0792) 93-5710

E-mail: suei@hept.himeji-tech.ac.jp

印刷 西濃印刷(株)

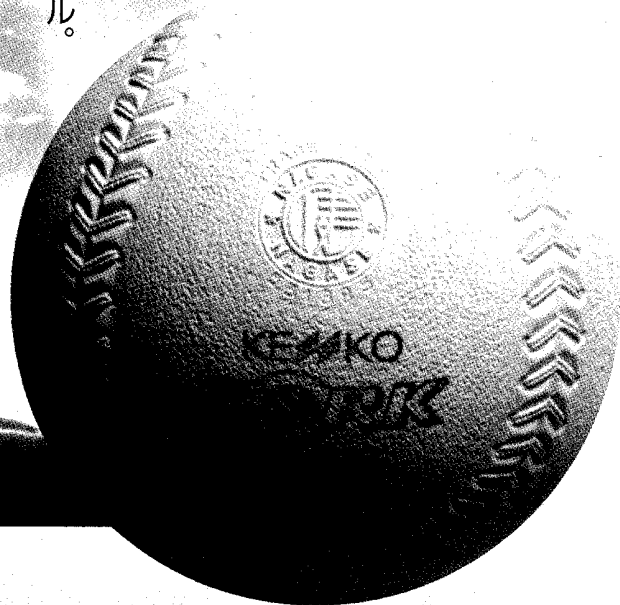
〒451-0073 名古屋市西区浄心本通3-45

TEL (052) 524-5611

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X

やった、 サヨナラ打。

きのうとは、見違えるような打球。
同点で迎えたツーアウト三塁。
打球が、右中間を
真つづに分けて飛んでいった。
ひそかに練習をした、流し打ち。
青春をありがとう、ケンコーソフトボール。



KENKO SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 ケンコーソフトボール・コルク芯3号

●コルク芯1号・2号・3号・3号イエロー ●カボック芯1号・2号・3号・3号イエロー ●革製コルク芯3号 ●14インチスローピッチカボック芯 ●グリーンソフトボールカボック芯12インチ・14インチ

ナガセケンコー株式会社



グラコンZ

ダイヤモンドのプレーヤーにとって大切なこと——
それは試合中だけでなく、ゲームの前後も温めておくこと。
情熱はいつもZETTから。
グラウンドコートが身も心も熱くする・・・



●掲載のゼットプロスタッフは、向かって左から川上憲伸（ドラゴンズ）、古田敦也（スワローズ）、大友進（ライオンズ）です。

〒543-8601 大阪市天王寺区烏ヶ辻1丁目2番16号 ゼット株式会社ベースボール事業部 本社TEL.06(6779)6865 東京店TEL.03(5687)8605





ウインドミル No.3 (1999)

ISSN 1343-439X